# 岩手大学グローバル教育センター・
# 国際連携室報告 vol. 3 (2017)

岩手大学グローバル教育センター・国際連携室
2018 年 8 月

# 目次


―グローバル教育センター 業務報告―

―教育業務報告―

日本語教育(国際教育科目・共通教育・教養科目)(松岡) 5

夏期休暇および個別日本語学習支援(日本語補講)(松岡) 11

全学共通教育・教養科目

日本事情 13

多文化コミュニケーション A・B 13

現代の諸問題 14

初年次ゼミナール 14

地域と国際社会 15

英語で学ぶ生け花(いけばな B) 15

国際研修 SCIP:フィリピン 17

国際研修 SCIP:北欧 22

国際研修 SCIP:台湾 25

課題設定型研修:平泉 27

課題設定型研修:三陸 28

国際教育科目

国際協力・開発援助論 29

国際講義 Global Studies 29

Iwate Studies A B 30

Japanese Histroy A B 31

Comperative Japanese History A B 31

Japanese Traditional Culture A (いけばな A) 32

グローバリゼーションと世界 32

多文化社会論 33

短期留学生・日本語日本文化研修留学生個別研究 34

北東北国立3大学合同合宿研修会 36

デ・ラ・サール大学(フィリピン)英語研修 38

国際ボランティア in 陸前高田 40

海外研修「カリフォルニア・イノベーション研修」「グローバル・プロ養成プログラム」 41

米国アーラム大学サイスプログラム関連事業 42

平成 29 年度 新入生オリエンテーション 43

海外留学支援事業 46
多言語多文化交流空間 Global Village 48
IHATOVO グローバルコース 56
グローバルシンポジウム：奨学金という名の借金 58
―地域支援・地域連携業務報告―
地域日本語教育支援事業 62
平成 29 年度 岩手県留学生交流推進協議会事業 65
地域への支援事業（English Camp） 69
「留学生と市民のガーデンパーティー～世界の屋台村～」実施 71
高大連携ウィンターセッション 72
日本留学フェア及び外国人学生のための進学説明会等 73

―国際連携室 業務報告―
岩手大学国際戦略推進体制及び各プロジェクトについて 88
平成 29 年度 第2回カナダ・サスカチュワン大学教員によるアクティブ・ラーニング
短期集中研修開催実施報告 94
平成 29 年度 岩手大学教員海外派遣事業 96
UURR プロジェクト―平成 29 年度事業― 99
平成 29 年度 岩手大学における国際交流に伴う危機管理体制構築に関する取組 103
外国人留学生 OB・OG 等との懇談会 105
平成 29 年度トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム地域人材コース
「いわて協創グローカル人材育成プログラム」 107

―資料―
国際連携・国際教育関連組織図
外国の大学との交流 Academic Cooperation between Universities/Faculties
岩手大学教員海外派遣事業実施要項（別紙）
平成 29 年度 留学生関係行事
平成 29 年度 海外学生受け入れ・派遣実績
岩手大学海外派遣・留学プログラム一覧（短期研修・研究型）
岩手大学留学生数（平成29年5月1日 現在）
岩手大学留学生数（平成29年11月1日 現在）
岩手大学外国人留学生地域派遣実績一覧
トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム岩手大学採用状況

# ―グローバル教育センター業務報告―

# ―教育業務報告―

# 日本語教育

## 1. 概要

グローバル教育センターでは、本学の留学生を主な対象として、1）大学院入学前予備教育日本語研修コース、2）国際教育科目日本語科目、3）教養教育外国語科目日本語科目、の3種の日本語教育科目を前後期それぞれ提供している。

日本語研修コースは月曜日から金曜日まで週 5 日11コマの初級レベル集中コースである。国際教育科目は、初級Ⅰ3コマ、初級Ⅱ4コマ、中級Ⅰ6コマ、中級Ⅱ6コマ、上級2コマの5レベル、計21コマの授業を実施している。教養教育日本語科目では、上級レベル5コマの授業を提供している。国際教育科目は交換留学生、教養教育科目は正規留学生および交換留学生に対して単位付与する。また、平成29年度から、大学院の改組に伴い、大学院生はいずれかの科目を受講することで「アカデミック日本語」として単位付与されることになった。なお、定員に余裕がある場合は、研究生、研究員、岩手県立大学の留学生、岩手大学の外国人留学生・研究員の家族の受講も認めている。

## 2. 受講の手順

受講者は、オンラインプレースメントテスト受験と、オリエンテーションへの参加が義務づけられている。オリエンテーションは、英語（通訳者：グローバル教育センター尾中教員）、中国語（国際課：崔職員）の通訳を介し、講義の概要、受講方法等の説明を行う。

＜前期＞　4月 6 日(木) 11:00-12:00　学生センターB 棟多目的室　参加者　60 名
＜後期＞　9月26 日(火) 14:00－15:00　学生センターA 棟 G19　参加者　65 名

## 3. 授業概要

### 3.1 開講クラス

＜日本語研修コース＞

日本語研修コースは、文部科学省国費留学入学前予備教育および国際教育科目を兼ねている。1 学期あたりの総学習時間は 340 単位時間である。教科書は、『A New Approach to Elementary Japanese』(くろしお出版) の Vol.1,2 と、『ひとりで学べるひらがな・カタカナ』(スリーエーネットワーク) を使用した。受講者数は、前期 9 名（うち交換留学生 3 学名、大学院生・研究生3名、家族2名、岩手県立大学院生 1 名）、後期 9 名（うち大学院入学前予備教育日本語研修生 2 名、教員研修留学生 2 名、交換留学生 3 名、研究生 1 名、SICE引率教員 1 名）である。授業スケジュール、担当者は以下の通りである。

| | （月） | （火） | （水） | （木） | （金） |
|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ(9:00-10:30) | 総合(坂本) | 総合(松林) | コミュニケーション(松岡) | 総合(坂本) | 総合(松林) |
| Ⅱ(:30-12:00) | 総合(坂本) | 総合(松林) | コミュニケーション(松岡) | 総合(坂本) | 総合(松林) |
| Ⅲ(13:00-14:00) | | 漢字(坂本) | | 漢字(松林) | |

＜国際教育科目日本語科目＞

国際教育科目日本語科目は前後期に各 15 週実施した。 授業の概要、教材、担当者は以下の通りである。

◎初級日本語Ⅰ（初修者対象）

| 科目名 | 内　容 | 時間 | 担当 |
|---|---|---|---|
| 文 法 | 初歩的な文法、語彙等の学習。<br>テキスト:『NIHONGO FUN & EASY』(アスク) | 水<br>8:40-10:10 | 加藤 |
| 読 解 | かな、簡単な漢字の読み、および簡単な文章読解の学習。テキスト:ハンドアウト | 金<br>10:30-12:00 | 大高 |
| 会 話 | 日常生活で使う挨拶や簡単な会話学習。<br>テキスト:『NIHONGO FUN & EASY』(アスク) | 水<br>10:30-12:00 | 大高 |

◎初級日本語Ⅱ（150 時間程度学習した人対象。日本語能力試験 N4レベル）

| 科目名 | 内　容 | 時間 | 担当 |
|---|---|---|---|
| 文 法 | 初級後半の文法学習。<br>テキスト:『げんきⅡ』(The Japan Times) | 月<br>8:40-12:00 | 大高 |
| 会 話 | 日常生活に役立つやや長いやり取りの会話学習。テキスト:『げんきⅡ』(The Japan Times)ほか | 木<br>10:30-12:00 | 佐藤 |
| 漢 字 | 漢字300 字程度学習。<br>テキスト:『げんきⅡ』(The Japan Times) | 木<br>8:40-10:10 | 大畑 |

◎中級日本語Ⅰ（300 時間程度学習した人対象。日本語能力試験 N3レベル）

| 科目名 | 内　容 | 時間 | 担当 |
|---|---|---|---|
| 文法 | 初級レベルの復習、および中級前半レベルの文法学習。 テキスト:短期集中初級日本語文法総まとめポイント 20』、『中級日本語文法整理ポイント 20』(スリーエーネットワーク) | 月・木<br>8:40-10:10 | 松岡 |
| 会 話 | 日常生活や大学生活に必要な基礎的な会話学習。<br>テキスト:『聞いて覚える話し方－日本語生中継初中級1』(アルク) | 月<br>10:30-12:00 | 加藤 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 読　解 | アカデミック文章の基礎読解学習。テキスト:『大学・大学院留学生の日本語1読解編』(アルク) | 火　TUE<br>14:45-16:15 | 松林 |
| 作　文 | アカデミック文章作成基礎学習。テキスト:『大学・大学院留学生の日本語1作文編』(アルク) | 火　TUE<br>10:30-12:00 | 坂本 |
| 漢　字 | 中級前半レベルの漢字300字程度学習。テキスト:オンライン自作教材 | 木　THU<br>10:30-12:00 | 松林 |

◎中級日本語Ⅱ(450時間程度学習した人対象。日本語能力試験N2レベル)

| 科目名 | 内　容 | 時間 | 担当 |
|---|---|---|---|
| 会　話 | 大学生活(研究室、授業等)に必要なやや高度な日本語の会話学習。<br>テキスト:『聞いて覚える話し方日本語生中継中上級編』(くろしお出版) | 月　8:40-<br>10:10 | 加藤 |
| 読　解 | やや高度なアカデミックな文章の読解学習。<br>テキスト:『留学生のための読解トレーニング』(凡人社) | 金<br>13:00-14:30 | 大高 |
| 文　法 | 日本語能力試験N2程度の文法学習。テキスト:『中級日本語文法整理ポイント20』(スリーエーネットワーク) | 水<br>10:30-12:00 | 加藤 |
| 作　文 | やや高度な文章作成方法学習。<br>テキスト:ハンドアウト | 火　TUE<br>13:00-14:30 | 加藤 |
| 漢　字 | 大学の学習、研究に役立つ漢字・語彙学習。テキスト:ハンドアウト | 水　WED<br>13:00-14:30 | 大高 |
| アカデミック日本語 | 日本語能力試験N2対策学習。テキスト:『耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2』(アルク) | 木　14:45-<br>16:15 | 松林 |

◎上級日本語　(600時間程度学習した人対象。日本語能力試験N1レベル以上)

| 科目名 | 内　容 | 時間 | 担当 |
|---|---|---|---|
| ビジネス日本語 | 600 時間程度以上学習した人が対象。仕事で使う日本語表現学習。テキスト:『日本企業への就職－ビジネスマナーと基本のことば』(アスク) | 月 MON<br>13:00-14:30 | 坂本 |
| アカデミック日本語 | 600時間程度以上学習した人が対象。日本語能力試験N1対策学習。テキスト:『耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1』(アルク) | 金 FRI<br>14:45-16:15 | 坂本 |

＜教養教育　外国語科目＞(600時間程度学習した人対象。日本語能力試験N1レベル以上)

| 科目名 | 内容 | 時間 | 担当 |
|---|---|---|---|
| 上級日本語<br>A・E<br>(口頭表現) | 前期は討論および発表能力、後期は状況による使い分けに焦点を当て、口頭表現能力を養成する。 テキスト:ハンドアウト | 月<br>14:45-16:15 | 松岡 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 上級日本語<br>B・F<br>（読解） | 600 時間程度以上学習した人が対象。授業、研究、日常生活で接触する文字情報の読解力学習。テキスト:大学・大学院留学生の日本語3　論文読解編 | 水<br>13:00-14:30 | 加藤 |
| 上級日本語<br>C・G（文系） | 600時間程度以上学習した人が対象。前期は、文系分野で使われる基礎的な語彙力、後期は文系の専門分野別日本語表現学習。 テキスト:ハンドアウト | 木　13:00-<br>14:30 | カール<br>キビスト |
| 上級日本語<br>C・G（理系） | 600 時間程度以上学習した人が対象。実験、レポート等、理系分野で使われる専門基礎用語、表現力学習。テキスト:ハンドアウト | 金<br>8:40-10:10<br>8:40-10:10 | 大高 |
| 上級日本語<br>D・H<br>（論文作成） | 600 時間程度以上学習した人が対象。大学の学習、研究に必要なレポート、論文作成学習。<br>テキスト:（前期）大学・大学院留学生の日本語4 論文作成編（アルク）<br>（後期）大学生のための論理的文章の書き方（スリーエーネットワーク） | 金 FRI<br>10:30-12:00 | D<br>菊池<br>H<br>大高 |

＊時間数は各学期分。A,B,C,D は前期、E,F,G,H は後期開講科目。

＊農、工学部正規留学生日本語履修者は上級日本語C，G（理系）が必修。

### 4. 実施状況

大学の学期スケジュールに従い、毎学期 15 週の授業を実施した。なお、今年度の大学院改組に伴い、技法知科目として「アカデミック日本語」が開設され、留学生の日本語能力に合わせて日本語科目のいずれかの履修で単位を付与することとなった。また、本学の協定大学であるアメリカのアーラム大学 SICE プログラム（盛岡市教育委員会とアーラム大学との協定による英語教育インターンシッププログラム）の学生を後期の授業で前半7週間受け入れた。各学期の受講者数は以下のとおりである。

＊表中受講者数の「単位無」は単位取得を要しない大学院生、研究生、家族等、「国際」は「国際教育科目」として単位を取得する交換留学生、「教養」は「教養育科目」として単位取得する履修者数を表す。

＜前期＞

| 科目名 | 受講者数 | | |
|---|---|---|---|
| | 国際 | 単位無 | 教養 |
| 初級日本語Ⅰ文法 | 0 | 3 | |
| 初級日本語Ⅰ読解 | 0 | 3 | |
| 初級日本語Ⅰ会話 | 0 | 3 | |
| 初級日本語Ⅱ文法 | 0 | 3 | |
| 初級日本語Ⅱ漢字 | 0 | 3 | |
| 初級日本語Ⅱ会話 | 0 | 3 | |
| 中級日本語Ⅰ文法 | 10 | 5 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中級日本語Ⅰ会話 | 10 | 5 | |
| 中級日本語Ⅰ作文 | 11 | 4 | |
| 中級日本語Ⅰ読解 | 13 | 3 | |
| 中級日本語Ⅰ漢字 | 8 | 4 | |
| 中級日本語Ⅱ文法 | 11 | 2 | |
| 中級日本語Ⅱ会話 | 8 | 5 | |
| 中級日本語Ⅱ読解 | 9 | 1 | |
| 中級日本語Ⅱ作文 | 10 | 5 | |
| 中級日本語Ⅱ漢字 | 10 | 2 | |
| 中級日本語Ⅱアカデミック | 5 | 2 | |
| 上級日本語ビジネス | 11 | 3 | |
| 上級日本語アカデミック | 6 | 3 | |
| 上級日本語 A(口頭表現) | | 3 | 19 |
| 上級日本語B読解 | | 3 | 11 |
| 上級日本語C文系 | | 0 | 7 |
| 上級日本語C理系 | | 0 | 8 |
| 上級日本語Ｄ論文作成 | | 3 | 7 |
| 日本語研修コース(集中) | 3 | 6 | |
| 合　計 | 125 | 59 | 52 |
| | 236 | | |

＜後期＞

| 科目名 | 受講者数 | | |
|---|---|---|---|
| | 国際 | 補講 | 教養 |
| 初級日本語Ⅰ文法 | 2 | 3 | |
| 初級日本語Ⅰ読解 | 2 | 1 | |
| 初級日本語Ⅰ会話 | 2 | 3 | |
| 初級日本語Ⅱ文法 | 0 | 1 | |
| 初級日本語Ⅱ漢字 | 0 | 4 | |
| 初級日本語Ⅱ会話 | 0 | 4 | |
| 中級日本語Ⅰ文法 | 16 | 10 | |
| 中級日本語Ⅰ会話 | 16 | 3 | |
| 中級日本語Ⅰ作文 | 15 | 0 | |
| 中級日本語Ⅰ読解 | 10 | 5 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中級日本語Ⅰ漢字 | 13 | 4 | |
| 中級日本語Ⅱ文法 | 6 | 10 | |
| 中級日本語Ⅱ会話 | 10 | 5 | |
| 中級日本語Ⅱ読解 | 5 | 1 | |
| 中級日本語Ⅱ作文 | 3 | 8 | |
| 中級日本語Ⅱ漢字 | 1 | 0 | |
| 中級日本語Ⅱアカデミック | 6 | 8 | |
| 上級日本語ビジネス | 8 | 10 | |
| 上級日本語アカデミック | 2 | 7 | |
| 上級日本語E口頭表現 | | 3 | 23 |
| 上級日本語F読解 | | 4 | 4 |
| 上級日本語G文系 | | 3 | 5 |
| 上級日本語G理系 | | 2 | 8 |
| 上級日本語H論文作成 | | 3 | 6 |
| 日本語研修コース(集中) | 3 | 6 | − |
| 合 計 | 120 | 162 | 46 |
| | 328 | | |

*受講数合計は延人数

報告:松岡洋子

# 夏期休暇および個別日本語学習支援

## 1. 概要

夏期休暇中に日本語学習を希望する学生を対象として夏期休暇日本語補講を実施した。この授業は本学の協定大学であるアメリカ・アーラム大学が短期研修（SICE プログラム）の日本語教育の一環としても活用した。

また、学習者の個別ニーズに対応するため、日本語教育を学ぶ学生による補講を実施した。各クラスの内容は以下のとおりである。

① 夏期休暇日本語補講

期　間：　2017 年 8 月 28 日～9 月 14 日　9：00－12：00　（全６日×２コマ×2 レベル)

受講者：　初級修了者（10 名：うち SICE 学生４名）

＜内容・スケジュール＞

| | 初級Ⅰ復習 | | 初級Ⅱ復習 | |
|---|---|---|---|---|
| | 内容 | 担当 | 内容 | 担当 |
| 8 月 28 日 | 漢字１（Ｎ５トライアル） | 大高 | 漢字１（Ｎ４トライアル） | 加藤 |
| | 聴解１（Ｎ５トライアル） | 大高 | 聴解１（Ｎ４トライアル） | 加藤 |
| 8 月 31 日 | 文法１（Ｎ５トライアル） | 大高 | 文法１（Ｎ４トライアル） | 佐藤 |
| | 漢字２（形容詞） | 大高 | 漢字２（形容詞） | 佐藤 |
| 9 月　4 日 | 文法２（自動詞・他動詞） | 松林 | 文法２（自動詞・他動詞） | 坂本 |
| | 会話･聴解２(自動詞･他動詞) | 松林 | 会話・聴解２（自動詞・他動詞） | 坂本 |
| 9 月　7 日 | 漢字３（位置・方向・量） | 松林 | 漢字３（位置・方向・量） | 佐藤 |
| | 文法３（条件） | 松林 | 文法３（条件） | 佐藤 |
| 9 月 11 日 | 会話・聴解３（条件） | 加藤 | 会話・聴解３（条件） | 宮 |
| | 漢字４（学校・科目） | 加藤 | 漢字４（学校・科目） | 宮 |
| 9 月 14 日 | 文法４（敬語） | 坂本 | 文法４（敬語） | 宮 |
| | 会話・聴解４（敬語） | 坂本 | 会話・聴解４（敬語） | 宮 |

② 個別学習支援

授業以外に個別学習を希望する学生に対して、主として人文社会科学部４、教育学部 3 名および総合科学研究科１名の計 8 名の学生による個別学習支援を行った。

実施時期：　前期　6～７月、　後期　11～1 月

対象：日本語研修コース学生２名、学部生 10 名、交換留学生４名、大学院生２名

## 2. 成果と課題

夏期休暇補講は初級２レベル（各１クラス）で文法、漢字、聴解の復習を行った。アメリカ・アーラム大学の学生のほか、本学の学生も参加し、次の段階への橋渡しの効果が見られた。

また、個別支援については、今年度は、日本語チューター希望者と個別支援を希望する留学生をマッチングさせる形で支援を実施した。実施に当たっての希望調査により、留学生からのニーズも、チューター希望学生も多数いることが明らかになったが、スケジュールのマッチング等が困難だった。このため、次年度からはチュートリアルの時間を設け、そこに希望者が集まる方式に変更するよう準備することとした。

また、これとは別に、日本語教育担当教員からの指示で個別指導が必要な学生に日本語教育副専攻の学生および母語が同じ留学生による学習支援を行った。この指導では、学習支援内容を教員および留学生本人が明示して行い、一定の効果が見られた。

日本語チュートリアルは、日本語での会話の機会を作りたいものと、能力試験、発表準備、授業補習等の実質的な日本語学習支援と二通りのニーズがあり、それぞれに合わせた支援方法を次年度以降、検討の上、実施する予定である。

報告：松岡洋子

# 全学共通教育科目・教養教育科目

（日本語教育以外）

## 1．日本事情 A・B

全学共通教育科目「日本事情A・B」は留学生が専攻や学年制限なしで参加できる日本文化のプログラムである。「日本事情A」（前期）は日本の地域史をテーマにし、イントロダクション（1回）・陸奥（岩手県を中心に）（3回）・横浜（神奈川県）（1回）・土佐（高知県）（1回）・出雲（島根県）（3回）・筑前（福岡県）（1回）・琉球（沖縄県を中心に）（3回）・まとめと復習（1回ずつ）の順で日本各地の歴史、風土、文化を説明した。

「日本事情B」（後期）は日本の世界遺産をテーマにし、イントロダクション・法隆寺・古都奈良・古都京都・紀伊山地・平泉・厳島神社・琉球王国・石見銀山・姫路城・明治日本の生産革命・原爆ドーム・長崎の教会群・まとめ・復習の順で講義を行った。

授業の基本的な形は講義だが、留学生はプレゼンテーション、クラスワーク、ディスカッションも行った。留学生は日本語能力が限られているため、できるだけ単純で理解しやすい言葉や文法を使用して講義を行った。教科書も読みやすい本を選んだ（前期は数研出版の『基礎からの中学歴史』、後期はジャパ ンタイムズの『英語で伝えたい日本の世界遺産』）。この授業の履修を契機に留学生は自分の専門以外の日本文化や歴史に触れ、 日本の様々な事情をよりよく理解できた。29年度の参加者は前期7名、後期は4名であった。

担当：アンデス・カールキビスト

## 2．多文化コミュニケーション A・B

日本人学生、外国人留学生共修科目として、多文化コミュニケーションA（前期）、多文化コミュニケーションB（後期）を実施した。多文化社会におけるコミュニケーション課題をトピックとして取り上げ、討論、共同作業を通じた実践的な授業を行った。合宿研修を授業に組み込んでいるため、履修者は日本人学生、留学生各 20 名に制限した。

前期（多文化コミュニケーション A）は学部2年次および交換留学生が主たる受講者である。今年度も二戸市教育委員会の依頼により、中学生（19 名）と岩手山青少年交流の家で合同合宿を行った。合宿では多文化コミュニティでの課題（今年度は「二戸での修学旅行インバウンドの企画」）を与え、グループでの共同作業の成果を発表させた。

後期（多文化コミュニケーション B）は学部1年次および交換留学生が主たる受講者で弘前大学、東北大学との合同合宿を岩手山青少年交流の家で行った（合宿については「北東北3大学合同合宿研修報告」参照）。

この授業は、留学生、日本人学生の共修教育として、他大学、中学生等の多文化接触の機会として、多文化コミュニケーション能力の中で「意識啓発」の意義がある。今後も継続予定である。

担当：松岡洋子・尾中夏美

### 3. 現代の諸問題（教育とグローバル化）

1年生を対象とし38名が受講した。岩手に縁があってグローバルに活躍するゲストスピーカー（以下 GS）5 人からキャリアを積み上げる過程について聴くことを軸に実施した。流れとしては事前課題で GS から提示された資料を読んで質問を準備する。講話を聴いてから4，5名で構成されるグループで講話内容をまとめ、それをベースにディスカッションを行い、GS の態度、考え方、能力を分析しポスタープレゼンテーションを実施。これを 5 回繰り返す。最終的には、5 人の GS の共通項を抽出し、グローバル人材の特性をまとめてポスタープレゼンテーションを行った。これを踏まえ、大学生活の中で自分にとって必要と思われる考え方や能力を育成するためにどのように送っていくかの決意表明を各自がポスターにまとめて動画を撮り、一般公開しない設定でアップロードした。グループの構成メンバーは2回毎にシャッフルすることにより学生の新しい出会いの確保とコミュニケーションスキルの涵養を目指した。今後もグローバル人材が遠い存在ではないことを理解し、体験者から身につけるべき知識・能力などを学ぶとともに、グループ作業等を通じてコミュニケーション能力とプレゼンテーション技能等の向上を図っていきたい。

担当：尾中夏美

### 4. 初年次ゼミナール（トビタテ！岩大生）

「トビタテ！留学 Japan」の申請用紙を完成させる、という作業を通して、具体的なプロジェクトの立て方と、読み手が具体的に内容を把握できる書き方の基礎が習得できる講義内容とし、限られたスペースの中でいかに具体性が高く情報密度の高い文章を作文するかを中心的課題とした。履修者は所属学部の異なる 1 年生 3 名と聴講生（3年生と4年生）2 名であった。毎回 1 項目ずつ記載項目に記入し、相互に評価し、それを元に改訂していくという作業を行った。最終的には、実際に採択となった申請書を参考にして、説得力のある申請書を完成するとともに、最後は、二次審査と同じ形式を採用して 4 分間の口頭発表も実施し相互評価を行った。この授業の受講者からトビタテ！地域人材コースに1名、全国版に2名が採択となった。

担当：尾中夏美

### 5. 現代の諸問題（英語討論入門）

この授業の目的は、日本人学生が英語をツールとしてディスカッションや口頭発表を実施し、論理立てて主張する手法や英語でのコミュニケーションに自信を身につけることにある。今期

は1年生4名、3年生2名、米国からの交換留学生3名が受講した。交換留学生と日本人学生2 名の小グループでテーマに関して賛成・反対の口頭発表を行い、それまでのプロセスでの自分の学びを評価するという内容で実施した。ディベートのテーマは”Should the death penalty be allowed?”, “Should same-sex marriage be allowed?”、そして3つ目は学生たちの希望から”Does Artificial Intelligence bring benefits to us?”に決まった。ディスカッションは英語で実施し、発表については日本人は英語、留学生は日本語でチーム毎に協力してそれぞれ発表した。

担当:尾中夏美

**6. 地域と国際社会/総合科目特別講義**

この講義では、国際社会が掲げる「持続可能な開発目標(SDGS)」を参照しながら、身近にある「国際社会」を主に、以下に重点を置きながらローカルとグローバルとの関わり、さらには自らとの関わりを捉えるための視座と当事者意識を養うことを。

(1)身近なモノ(バナナ、アサイー、チョコレート等)と開発途上国の貧困や児童労働などの課題を捉える。

(2)身近な人から世界とのつながりを考える:グローカル人材から学ぶ①:「ニッケル鉱石と海外業務の魅力・苦労話」(地域で海外展開をする企業の方を招き、海外業務を通じて異文化に心を開くことの大切さを講演していただいた。2017 年 5 月 17 日)、グローカル人材から学ぶ②:「南米と岩手の深い関係」(南米県人会の方を招き、南米に移住した岩手県民の歴史的つながりについて講演いただいた。2017 年 6 月 15 日)

(3)主に貧困とジェンダー平等の視点から少子化やこどもの貧困などの日本の課題を考える。

(4)グローバル時代におけるグローカルなキャリア形成を考える。

授業は講義及び学生同士のディスカッションを取り入れたアクティブラーニング形式で進めた。授業の後半では、学生が選択課題に応じた口頭発表をグループで実施し、課題への理解を深め、口頭発表のスキルをつけるとともに、具体的な行動につながる提案を行った。グローバル時代の現代社会において、身近に生活する地域においても、ローカルなもの、ナショナルなもの、グローバルなものが相互依存していることへの理解を深めた。また、国際社会で必須である発言力やプレゼンテーション能力の向上を図った。

担当:平井華代

**7. 英語で学ぶ日本文化(いけばなB)**

全学共通教育科目「英語で学ぶ日本文化」は留学生、日本の学生が組んで、専攻や学年制限なしで参加できる日本文化プログラムである。後期に行い、日本いけばな(池坊)をテーマにし、イントロダクション・いけばなの歴史①(いけばな入門)・生花(しょうか)の稽古(3回)・盛り

花の稽古（2回）・いけばなの歴史②（いけばなの伝統）・自由花（5回）・復習（2回）の順で日本の文化の1つであるいけばなの勉強、体験をした。

授業の基本的な形はお稽古だが、留学生と日本の学生の交流の場にもなり、いけばなの歴史の勉強を行った。教室内では英語を使い、日本の学生にとっては英語の練習にもなった。花材は留学生、日本の学生共に自己負担した。（お稽古1回につき千円、計10回のお稽古の花材は合計一万円）

この授業履修を契機に留学生に限らず日本の学生も知らなかった日本文化や歴史に触れ、知り得なかったそれらを深く勉強できた。29年度の参加者は11名。（留学生5名、日本学生は6名）。

（「英語で学ぶ日本文化」でお稽古する学生と留学生）

担当：アンデス・カールキビスト

# 平成 29 年度海外研修 SCIP フィリピン：世界から地域を考える
# -貧困と持続可能な社会-

## 1．概要

(1)本科目は、貧困と持続可能な社会をテーマに、グローバルな課題を地域の視点から理解し取り組む志向を持つリーダーに求められる資質を養成することを目的とした、フィリピン・セブ島で実施する約2週間の海外研修である。1週目はサンカルロス大学語学研修所で英語研修を実施した。2 週目は貧困層の子供と家族を支援する現地NGOの活動に視察・参加し、子供たちやその家族、支援者たちと交流し、支援活動に参加するフィールドワークを実施した。

(2)受け入れ先サンカルロス大学及び現地 NGO 団体(Bidlisiw Foundation Inc.)とグローバル教育センターとの本研修プログラム実施について3年間の覚書を締結した。海外送金を中心とする事務手続きの一部は、JTB東北が代行した。

## 2．日程と研修内容

以下の通り、2018 年 9 月 10 日から 9 月 22 日まで実施した。全日程につき、グローバル教育センターより2名の教員が交代で現地引率を行った。

| 日程 | | 午前 | 午後 |
|---|---|---|---|
| 1 日目 | 9 月 10 日(日) | 成田空港 | セブ　マクタン空港到着 |
| 2 日目 | 9 月 11 日(月) | サンカルロス大学語学研修開講式 | 英語研修開始、インタビュー |
| 3 日目 | 9 月 12 日(火) | 英語研修 | 英語研修、インタビュー |
| 4 日目 | 9 月 13 日(水) | 英語研修 | 英語研修、インタビュー |
| 5 日目 | 9 月 14 日(木) | 英語研修 | ビドゥリシウ財団ブリーフィング |
| 6 日目 | 9 月 15 日(金) | プレゼンテーション準備 | プレゼンテーション、語学研修修了式 |
| 7 日目 | 9 月 16 日(土) | ① ウマパッド・ゴミ山コミュニティー訪問 | ② ジャンサンビール住居プロジェクト@バンカル訪問 |
| 8 日目 | 9 月 17 日(日) | 自由行動 | 自由行動 |
| 9 日目 | 9 月 18 日(月) | ③ JPIC ブリーフィング<br>④ バライサマリタノ(ストリートチルドレン・デイケアセンター)訪問、ボランティア、交流 | ⑤ セブ市立中央高校訪問、授業見学・参加交流 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10 日目 | 9 月 19 日(火) | ⑥ セブ市ストリートチルドレンタスクフォース訪問・見学、こどもたちと交流 | ⑦ オリエンテーション@ビドゥリシウ財団、子供たちと交流 |
| | | | ⑧ スラム内家庭訪問と母親へのインタビュー |
| 11 日目 | 9 月 20 日(水) | ビドゥリシウ財団支援児童と交流 | スラムの家庭訪問と家族へのインタビュー |
| 12 日目 | 9 月 21 日(木) | ⑨ ビデゥリシウ財団支援プログラム参加見学(家族対話と和解セッション) | 自由行動 |
| 13 日目 | 9 月 22 日(金) | セブ・マクタン空港 | 帰国 |

### 3. 単位

海外研修に 2 単位を付与した。別途、海外研修事前事後研修(国際教育科目)において 2 単位を付与した。

### 4. 参加学生:4 名

人文社会学部現代文化課程　2 年生
人文社会学部 3 年生
農学部　3 年生
教育学部 2 年生
男女内訳(女性 2 名、男性 2 名)

### 5. 奨学金

JASSO より2名に 6 万円の奨学金が支給された。

### 6. 成果

前半の英語研修を、後半に予定されているフィールドワークの準備期間としてとらえ、「実用的な英会話力をつける」、「発話する度胸を養う」、「現地の人々との対話を通じてフィリピンを知る」ことを目的に、授業後、毎日課外インタビューを課題として課した。2 週間を通じて、学生アンバサダーといわれるサンカルロス大学生と行われる交流も、フィリピンを知り、英語を使う貴重な機会となっている。短期間の研修にあって、現地の人々と会話する機会が多くセッティングされており、学生は「最初は話しかけることをためらったが、いざ話しかけると快く話をしてくれてよかった。フィリピンの人々のやさしさを感じた。」、「インタビューは特に楽しかった」という感想を述べている。

フィールドワークでは、NGOが支援している都市貧困層のこどもと家族、その支援者たちとの交流とスラム内の家庭訪問を行ったが、今年度は、特に元被支援児童（CSEC）で、現在は社会的な復帰を遂げている 2 名にライフストーリーをインタビューする機会を設けた。これにより、ストリートチルドレンや不登校のスラムの子供たち、支援を受けている子供たちとその家族、支援プログラムへの参加見学、そして実際に自立を遂げた元被支援児童を知る機会をもつことが可能となり、都市貧困層のこどもたちが支援を受けて自立する流れを追うことができた。

学生からは、「テレビやネットで見たり、学習して、ストリートチルドレンやスラムがあることは知っていたが、実感がわいていなかった。実際に来て本当に当たり前のように存在することに驚いた。」、「大学を卒業して、ソーシャルワーカーとして政府の職員に採用された元CSECの子供の話をきいて、これまで貧困は複雑で解決不能かと思っていたが、支援によって貧困から抜け出すことができるのだと知った。」という感想が述べられた。

また、現地で日本の貧困課題について各学生がサンカルロス大学で発表を行い、意見交換をおこなった。学生からは、「参加前は、本人が問題視していないのならば、別に貧しくてもいいのではないかと思っていたが、貧困のために学校に通うのをあきらめることはやはりあってはならないと思うようになった。希望する誰もが大学で学べることが理想の社会だと思う。日本に帰国したら、貧困で学習が遅れがちな子供たちに勉強を教える活動に参加したい。日本の若者が奨学金の返済に苦しむ現状はおかしいので、こちらもなんとかしたい。」という感想があった。

**7. 今後の展開**

受け入れ先ビデゥリシウ財団は、2018年から2020年の行動計画の中で支援児童の奨学金や学習支援費の確保、就労支援について力を入れる方針である旨が説明された。この点で本研修がいかに貢献できるか、事務局長との意見交換を行った。本研修が本学学生の学びと現地団体側のアドボカシーの機会となるだけでなく、支援児童にとってのさらなるメリットとなりうる可能性を探求したい。

今年度は昨年度より活動終了時刻を早め、途中休憩を入れるなどの対策をとったことが功を奏したか、途中で気分を悪くして30分程度休憩した学生が1名いたものの、そのほか大きく体調を崩す学生はいなかった。今後も適度な休息を入れる内容とする。

**海外研修事前事後研修**

1. 本科目は、グローバルな課題を地域の視点から理解し、取り組む志向を持つ地域のリーダーに求められる資質を養成することを目的とした「フィリピン海外研修－世界から地域を考える」の事前事後研修である。事前研修は4月から9月に実施、海外研修は9月10日～22日の約2週間実施、事後研修は9月25日、26日に実施した。

2. 豊かさとは何かという検討から始め、フィリピンを含む開発途上国における貧困や格差だけでなく、日本の貧困課題について検討したほか、開発援助の国際的潮流や日本の政府開発援助を通じた国際貢献と課題、NGO や市民団体の活動、またフィリピンの文化社会に関して理解を深めた。日本が抱える貧困課題について学ぶため、県内でひとり親支援を行う特定非営利活動法人インクルいわてに訪問した。日本の貧困課題を英語で説明する練習を実施した。講義及び学生による発表の他、指定文献のレポート作成により、知識を深めた。ICT プラットフォームにおいて、英語文献とリスニングの理解度チェックテストを実施し、関連分野における実践的な英語の運用レベルの向上を図った。また、英語におけるインタビューの実践練習を積んだ。(研修日程と内容は以下の表参照)

3. 帰国後は事後研修を通じ、ワークショップ形式で体験を共有・整理し、日本とフィリピンの貧困課題の構造的共通点や相違点、解決のための対策を検討した。報告書を作成し、学びを総括した。また、11月２８月に実施した、グローバル教育センター主催公開グローバルシンポジウム「“奨学金”という名の借金:日米仏の学生の声から/ Scholarship? Or Education Loan?-Debt for the future」に、フィリピン研修履修生が口頭発表者として参加し、自身の経験をもとに日本の若者が置かれている奨学金における厳しい現状を訴えた。

| 回 | 日程 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 4月25日 | オリエンテーション |
| 2 | 5月2日 | 開発途上国と日本の課題とは |
| 3 | 5月9日 | 貧困と開発の理論:貧困、豊かさとは、開発とは |
| 4 | 5月12日 | 前年度フィリピン研修参加者体験談@Global Village |
| 5 | 5月16日 | 貧困分析:セブの事例から |
| 6 | 5月23日 | ODA、日本の対比 ODA |
| 7 | 5 月 30 日 | Global Village Global Café |
| 8 | 6月6日 | フィリピンの歴史・日本との関係 |
| 9 | 6月20日 | NGO とは、ビデゥリシウ財団について |
| 10 | 6日27日 | フィリピン都市貧困層のこども |
| 11 | 7月4日 | 日本のリアル学生　英語で発表 |
| 12 | 7月11日 | 日本の貧困①　(A)子供&こども食堂　(B)ひとり親 |
| 13 | 7月18日 | 日本の貧困②　(C)奨学金ローンと学生　(D)ホームレス |
| 14 | 7月25日 | 日本の貧困③ 英語で発表 |
| 15 | 8月 1 日 | 英語でフィールドワーク・インタビュー |
| 16 | 8月7日 | インクルいわて訪問 |

| | | |
|---|---|---|
| 17 | 8月30日 | JTB 渡航前オリエンテーション |
| 18 | 9月5日 | 渡航前準備、現地ケータイ操作練習、交流準備等 |
| 19 | 9月25日 | 事後研修　振り返り |
| 20 | 9月26日 | 事後研修　振り返り |

報告:平井華代

# 国際研修　SCIP：北欧（エネルギーと持続可能な社会）

## 1．趣旨と概要

本科目は、英語で得られる情報を収集、分析、判断し、決定する能力を育成する研修を通して、卒業後グローバルな視点から地域のリーダーとして課題解決を行う能力を培うことを目的としている。この授業は「エネルギーと持続可能な社会」をテーマとし、海外での研修の前後に事前・事後研修を実施する。学生は事前研修では工学部、農学部、岩手県庁、グローバル教育センター教員によるオムニバスの講義を受ける事でテーマに関する基礎知識を習得する。同時にテーマに関わる英語の講義の聴講や関連する英語の文書を、ICT教育プラットフォームを活用して学習することにより、英語による情報収集能力を高める。研修は9月に10日間、2つのグループに分かれて、レイキャビク（アイスランド）とベクショー（スウェーデン）で行い、エネルギー関連の各国事情に関する講義を受け、発電所やエネルギー分配基地等の現地視察も行う。帰国後の事後研修ではそれぞれの情報を持ち寄り、口頭発表や報告書にまとめる。

高木先生の授業中

参加者は、理工学部4名、人文社会学部 2 名、農学部2名の計 8 名である。

## 2．実施内容

【スケジュール】

| 日付 | 活動 |
|---|---|
| 4 月 13 日（木）9･10 コマ | オリエンテーション（尾中先生・主濱・アンデス） |
| 4 月 20 日（木）9･10 コマ | 事前講義①（高木浩一）（金野、小林）<br>「エネルギーとは何か」 |
| 4 月 27 日（木）9･10 コマ | 事前講義②（野崎明裕）<br>「岩手県のエネルギー事情」 |
| 5 月 11 日（木）9･10 コマ | 事前講義③（野崎明裕）<br>「再生可能なエネルギーの諸問題」 |

| | |
|---|---|
| 5 月 18 日(木)9･10 コマ | ディスカッション①(尾中先生･アンデス) |
| 5 月 25 日(木)9･10 コマ | 事前講義④(伊藤幸男)<br>「木質バイオマスエネルギー概論」 |
| 6 月 1 日(木)9･10 コマ | ディスカッション②(尾中先生･アンデス) |
| 6 月 15 日(木)9･10 コマ | 事前講義④(山口　明)<br>再生可能エネルギー概論 |
| 6 月 29 日(木)9･10 コマ | ディスカッション③(尾中先生･アンデス) |
| 7 月 6 日(木)9･10 コマ | 事前講義⑤(アンデス)(英語)<br>「About Sweden」 |
| 7 月 20 日(木)9･10 コマ | 事前講義⑥(留学生)(英語)<br>「About Iceland」(未定) |
| 8 月 20 日(月)終日 | 県内エネルギー施設視察(野崎明裕) |
| 8 月下旬 | 出発前オリエンテーション |
| 9 月 11 日(月)～21 日(木)<br>(成田着は 22 日) | 海外研修(アイスランド･スウェーデン･デンマーク) |
| 10 月上旬 | 事後研修 |
| 10 月下旬 | 事後研修 |
| 11 月上旬 | 口頭発表 |
| 11 月中旬 | 報告書等提出期限 |

【単位付与】教養教育単位2単位 、国債教育単位2単位(合計4単位)

アクティブラーニング実施中

松川地熱発電所の見学

### 3. 成果

29年度の参加者であるアイスランド4名、スウェーデン4名の学生らは全般的に英語や海外に対する興味関心が向上した。帰国後に英語の勉強を進め、海外留学を含め、国際性を高める意識が見られた。

### 4. 経費

平成29年度留学生交流支援制度（ショートビジット）プログラムにより8名分、1 名当たり8万円の支援が受けられることが決定していたため、1名を除いて奨学金を付与し個人負担は軽減できた。プログラム参加費は基本的に学生の自己負担の形で行い、29年度は約20万円（スウェーデン）又は約30万円（アイスランド）になった。（上記の奨学金を得た学生は約12万円又は22万円）

報告 ：アンデス・カールキビスト

# 国際研修 SCIP @ 台湾

## 1. 研修の概要

本研修では、親日国である台湾を研修地として海外から日本がどのように見られているかについて体験的に学んだ。さらに、既存の日台交流活動を踏まえ、将来的な可能性や岩手とのさらなる交流のリソースを探すことを目的としたプロジェクトを実施することにある。研修には日本語を主として使うため、異文化理解を深めるための言語的ハードルは低いと思われる。研修受け入れは本学協定校である国立高雄師範大学に依頼した。研修内容は挨拶など簡単な中国語の研修のほかに、文藻外語大学の日本語学習者対象にインタビューを実施して台湾人の目を通した理解の深化、日本とのビジネスや共同研究を実施する研究所やショップの訪問、地元商業施設などの調査を通して、岩手からどのような経済交流が可能かを考え、最終日には口頭発表を実施した。このような研修は将来的にはトビタテ！地域人材コース参加者の乗り入れも期待できる。本研修にはプロジェクト活動があるため、岩手大学教員が引率した。

## 2. 実施内容

【スケジュール】

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3 月 4 日（日）<br>羽田空港第 2 旅客ターミナル集合 10:30<br>羽田(12:40)-台北松山空港(15:50)NH853<br>台北→左営（台灣高鐵）<br>午後 : チェックイン | 3 月 5 日（月）<br>午前 : オリエンテーション<br>午後 : 大統百貨店調査 | 3 月 6 日（火）<br>午前 : 初級中国語研修<br>午後 : 高雄市立歴史博物館訪問 (14:00-15:00) | 3 月 7 日（水）<br>午前：初級中国語研修<br>午後：文藻外国語大学訪問 (15:00-17:00) | 3 月 8 日（木）<br>午前：中華文化体験（ペーパークラフト）<br>午後：金屬工業研究發展中心訪問 (14:00-16:00) |
| 3 月 9 日（金）<br>午前 : 初級中国語研修<br>午後 : 拍拍 Pets' and Design 訪問@台南市(13:00-17:00) | 3 月 10 日（土）<br>調査@<br>・三多市場<br>・全聯スーパー<br>・新堀江 | 3 月 11 日（日）<br>休日 | 3 月 12 日（月）<br>午前：初級中国語研修<br>午後：文藻外国語大学訪問交流 (14:00-17:00) | 3 月 13 日（火）<br>午前：初級中国語研修<br>午後：調査@日系百貨店（新光三越と遠東そごう） |
| 3 月 14 日（水）<br>午前 : 初級中国語研修 | 3 月 15 日（木）<br>午前 : プロジェクト発表準備 | 3 月 16 日（金）<br>午前 : チェックアウト(7:00) | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 午後：プロジェクトの取り纏め<br>講義：沢田深雪先生<br>(16:00-17:00) | 午後：プロジェクト活動の成果発表会、高雄師範大学生と交流会 | 左営(8:00)-台北(10:-02)（台灣高鐵）<br>台北松山空港(13:30)-羽田(17:30)NH852 | | |

【参加者】

人社学部２名、教育学部１名、理工学部１名、農学部１名

男女内訳　男子 3名、 女子 2名

### 3. ふりかえりと成果

① 学生たちは学生寮の不便さや清潔度に当初苦労していたようだが、そのうち慣れた様子であった。キャンパス内の宿舎の方が交流の深まりがあった。

② 早い段階で市内バスを自由に使いこなせるようになったことから、盛岡のバスシステムと比較し、台湾から学ぶべきことを実感した学生がいた。

③ 山口大学からの交換留学生５名、三重大学からの交換留学生１名がとても面倒みよく支援してくれたことから、交換留学で得られることを実感していた。

④ 覚えたての中国語を店舗での買い物やキャンパス内の学生を相手に使えることが楽しくて仕方がないといった様子だった。

⑤ 文藻外国語大学上級日本語クラスの学生とは台湾人から見た日本、日本の統治に対する世代別意見（祖父母、父母、自分）についてディスカッションでき、大きな学びとなった。

⑥ トビタテ！地域人材コースの前段活動または連動の可能性が感じられた。

⑦ ５月の留学オリエンテーション期間中に体験学生が報告を行い、県庁職員が聴衆として参加してくれた。岩手県の産品を海外に事業展開する部局にいる職員で、当日連絡先交換などに発展できた。

報　告　:尾中夏美

# 地域課題演習E

全学共通教育科目「地域課題演習E」は、学生が（留学生含）専攻や学年制限なしで参加できる日本文化のプログラムである。集中講義の形で8月16日～19日に行い、岩手大学人文社会科学科、岩手大学教育学部、岩手大学平泉センター、岩手県立大学盛岡短期大学部などの先生方の協力を得、実施した。「地域課題演習E」は平泉をテーマにし、イントロダクション（カールキビスト）・平泉前の岩手、平泉の曙（人文社会科学科の樋口先生）・都市平泉の発掘（1）、都市平泉の発掘（2）（元岩手県立埋蔵文化財センターの八木先生）・鎌倉幕府と平泉、中尊寺文書の世界（教育学部の菅野先生）・平泉の生活（1）、平泉の生活（2）（平泉センターの伊藤先生）の順で授業を行ったのち、半日間にプレゼンの準備を行った（平泉センターの伊藤先生の指導）。最終日の一日を掛け、平泉の現場で中尊寺、毛越寺、柳之御所などの遺跡を見学し、コースは終了した。（現場案内は平泉センターの伊藤先生）。

この授業の履修を契機に学生は自分の専攻以外の日本文化、また岩手県内の深い歴史的な意義を持つ平泉に触れ、それらをより深く理解できた。29年度の参加者は日本の学生17名、留学生は1名であった。

（中尊寺の資料館の前）

担当：アンデス・カールキビスト

# 課題設定型研修「三陸ジオパーク・被災地復興視察研修」の実施

2 月 15 日～23 日の中の計 4 日間、岩手大学（地域課題演習 F）及びいわて高等教育コンソーシアムの科目として、「三陸ジオパーク・被災地復興視察研修」を実施した。この研修では、留学生と日本人の混成グループで三陸ジオパークを訪問し、以下の4つの課題からグループ毎に選択したテーマについて、観光客受入促進のためのアイデアを検討した。

【研修テーマ】

1.「三陸ジオパーク・震災遺構の活用による観光振興」
2.「地域特産品の活用による観光振興」
3.「観光客増加に向けた情報発信」
4.「観光客受入（日本人・外国人）に向けた地域の対応・改善策」

2 月 15 日に岩手大学で行なわれた事前研修では、国際連携室・石松弘幸准教授が研修の概要を説明した後、三陸ジオパーク推進協議会杉本伸一講師が三陸ジオパークの全体像につき講義を行った。後半は、石松が中心となり、グループワークの第一回目が実施された。

2 月 21 日に行なわれた本研修の1日目、参加者は久慈駅から田野畑駅まで震災学習列車に乗車し、車内で二橋守・三陸鉄道北リアス線運行部企画担当課長より震災と復興の様子に関する説明を受けた。その後、NPO 体験村たのはたネットワークの案内で、平井賀漁港とハイペ海岸を視察した。宿泊先の「グリーンピア三陸みやこ」で行なわれた二回目のグループワークでは、視察箇所での気づきの共有を行ない、参加者同士で課題に関して討論を行った。

本研修の2日目には、「特定非営利活動法人　津波太郎」の大棒理事長、下西氏、宮古観光文化交流協会「学ぶ防災」の小幡氏の案内により、津波の被害を受けた田老漁港、防潮堤、田老観光ホテル、山王団地を訪問し、津波の被害と復興の様子を学んだ。その後、浄土ヶ浜を視察し、シートピアなあどで三回目のグループワークを行なった。

本研修が終了した翌日に岩手大学で行なわれた事後研修では、参加者全員が各グループごとのテーマに基づき、三陸ジオパークの観光促進のためのアイデアを発表した。

今回の研修には三陸ジオパーク推進協議会事務局の杉本伸一氏、林ちはる氏も同行し、学生と共に意見交換を行った。研修成果の発表の場では、三陸ジオパークの認知度向上のため、青空教室を実施したり、小中学校の授業でジオパークを紹介したりしてもらうように働きかけることが考えられるのではないか、といった意見や、三陸ブランドの確立を図るため、地域同士で協力し、三陸の食材を生かした「豪華すぎる駅弁」を開発してはどうか、といった提案が出された。

報告：石松弘幸

# 国際教育科目（日本語教育以外）

## 国際協力・開発援助論

貧困を始めとした開発途上国が直面する諸問題について考察するとともに、開発に関連して生起する諸問題や、国際協力・開発援助の仕組みや政策についての理解を深めることを目的とする。国際協力・開発援助に関わる政府、NGO、国際機関等、様々なアクターの特徴、開発に向けてのアプローチについての理解を深めた。また、実際の開発援助の現場における事例を取り上げ、援助プロジェクトの計画・立案をワークショップ形式で行い、援助現場の実際について理解を深めた。、岩手県で地域おこし活動に従事する元青年海外協力隊の外部講師に「JICA 青年海外協力隊グアテマラの体験と限界集落遠野市での共通点（2017 年 10 月 24 日）」
及び元国連東ティモール事務所官房長官、米国 Mercy College 客員研究員に「国際機関へのキャリアパスと平和構築の現場（2018 年 1 月 9 日）」を講演いただき、体験談を通じて援助現場の実際を学ぶとともに、国際協力分野におけるキャリアパスについて理解を深めた。講義と学生による発表・ディスカッション、ワークショップを交えたアクティブラーニング形式で進めた。

報告：平井華代

## 国際講義 Global Studies

The purpose of this course is to understand local and global issues around the following two categories: equity and sustainability. Local issues are often interconnected with global issues. It is imperative to be aware of and understand the relations and consider possible solutions to achieve sustainable society. The course focused on poverty, gender equality, population, and the movement of people at the local and global level. Japanese students and international exchange students attended the course. Group discussions were regularly conducted, followed by lectures. The students actively participated in the discussion and made oral presentations in English.

報告：平井華代

### Iwate Studies A・B

国際教育科目「Iwate Studies A・B」は日本語能力の低い留学生の為に行う日本文化のプログラムである。「Iwate Studies A」(前期)は岩手の歴史をテーマにし、講義と見学の繰り返しで行った。イントロダクション・講義① 先史(縄文時代～古墳時代)・見学①(岩手大学ミュージアム)・講義② 蝦夷(飛鳥時代～平安時代前期)・見学②(志波城の跡)・講義③ 平泉(平安時代中期～後期)・見学③(遺跡の学ぶ館)・講義④ 南部氏(鎌倉時代～江戸時代)・研修④(盛岡城跡、櫻山神社)・講義⑤ 盛岡市(江戸時代～大正時代)・見学⑤(岩手県立博物館)・講義⑥ 近代の岩手(昭和時代～平成時代)・見学⑥(盛岡市内:鉈屋町)・まとめ・復習の順で岩手の歴史を説明した。授業の基本的な形は講義だが、留学生はプレゼンテーション、クラスワーク、ディスカッションも行った。

鉈屋町を見学する「Iwate Studies B」の留学生とガイドさん

「Iwate Studies B」(後期)は岩手の文化をテーマにし、岩手大学内のサークルや盛岡市内の施設を見学する形で行い、復習のため幾つかの講義もあった。イントロダクション・仏教(報恩寺)・民俗学(岩手県立図書館)・茶道体験(盛岡公民会館)・神道(盛岡八幡宮)・南部鉄器(イワチュウ)・日本酒①(菊の司)・日本酒②(グラスと)・日本酒③(朝開)・伝統的な町作り(鉈屋町)・和食(刺身)・まとめ・復習の順で岩手で体験できる日本の様々な文化を勉強し、体験させた。

見学は大学負担でタクシーで移動し、施設の利用料などは留学生・教員共に自己負担。授業は英語で行い、見学場所の各施設のガイドの英語力が低い際は教員が通訳した。29年度の参加者は前期4名、後期は10名であった。

担当:アンデス・カールキビスト

Japanese History A・B

国際教育科目「Japanese History」は日本語能力の低い留学生を中心に行う授業だが、日本の学生も参加できる日本文化プログラムでもある。「Japanese History A」（前期）は日本の古代史、中世史をテーマにし、イントロダクション・初めての「日本人」・新石器時代の日本列島と朝鮮半島・弥生文化の形成・交易と海のシルクロード・古墳時代と王権の誕生・飛鳥時代と律令制・奈良時代と列島の支配・平安時代・中世①（武者）・中世②（経済）・中世③（ヨーロッパ）・中世④（キリスト教の導入）・まとめ・復習の順で講義を行った。授業の基本的な形は講義だが、留学生はプレゼンテーション、クラスワーク、ディスカッションも行った。教室内で英語を使い、基本的に英語の論文も宿題として読み、レポートを英語で書かせた。29年度参加者は前期（A）1名（留学生）で、後期（B）は受講者がなかった。

担当：アンデス・カールキビスト

Comparative Japanese History A・B

国際教育科目「Comparative Japanese History」は日本語能力の低い留学生を中心に行う授業だが、日本学生も参加できる日本文化プログラムでもある。「Comparative Japanese History A」（前期）では日本神話をテーマにし、海外の様々な神話と比較を行った。イントロダクション・日本神話入門・日本神話と印欧神話・大陸からの影響①（セイント ジョージとスサノヲ）・大陸からの影響②（ギリシア神話と日本神話）・日本神話と東南アジア神話・日本神話と政治①（神武天皇）・日本神話と政治②（ヤマトタケル）・地方の神話と「風土記」・地方の神話と自治制（出雲神話）（2回）・日本神話と貿易・奈良時代仏教の伝説・復習・まとめの順で様々な視点から日本神話を説明した。

「Comparative Japanese History B」では江戸時代の日本をテーマにイントロダクション・歴史的な背景・家族・商品・政治（2回）・外交（2回）・社会・経済・娯楽（2回）・宗教・復習・まとめの順で講義を行い、江戸時代の日本を様々な視点から説明した。

授業の基本的な形は講義だが、留学生はプレゼンテーション、クラスワーク、ディスカッションも行った。教材として「Comparative Japanese History A」の授業内では『古事記』を始め『日本書紀』、『出雲国風土記』、『日本霊異記』などの資料を英訳で読んだ。教室内で英語を使い、基本的に英語の論文も宿題として読み、レポートを英語で書かせた。「Comparative Japanese History B」では Constantine Nomikos Vaporis『Voices of early modern Japan』を読む予定が有ったが受講生不足のため休講になった。

本授業履修を契機に留学生に限らず日本の学生も知らない日本文化や歴史に触れ、知り得なかった史実を深く勉強できた。29 年度参加者は前期 6 名（全員留学生）で、後期 0 名。

担当：アンデス・カールキビスト

### Japanese Traditional Culture A（いけばな A）

国際教育科目「Japanese Traditional Culture A」は留学生、日本の学生が組んで、専攻や学年制限なしで参加できる日本文化プログラムである。前期に行い、日本いけばな（池坊）をテーマにし、イントロダクション（1回）・いけばなの歴史①（いけばな入門）・盛り花の稽古（5回）・いけばなの歴史②（いけばなの伝統）・生花（しょうか）の稽古（5回）・復習（2回）の順で日本の文化の1つであるいけばなを勉強、体験した。

授業の基本的な形はお稽古だが、留学生と日本の学生の交流の場にもなり、いけばなの歴史の勉強を行った。教室内では英語を使い、日本の学生にとっては英語の練習にもなったはずだが、平成29年度には日本学生は参加せず（28年度及び30年度にはいた。花材は留学生に自己負担した。（お稽古1回につき千円、計10回のお稽古の花材は合計一万円）

「Japanese Traditional Culture A」の参加者

この授業履修を契機に留学生に限らず日本の学生も知らなかった日本文化や歴史に触れ、知り得なかったそれらを深く学習できた。28年度の参加者は7名（全員は留学生）。

担当：アンデス・カールキビスト

### グローバリゼーションと世界

授業の目的・到達目標：今日、様々な場面で使われる「グローバリゼーション」という言葉の意味及び、グローバル化の実際の状況に関する認識を深め、受講者が、社会生活を営む際に有益な情報及び知見を提供することが本講義の目的である。「グローバリゼーション」とは何かというテーマにつき、その概念の意味の検討及び今日の状況につき、情報、人、市場、富、環境といった観点から検討を行う。到達目標は、「グローバリゼーション」という概念の意味と、実際に世界で起こる諸現象について理解することである。

授業の概要： 最初に、「グローバリゼーション」という言葉の意味に関する議論を概観し、その解釈につき議論を行った。その後、「情報とグローバル化」では、情報伝達の加速・情報量の増大とリアリティの把握の可能性に関して議論し、「人とグローバル化」では、人の移動、人的資本に関する現状を概観した。「富とグローバル化」では、富の移動と平等・不平等につき、「市場とグローバル化」では、市場の開拓の必要とその歴史的展開を、「環境とグローバル化」

では、地球の歴史と人類の歴史、環境問題と今後の展望につき概観し、グローバリゼーションの現状に関する理解を深めた。授業の形式：講義と学生参加の発表及びディスカッションを交えて行なった。

報告：石松弘幸

**多文化社会論（平成 29 年度後期）**

授業の目的・到達目標：今日の多文化社会における様々な問題と共生のための課題について、理論的視角と取り組みのケースを学習することによって、今後受講者が日本や外国の多文化社会や共生のありかたについて議論をするための、一つの礎を提供することが本講義の目的。到達目標は今日の多文化社会における様々な問題と共生のための課題を理解することである。

授業の概要：今日の多くの社会は「多元的である」とか「多文化的である」といわれる。また、同時に多元的・多文化的な社会において、他者や異文化との共生の必要性も議論されている。たしかにグローバリゼーションのもとで国境を越えた人の移動も多くなり、複数の文化によって構成される国においては、先住権や文化維持権をめぐる論争などもしばしば見受けられるが、今日の多元社会や多文化社会においてはなにが問題とされ、他者や異文化と共生をするためには、どのような課題が解決されなければならないのだろうか。この講義では、主に現代政治理論の分野における多文化社会の理論や論争を紹介し、ヨーロッパの多文化社会をめぐる問題と共生に向けての制度やその他の取り組みについて議論を行った。

授業の形式：講義と学生参加の発表及びディスカッションを交えて行った。岩手県庁や国際交流協会を訪問し、多文化状況への対応及び国際交流の関係者にインタビューを行い、意見交換も実施した。

報告：石松弘幸

# 短期留学生・日本語日本文化研修留学生個別研究

## 1. 概要

交換留学文系コースおよび日本語日本文化研修留学生に対する必修科目として「個別研究」を課している。今年度は、グローバル教育センターの専任教員5名の指導・助言を受けながらそれぞれのテーマで研究し、今年度から口頭発表と論文作成に替えて日本語または英語でポスター発表を行った。なお、芸術系コースの学生については、それぞれの所属において、作品制作などに取り組んだ。

## 2. 研究テーマ

各学期の対象学生および研究テーマは以下の通りである。

| 前期　（口頭発表会　平成29年年 7 月 21 日） | |
|---|---|
| 所属 | 研究課題 |
| タイ・サイアム | タイと日本のごみの分別の違い |
| フランス・ボルドー第 3 | 会津本郷焼 |
| 韓国・群山 | 韓国と日本のインディーズ音楽の比較 |
| 韓国・明知 | 韓国と日本の映画産業の違い |
| アメリカ・ノースセントラル・カレッジ | アメリカ人にとってのグローバル化する日本の文化 |
| 中国・西北 | 中日大学生の支払い方法の比較 |
| ロシア・サンクトペテルブルグ国立文化芸術 | 日本とロシアの教育法の比較<br>―岩手とサンクトペテルブルグの大学の例― |
| タイ・サイアム | タイと日本の縁起菓子の比較 |
| フランス・ボルドー第 3 | フランスの城と日本の城の共通点と違い |
| カナダ・セントメアリーズ | Part-time work for university students |
| ロシア・サンクトペテルブルグ国立文化芸術 | 日本ハリストス正教会とロシア正教会 |
| 韓国・群山 | 地方と首都圏の大学生の政治関心度 |
| アメリカ・アラスカ | アーベン農園のビジネスモデルを活用した日本の有機栽培農園の展開 |
| 中国・西北 | 中国と日本の伝統あそび |
| アイスランド | 東日本大震災を体験した大学生の<br>体験振り返り調査 |
| フランス・ボルドー第3 | フランスと日本の中学校でのいじめ事件 |

（＊は日本語日本文化研修留学生を示す）

| 後期　　（口頭発表会　2018 年 1 月 19 日） | |
|---|---|
| 所属 | 研究課題 |
| 中国・寧波 | 宮沢賢治の協同組合構想について |
| 中国・曲阜師範 | 中日大学生の結婚観 |
| 中国・曲阜師範 | 日中奨学金制度の比較 |
| 中国・寧波 | みんなから見るアイドル |
| 韓国・明知 | オンラインゲームとビデオゲームに基づいた日本の E-Sport の発展可能性 |
| 中国・寧波 | 清末日本留学ブームの考察 |
| 中国・曲阜師範 | 仏教の思想と日常生活 |
| アメリカ・ノースセントラル・カレッジ | Ainu Religion VS Shinto:<br>How the Creation Compare |
| アメリカ・ノースセントラル・カレッジ | 日本のまんがとアニメと日本の歴史 |
| 韓国・明知 | 日本と韓国のカラオケの比較 |
| ロシア・サンクトペテルブルグ国立文化芸術 | Methods of teaching English in high school in Japan |

### 3. 現状と今後の展開

研究活動に慣れていない学生が多く、全員に対する研究手法等の説明を増やして対応した。また、交換留学生の受け入れ増加傾向は続いており、効率化を図るため、発表形態の変更を試みたところ、ポスターセッションで十分に教育効果が見られることが明らかになった。また、日本語力が十分ではない履修対象者が増えていることから、研究内容を充実させることを優先させ、英語での発表も一部認めることとし、言語能力に配慮した。

現在、各学部で学生交流協定が増加傾向にあり、これ以上の受け入れになった場合に現行方式では指導が行き届かなくなる可能性もあり、次年度以降の受け入れ留学生数によって再検討する。

報告：松岡洋子

# 北東北国立3大学合同合宿研修

## 1. 実施概要

北東北国立3大学は、留学生と日本人学生との共修教育の連携を図ることを目的とし北東北3大学合同合宿が平成 16 年度から行われている。岩手大学は「多文化コミュニケーション B」の履修者が参加対象となっており、また、第 3 期中期計画中に位置づけられた事業でもある。今年度は秋田大学が諸事情から不参加となり、岩手大学、弘前大学、東北大学の3大学での実施となった。

活動としては、大学紹介、学生主導によるアイスブレーク、大学混成のグループでの写真芝居創作を行った。

期　　間 ： 平成 29 年 11 月 25 日(土)～26 日(日)
場　　所 ： 岩手山青少年交流の家

参 加 者 ：

| | 留学生 | | 日本人学生 | | 計 | 引率 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男子 | 女子 | 男子 | 女子 | | |
| 岩手大学 | 17 | 8 | 4 | 9 | 38 | 2 |
| 弘前大学 | 4 | 14 | 5 | 7 | 20 | 1 |
| 東北大学 | 5 | 7 | 1 | 1 | 14 | 1 |
| 計 | 26 | 29 | 10 | 17 | 72 | 4 |

## 2. 参加者の反応

学生に対してアンケート調査を行った結果、期間(ちょうどいい74%)、場所(よかった34.4%、まあまあ41.5%)、共同作業(よかった52%、まあまあ39%)、2言語活動(よかった74%)と、概ね高い評価を得た。

以下に感想(自由記述・一部抜粋)を記す。

・I think this joint camp was very good over all but, I think that the group work took too much time. Because, I would love to spend time with other people , it student for other group work.

・I think it was a well organized program. Although the picture-story activity was very pedantic and therefore a bit tedious. Perhaps activities that involve problem solving , or activities that are quick, would be good but also has a competitive edge to it such as a quiz or games where everyone is included. Also physical activities are recommended.

・ほかの大学生と会えある機械は珍しいので、この合宿はよかったと思います。参加して、嬉しくて記憶に残る合宿になりました。
・初めて会う人と討論しながら一つのものをつくるというのはとてもいい経験になった。
・コミュニケーションが苦手な人間で、来るときは「行きたくない。帰りたい。」と再三言っていましたが、とても良い勉強になりました。来てよかったです。しかし、第二外国語ではやはり中国語を選べばよかったとひしひし感じました。
・他大学の生徒と留学生とたくさん交流できたのでとても楽しかったです。留学生の国の言葉を教えてもらったり、たくさん話したりできたので良かったです。自分は中国語を今勉強しているので、生の中国語を聞いて、話せたので嬉しかったです。これからもたくさんの人と交流して学びたいです。

### 3. まとめ

留学生と日本人学生の共修教育として、本合宿は継続されているが、各大学とも授業の一環として継続されるようになり、一定程度の意義が認められるようになった。

合宿の内容については、準備、経費、教育効果等を教員間で検討を継続する必要があり、今後の課題である。また、今回、秋田大学の引率教員が他の研修と日程が重なったために、合宿に参加できなくなった。次年度以降は、別の教員が引率することが確約された。

報告:松岡洋子

# デ・ラ・サール大学（フィリピン）英語研修

## 1. 研修の概要

本プログラムの概要は以下の通りである。

① 本プログラムは参加者が英語イマージョン環境を実現させ、かつ財政的負担をできるだけ軽減した英語研修プログラムとして実施した。

② フィリピンはマン・ツー・マン指導で知られるが、多国籍のクラスメイトとの英語による交流の教育的意義を重視することから、通常英語クラスへの参加とした。受講科目は現地で実施されるプレースメントテストの結果に従ったレベルから各自が 3 科目を選択した。

③ 岩手大学とデ・ラ・サール大学は 3 年間の事業協定を締結し、デ・ラ・サール大学が実施する英語コースに10名の学生を派遣した。

④ 学生寮への手配や授業料の支払い、事前事後研修など、研修実施に係るロジスティックスは CIEE に外部委託した。

⑤ 現地から事後に送付される評価表に従い、翌年度 7 月に単位認定手続きを教員が一括して行う。

## 2. 実施内容

【スケジュール】

履修説明会　11 月 2 日（木）
事前研修　　1 月 8 日（月） 第 1 回オリエンテーション
　　2 月 14 日（水） 第 2 回オリエンテーション
海外研修　　2 月 28 日（水）～3 月 24 日（土）
事後研修　　4 月 3 日（火）

【参加者】

人文社会科学部　　1 年生 5 名
教育学部　　1 年生 1 名　2 年生 2 名
農学部　　1 年生 2 名

男女内訳　男子 1 名、 女子 9 名

【受講科目一覧】

| 科目名 | 受講人数 | 科目名 | 受講人数 |
|---|---|---|---|
| Conversational English 4 | 1 | Reading Comprehension & Vocabulary 5 | 4 |
| Conversational English 3 | 3 | Reading Comprehension & Vocabulary 4 | 5 |
| Conversational English 2 | 6 | Writing Skills 3 | 1 |
| English Grammar 5 | 9 | Writing Skills 2 | 1 |

### 3. 成　果

研修前後に実施したアンケート調査や振り返り作業の結果から、参加者はコミュニケーションベースの英語力の重要性を認識するとともに、実践への意欲も向上し今後の英語学習への意欲も示していた。また、全般的に積極性や行動力もついたと実感していることが明らかとなった。日本とフィリピンの歴史上の関係についてや自国の歴史や政治について自分が無知であったことを反省する記述もあり、自分の意見を持ってそれを表現することの重要性にも気づいた。欧米に比べて安価な英語研修であることが魅力となり参加したものの、マニラでは貧困や経済格差などの社会問題に否応なく目を向けることとなり、自身の価値観の変容に繋がった。クラスメイトの学習意欲に刺激を受けるとともに、課題を手伝ってもらったりするなどの交流を通して友情も育まれていたようである。クラスメイトや現地の学生との交流を通して多様な英語の発音に触れることで、自身の英語の発音を意識するようになるとともに、世界語としての英語を意識できるようになった。以上のことから、この研修は英語研修ではあるがそれ以外にも学生個々人にとって重要な学びを提供していることがわかった。

報　告　:尾中夏美

# 国際ボランティア in 陸前高田

## 1. 概要

前年度に実施した国際ボランティアの事前ニーズ調査をベースとして、陸前高田市の4つの場所においてボランティア活動を実施した。参加者は岩手大学と立教大学の日本人・留学生を募集し19名が参加、加えて地域創生専攻の大学院生3名がグローバルコミュニケーション科目の一環で参加した。この研修において参加学生たちは、異なった属性や文化背景・言語の学生たちとの協働作業を通じて、異文化対応能力を身につけること、英語使用も含んだコミュニケーション能力の向上と様々な違いを乗り越えて友情を育めることを体験することなどを目標としている。

## 2. 実施内容

【期　間】

2017 年 8 月 8 日（火）～8 月 11 日（金）（全4日間）

【スケジュール】

8 月　8 日（火）　一ノ関駅にて立教大学生と合流の後、TAPIC や奇跡の一本松等を視察後グローバルキャンパスへ。その後活動オリエンテーションとアイスブレーキング活動

9 日（水）担当場所にて終日ボランティア活動

10 日（木）担当場所にて終日ボランティア活動

11 日（金）グローバルキャンパスで日英両言語で振り返り活動、見学高校生との交流

【活動場所と活動内容】

黒崎仙郷温泉：景観を遮る松の伐採作業

気仙大工左官伝承館：鉋 1000 丁の油引き作業

陸前高田グローバルキャンパス：環境整備、小学生対象の PC 作り（台風のためキャンセル）

川の駅よこた：近隣の神社の下草刈り

【宿舎】

陸前高田市　民宿吉田

【参加者】

＜岩手大学＞　日本人学生　7 名　　留学生　4 名　　合計 11 名

＜立教大学＞　日本人学生　6 名　　留学生　6 名　　合計 12 名

＜引率教員＞ 岩手大学　2 名

報　告：尾中夏美

# 海外研修
# 「カリフォルニア・イノベーション研修」
# 「グローバル・プロ養成プログラム」

## 1. 趣旨と概要

グローバル・プロ養成プログラムとカリフォルニア・イノベーション研修は全国7大学から参加した大学生とともにカリフォルニア州シリコンバレーの企業訪問、現地でグローバルに活躍する日本人、日系人による講話と交流、スタンフォード大学・サンノゼ州立大学訪問と米国大学生との意見交換と意見報告会などの活動を通じて、グローバルなキャリア意識を高めることを主眼とした研修である。グローバル・プロ養成プログラムはカリフォルニア・イノベーション研修における約1週間の研修内容に加えて、その前後の期間にシリコンバレーの企業においてインターンシップ研修を行った。

## 2. 実施内容

【スケジュール】

カリフォルニア・イノベーション研修　2016年9月9日～18日

グローバル・プロ養成プログラム　　2016年8月23日～9月23日

【単位付与】

カリフォルニア・イノベーション研修　全学共通教育科目「キャリアを考える」2単位

グローバル・プロ養成プログラム　　国際教育科目「海外研修」2単位

国際教育科目「海外研修事前事後研修」2単位

## 3. 参加者

カリフォルニア・イノベーション研修

理工学部　　2年生　1名

グローバル・プロ養成プログラム

総合科学研究科　1年生　1名

## 4 経費

今年度は奨学金申請の結果不採択となったため、自己負担での実施となった。

報告:尾中夏美

# 米国アーラム大学サイスプログラム関連事業報告

## 1. 2017 年度サイスプログラム概要

岩手大学では米国インディアナ州にあるアーラム大学と 2003 年 8 月 11 日に学術協定を締結し、2005 年度にはさらに学生交流の覚え書きを交わした。本学はアーラム大学が毎年盛岡市に学生を派遣して実施するサイスプログラム（SICE: Studies in Cross-Cultural Education）に対して以下の支援を行っている。

(1) サイス学生に対する日本語教育の提供

(2) サイスプログラムの引率教員がサイス参加学生に対して授業を行う教室の提供

また、サイスプログラム参加学生は岩手大学の学園祭である不来方祭でも留学生会と協力して模擬店を出すなどして、岩手大学学生と連携しながら大学行事にも参加している。今年度のプログラムの概要は以下の通りである。

受け入れ期間：2017 年8月 28 日（月）～11 月 30 日（木）　　参加人数：4 名

## 2. ハローパーティー

岩手大学生とサイス学生との交流の場を提供する目的で、ハローパーティー（日英での交流）を行った。　　日時：10 月 5 日（木） 16:30-18:00

## 3. English Camp

アーラム大学サイスプログラムと岩手大学の共同事業として、English Camp を実施した。詳細については本報告書「地域への支援事業」を参照。

## 4. 学内留学

サイス学生は引率教員の専門分野の講義をアーラム大学の教育プログラムの一環として英語で受講する。岩大生の英語能力向上に資する為岩手大学とサイスプログラム担当者とで協議して、若干名の岩大生がサイスプログラムの引率教員の講義を聴講できることとなり、岩手大学ではこれを「学内留学」と呼んでいる。履修学生には現在は単位認定を行っていないが、グローバル教育センター長より修了証書を授与し、アーラム大学から成績評価が本人に送られた。今年度は人文社会科学部 3 年生と教育学部 3 年生の 2 名が履修した。

## 5. アーラム大学サイスプログラム引率教員による特別講義

サイスプログラムの受け入れ期間中に一度、例年引率教員は国際月間の事業として専門分野に関連した特別講義を実施する。今回は、「アート・イン・プラクティス」と題して平易な英語を使って 11 月 9 日に実施した。

報　告：尾中夏美

# 平成 29 年度新入生オリエンテーション

## 1. 実施したオリエンテーション等（前期及び後期にそれぞれ実施）

**・留学生オリエンテーション**

国際課及び保健管理センターから、新入生に必要な手続き及び日本での生活や履修登録等について説明を行った。また、盛岡東警察署から生活上の注意点について、岩手大学EMS委員からゴミの分け方・出し方のルールについて説明があり、安全・快適な新生活をスタートさせる一助とした。説明は、グローバル教育センター及び国際課教職員が英語及び中国語の同時通訳を行った。

**・国際交流会館オリエンテーション**

新入居者の紹介を兼ね、入居者全員を対象に国際交流会館での生活上のルール及び寄宿料等についての説明を行った。説明後は入居者の自己紹介の時間とし、入居者相互の交流の場とした。

**・キャンパスツアー及びライブラリーツアー**

キャンパスツアーでは、サークルU、岩手大学留学生会及び中国人留学生学友会が中心となり、岩手大学キャンパスの各施設の場所や行き方について、案内及び説明を行った。

ライブラリーツアーでは、学内の図書館の使用方法の説明を行った。留学生は、英語グループと中国語グループに分かれ、図書館職員から説明を受けた。サークルU、岩手大学留学生会、中国人留学生学友会、グローバル教育センター及び国際課が図書館職員の説明を英語又は中国語の通訳を行った。

**・チューターオリエンテーション**

平成29年度にチューターを行う学生に対して、チューターの概要説明、注意事項及び手続きについて説明を行った。

## 2. 各種オリエンテーション等の実施日程等

### 2.1 前期

**(1)留学生オリエンテーション**

日　時：平成 29 年 4 月 10 日(月)13:30～14:40
会　場：理工学部　銀河ホール
対象者：45 名

⑵ キャンパスツアー、ライブラリーツアー

日　時:平成 29 年 4 月 6 日(木)14:30～15:30

会　場:学生センターB棟1階　多目的室、図書館等

対象者:45 名

⑶国際交流会館オリエンテーション

日　時:平成 29 年 4 月 5 日(水)10:00～11:00

会　場:学生センターB棟1階　多目的室

対象者:10 名(国際交流会館入居者)

⑷チューターオリエンテーション

日　時:平成 29 年 4 月 13 日(木)16:30～17:30

会　場:学生センターB棟1階　多目的室

対象者:67 名

2.2　後期

⑴留学生オリエンテーション

日　時:平成 29 年 10 月 6 日(金)13:00～14:10

会　場:理工学部　銀河ホール

対象者:55 名

⑵キャンパスツアー

日　時:平成 29 年 9 月 26 日(火)15:30～16:30

会　場:学生センターA 棟 1 階 19 講義室等

対象者:55 名

⑶ライブラリーツアー

日　時:平成 29 年 10 月 6 日(金)14:15～14:45

会　場:図書館

対象者:55 名

⑷国際交流会館オリエンテーション

日　時:平成 29 年 9 月 25 日(月)15:00～16:00

会　場:学生センターB棟1階　多目的室

対象者:24 名(国際交流会館入居者)

**(5)チューターオリエンテーション**

日　時:平成 29 年 10 月 13 日(金)16:30～17:30

会　場:学生センターB棟1階　多目的室

対象者:66 名

# 海外留学支援事業

海外の大学との学生交流や様々な海外研修プログラムについての情報提供の場として以下の事業を実施した。

### 1. 海外留学・研修オリエンテーション

実施日程:5 月 10 日(水)～16 日(火)

オリエンテーションの内容は、表 1 の通りである。

**表 1. プログラム**

| 日付 | 時 間 | 内 容 |
|---|---|---|
| 5月 10 日 | 12:10～12:55 | シリコンバレー短期研修・インターンシップ研修(全学)、事前事後研修説明、体験報告 |
| | 16:30～16:50 | 岩手大学派遣プログラム概要説明 |
| | 16:50～17:20 | 国際研修@フィリピン―貧困と持続可能な社会(全学) |
| | 17:20～17:50 | フィリピン英語研修(全学) |
| 5月 11 日 | 12:05～12:35 | トビタテ！留学 Japan 全国版体験報告 |
| | 12:35～12:55 | フランス交換留学体験報告 |
| | 16:30～16:50 | 岩手大学派遣プログラム概要説明 |
| | 16:50～17:10 | フランス交換留学・短期研修(人社) |
| | 17:10～17:30 | ロシア交換留学(全学) |
| | 17:30～17:50 | シンガポール短期研修(人社) |
| | 17:50～18:05 | アイスランド交換留学(人社) |
| 5月 12 日 | 12:05～12:25 | フィリピン短期英語研修体験報告 |
| | 12:25～12:45 | 国際研修@フィリピン―貧困と持続可能な社会体験報告 |
| | 16:30～16:50 | 岩手大学派遣プログラム概要説明 |
| | 16:50～17:10 | 米国・カナダ交換留学(全学) |
| | 17:10～17:30 | タイでの教育実習(教育)、短期日本語実習・異文化理解研修(全学) |
| | 17:30～17:45 | 国際研修@北欧―エネルギーと持続可能な社会(全学) |
| | 17:45～18:00 | トビタテ！留学 Japan 全国版(全学) |
| 5月 15 日 | 12:10～12:55 | 国際ボランティア・国際エコボランティア、体験報告(全学) |
| 5月 16 日 | 12:05～12:20 | 国際研修@イタリア―工芸体験報告(全学) |
| | 12:20～12:50 | 国際研修@北欧―エネルギーと持続可能な社会体験報告 |
| | 16:30～16:50 | アラスカ大学交換留学(人社) |

## 2. 留学説明会

全学対象の交換留学申請のための説明会を以下のように実施した。

日程:7 月 12 日(水)

対象となるプログラム:(米国)テキサス大学オースチン校、アーラム大学

(カナダ)セント・メアリーズ大学

## 3. 個別留学相談

個別留学相談は学生それぞれで異なる空き時間に個別対応するため、不定期に実施している。相談受付のポスターは常時掲示しているので、希望者は国際課を通すか直接メールで相談時間を予約する。平成 29 年度はのべ人数 47 名が留学相談に訪れた。トビタテ!留学 Japan 全国版や地域人材コースに関する相談が微増している。

**表 2.所属別のべ人数**

| 学部 | 人社学部 | 教育学部 | 工学部 | 農学部 |
|---|---|---|---|---|
| 学部生 | 17 | 4 | 3 | 18 |
| 院生 | 0 | 0 | 2 | 3 |

## 4. Super English, Step-up English, Foundation of English

留学や海外研修を目指す学生の英語基礎トレーニングコースとしてステップ・アップ・イングリッシュを実施し、またこのコース修了者で一定レベルに達した学生対象に、TOEFLiBT®で交換留学が可能となるレベルに到達させることを目標とする Super English を実施している。1 学期 11 週間開講し、英語力で一定条件を満たす学生が Step-up English を履修できる。

**表 3. 受講者数**

| | | 2017 年度前期 | | | | | 2017 年度後期 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SUE | 所属学部 | 人社 | 教育 | 工学 | 農学 | 合計 | 人社 | 教育 | 工学 | 農学 | 合計 |
| | 人数 | 1 | 4 | 1 | 3 | 9 | 4 | 3 | 1 | 1 | 9 |
| SE | 所属学部 | 人社 | 教育 | 工学 | 農学 | 合計 | 人社 | 教育 | 工学 | 農学 | 合計 |
| | 人数 | 2 | 1 | 1 | 2 | 6 | 2 | 1 | 1 | 1 | 5 |

## 5. 国際月間

日程:10月31日(火)～11月30日(木)

報　告:尾中夏美

# 多言語多文化交流空間
## Iwate University Global Village

### 1．概要

大学内における教育のグローバル化が求められている中、「地域に顕在化した諸課題をグローバルな視点から解決し発信できる人材の育成」を目的に、平成28年度より課外国際教育プログラム「多文化多言語交流空間Global Village」を開始した。特任教員（ブラネン・ウィリアム氏）との連携の元、4月から2018年1月末までに以下の総計32回のイベント、セミナー、ワークショップ等の国際共修事業を企画運営し、留学生を含むのべ総数509名が参加した。アンケート調査の結果、99%以上の参加者が参加してよかった、と返答した。また、学生スタッフを育成し、学生の企画・発表能力開発を試みた。

### 2．参加者数と内訳

参加者数および内訳は以下の通りである。

（1）月別参加者数 （表1）

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 10月 | 11月 | 12月 | 2018年1月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人数 | 43 | 56 | 46 | 66 | 66 | 69 | 54 | 42 | 442 |

（2）日本人学生・留学生別参加者数（表2）

| | 日本人学生 | 留学生 | 外部 | 研究員 |
|---|---|---|---|---|
| 人数 | 315 | 107 | 18 | 2 |
| 割合 | 71% | 24% | 4% | 0.5% |

（3）学部別参加者数内訳（表3）

| 学部 | （理）工 | 教育 | 人社 | 農学 |
|---|---|---|---|---|
| 人数 | 85 | 114 | 131 | 80 |

（4）学年別参加者数内訳（表 4）

| 学年 | 学部 1 | 学部 2 | 学部 3 | 学部 4 | 修士 1 | 修士 2 | 研究員 | 博士課程 | IE | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人数 | 75 | 24 | 31 | 16 | 4 | 2 | 12 | 6 | 22 | 15 |

### 3. 活動の内容

活動内容は主に、①国際交流・異文化体験・日本文化紹介など、留学生と日本人学生との多言語による各種交流・共修イベント、②世界と地域で活躍する人々によるグローカル講演会である。詳細は表5の通り。

表5. 平成29年度グローバルビレッジ活動内容一覧

| 回 | 日程 | 内容 | ファシリテーター・講演者 | 参加者（人）（日本人、留学生、N:学外、RF:研究員） | 日:留（%） | 学部別参加者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 4/26 Wed 12:00-13:00 | Welcome Party | William Brannen<br>Akira Iwabuchi (U. President) | 43<br>日 : 29<br>留 : 13<br>RF : 1 | 日 : 67<br>留 : 30<br>RF : 2 | 理 : 12<br>教 : 6<br>人 : 15<br>農 : 9 |
| 2 | 5/11 Thu 12:00-13:00 | Miracle Citrus Lecture | M. P. M. Nair<br>William Brannen | 17<br>日 : 16<br>留 : 1 | 日 : 84<br>留 : 5 | 理 : 6<br>教 : 1<br>人 : 6<br>農 : 4 |
| 3 | 5/17 Thu 12:00-13:00 | Presentation: St. Petersburg and Morioka | Katya Sokhareva<br>William Brannen | 23<br>日 : 20<br>留 : 2<br>RF: 1 | 日 : 87<br>留 : 9<br>RF : 4 | 理 : 5<br>教 : 7<br>人 : 6<br>農 : 5 |
| 4 | 5/18 Thu 10:30-12:00 | Nickel Trade Lecture | Yasushi Ohta<br>Hanayo Hirai<br>William Brannen | N/A | N/A | N/A |
| 5 | 5/23 Wed 12:00-13:00 | Chinese Kicking Game | Cui Huayue<br>William Brannen | 6<br>日 : 4<br>留 : 2 | 日 : 66<br>留 : 33 | 理 : 0<br>教 : 3<br>人 : 3<br>農 : 0 |
| 6 | 5/31 Wed | SCIP-Philippines World Café | Saori Yamaguchi<br>William Brannen | 10<br>日 : 10<br>留 : 0 | 日 : 100<br>留 : 0 | 理 : 2<br>教 : 2<br>人 : 2 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 12:00-<br>13:00 | | | | | 農学 : 4 |
| 7 | 6/7<br>Wed<br>12:00-<br>13:00 | Intro to Cuba | Ricardo Navarro<br>William Brannen | 14<br>日 : 11<br>留 : 3 | 日 : 79<br>留 : 21 | 理工 : 0<br>教育 : 3<br>人社 : 6<br>農学 : 5 |
| 8 | 6/15<br>Thu<br>10:30-<br>12:00 | South America-Japan Relations グローカル人材から学ぶ講演: 南米と岩手の深い関係 | Kyoko Yoshida<br>Hanayo Hirai | N/A | N/A | N/A |
| 9 | 6/21<br>Wed<br>12:00-<br>13:00 | Intro to Zen Gardens | Hiroyuki Ishimatsu<br>William Brannen | 17<br>日 : 14<br>留 : 3 | 日 : 82<br>留 : 18 | 理工 : 0<br>教育 : 7<br>人社 : 5<br>農学 : 5 |
| 10 | 6/29<br>Thu<br>12:00-<br>13:00 | International Quiz Show | William Brannen | 15<br>日 : 13<br>留 : 2 | 日 : 87<br>留 : 13 | 理工 : 2<br>教育 : 5<br>人社 : 4<br>農学 : 0 |
| 11 | 7/1<br>Sat<br>10:00-<br>12:30 | 多文化キッズプロジェクト「世界の遊びを楽しもう」 | Yoko Matsuoka<br>William Brannen | 20<br>日 : 3<br>留 : 5<br>子ども:7名<br>保護者 : 2名<br>教員 : 3名 | N/A | N/A |
| 12 | 7/6<br>Thu<br>12:00-<br>13:00 | English Opportunities | Chika Yamashita<br>Kazunori Aikawa | 13<br>日 : 12<br>留 : 0<br>外部 : 1 | 日 : 92<br>留 : 0<br>外部 : 8 | 理工 : 4<br>教育 : 1 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | William Brannen | | | 人社 : 5<br>農学 : 1 |
| 13 | 7/12<br>Wed<br>12:00-<br>13:00 | How to Survive in France | Mistuki Bizen<br>William Brannen | 10<br>日 : 10<br>留 : 0 | 日 :100<br>留 : 0 | 理工 : 2<br>教育 : 3<br>人社 : 2<br>農学 : 3 |
| 14 | 7/13<br>Thu<br>12:00-<br>13:00 | Impromptu Talk:<br>留学 Experience | Gaku Ishimura<br>Natsumi Onaka<br>William Brannen | 8<br>日 : 6<br>留 : 2 | 日 : 75<br>留 : 25 | 理工 : 1<br>教育 : 3<br>人社 : 2<br>農学 : 2 |
| 15 | 7/20<br>Thu<br>12:00-<br>13:00 | Satoyama Diorama | Cole Murphy<br>William Brannen | 10<br>日 : 8<br>留 : 2 | 日 : 80<br>留 : 20 | 理工 : 0<br>教育 : 3<br>人社 : 4<br>農学 : 3 |
| 16 | 7/26<br>Wed<br>12:00-<br>13:00 | Can Cats Converse? | Chiharu Suzuki<br>William Brannen | 5<br>日 : 4<br>留 : 0<br>外部 : 1 | 日 : 80<br>留 : 0<br>外部 : 20 | 理工 : 0<br>教育 : 2<br>人社 : 1<br>農学 : 1 |
| 17 | 10/11<br>Wed<br>12:00-<br>13:00 | Welcome Party | William Brannen | 30<br>日 : 13<br>留 : 17 | 日 : 43<br>留 : 57 | 理工 : 6<br>教育 : 12<br>人社 : 11<br>農学 : 1 |
| 18 | 10/24<br>Tue<br>13:00-<br>14:30 | JICA-Guatemala/ Volunteering in Tono | Toshie Oikawa<br>Hanayo Hirai | 8<br>日 : 5<br>留 : 2<br>外部 : 1 | 日 : 63<br>留 : 25<br>外部 : 13 | 理工 : 0<br>教育 : 3<br>人社 : 4<br>農学 : 0 |
| 19 | 10/25<br>Wed<br>12:00-<br>13:00 | Manila/Cebu | Yukiya Sato<br>Mitsuki Bizen<br>Haruka Fujimori<br>Seika Muramatsu | 13<br>日 : 13<br>留 : 0 | 日 : 100<br>留 : 0 | 理工 : 1<br>教育 : 3<br>人社 : 5<br>農学 : 4 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | Shintaro Kamio<br>Kazuki Tabata<br>William Brannen | | | |
| 20 | 10/31<br>Tue<br>12:00-<br>13:00 | Halloween<br>Workshop | William Brannen | 15<br>日 : 8<br>留 : 7 | 日 : 53<br>留 : 47 | 理工 : 3<br>教育 : 4<br>人社 : 7<br>農学 : 1 |
| 21 | 11/1<br>Wed<br>12:00-<br>14:00 | UNHCR Film:<br>Nice People | Roman<br>Trigubenko<br>Hanayo Hirai<br>William Brannen | 7<br>日 : 5<br>留 : 2 | 日 : 71<br>留 : 29 | 理工 : 2<br>教育 : 0<br>人社 : 4<br>農学 : 1 |
| 22 | 11/8<br>Wed<br>12:00-<br>13:00 | Film:<br>Restaurant of<br>Many Orders | William Brannen | 7<br>日 : 7<br>留 : 0 | 日 : 100<br>留 : 0 | 理工 : 1<br>教育 : 0<br>人社 : 4<br>農学 : 2 |
| 23 | 11/13<br>Mon<br>12:00-<br>13:00 | JICA-Iraqi<br>Officials | Satoko Noguchi<br>Hanayo Hirai<br>William Brannen | 18<br>日 : 13<br>留 : 5 | 日 : 72<br>留 : 28 | 理工 : 2<br>教育 : 8<br>人社 : 6<br>農学 : 2 |
| 24 | 11/14<br>Tue<br>12:00-<br>14:30 | Lectures by<br>Testuya Kamijo | Testuya Kamijo<br>Hanayo Hirai<br>William Brannen | 15<br>日 : 9<br>留 : 5<br>外部: 1 | 日 : 60<br>留 : 40 | 理工 : 1<br>教育 : 4<br>人社 : 5<br>農学 : 4 |
| 25 | 11/29<br>Wed<br>12:00-<br>13:00 | Presentation:<br>Inner Mongolia | Tianfang Lin<br>William Brannen | 22<br>日 : 17<br>留 : 4<br>外部: 1 | 日 : 77<br>留 : 18<br>教職員 :<br>5 | 理工 : 9<br>教育 : 4<br>人社 : 1<br>農学 : 7 |
| 26 | 12/7<br>Wed<br>13:00-<br>14:30 | Life in Iwate:<br>Japan and the<br>Philippines<br>Lecture | Mila Mukai<br>Hanayo Hirai<br>William Brannen | 8<br>日 : 6<br>留 : 2 | 日 : 75<br>留 : 25 | 理工 : 0<br>教育 : 3<br>人社 : 2<br>農学 : 3 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 27 | 12/13<br>Wed<br>12:00-<br>13:00 | Winter Holiday Party | William Brannen | 46<br>日 ：36<br>留 ：10 | 日 ：28<br>留 ：72 | 理工 ：17<br>教育 ：13<br>人社 ：6<br>農学 ：10 |
| 28 | 1/9<br>Tue<br>13:00-<br>14:30 | Career Paths in United Nations/ Passion for Peace Building and Conflict Resolution | Michiko Kuroda<br>Hanayo Hirai | 13<br>日 ：8<br>留 ：4<br>外部 ：1 | 日 ：61<br>留 ：31<br>外部 ：8 | 理工 ：1<br>教育 ：4<br>人社 ：5<br>農学 ：2 |
| 29 | 1/18<br>Thu<br>12:00-<br>13:00 | An Indonesian view on Nitobe Inazo | Pujo Purnomo<br>Anders Carqlvist<br>William Brannen | 20<br>日 ：8<br>留 ：12 | 日 ：40<br>留 ：60 | 理工 ：6<br>教育 ：7<br>人社 ：7<br>農学 ：0 |
| 30 | 1/23<br>Tue<br>12:00-<br>13:00 | NPO Education Challenges in Nepal | Yukiya Sato<br>William Brannen | 9<br>日 ：7<br>留 ：2 | 日 ：78<br>留 ：22 | 理工 ：2<br>教育 ：3<br>人社 ：3<br>農学 ：1 |
| 31 | 11/15 | 海外研修参加体験報告会 | International Office/Students | 67 | N/A | N/A |
| 32 | 11/16 | | | | | |
| 33 | 11/17 | | | | | |
| 34 | 11/22 | | | | | |
| 35 | 11/24 | | | | | |

**4. 学生の満足度**

各イベント後に参加者アンケートを実施した。その結果、以下のように67%の参加者が参加して大変よかった、残り33%がよかったと返答し、ほぼすべての参加者が満足感を得たことがわかった。

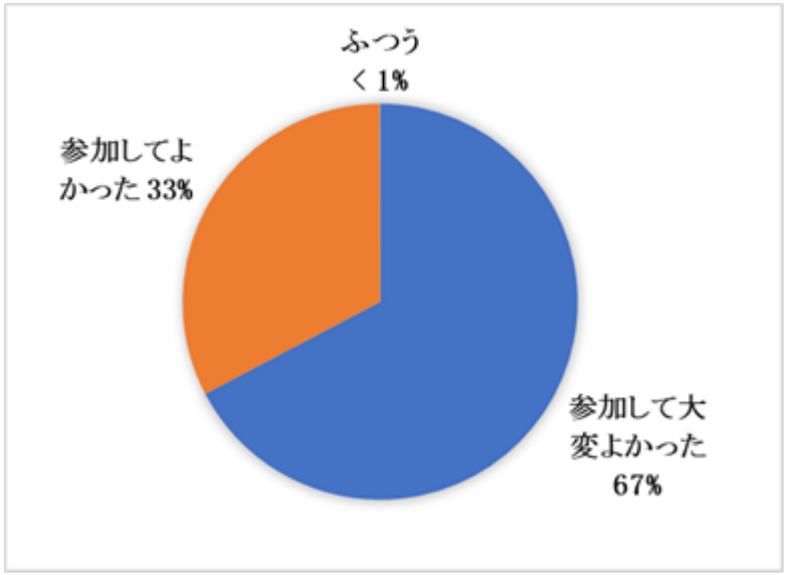



図1. 参加学生による活動評価

## 5. 周知方法

事業イベントの広報については以下に示すA～Iの周知方法を用いた。参加した学生へのアンケートを元に、学生のイベント情報の入手経路を示した(図2)。先生、友人からの直接の周知広報(C及びG)、いわゆる口コミが全体の38%を占め、学生の参加を促す効果的な周知方法であることがわかった。

A. グローバルヴィレッジのメール・Email from William (directly)
B. 国際課のメール・Email from the International Office
C. 先生からの勧め・Instructor's recommendation
D. 岩手大学・国際交流の HP・ Iwate University International Office Homepage
E. 岩手大学国際交流のフェースブック・International Office Facebook Post
F. 掲示のチラシ・Bulletin board flyer/calendar
G. 友達・Classmate/Friend
H. アイアシスタント・I-Assistant
I. その他・Other

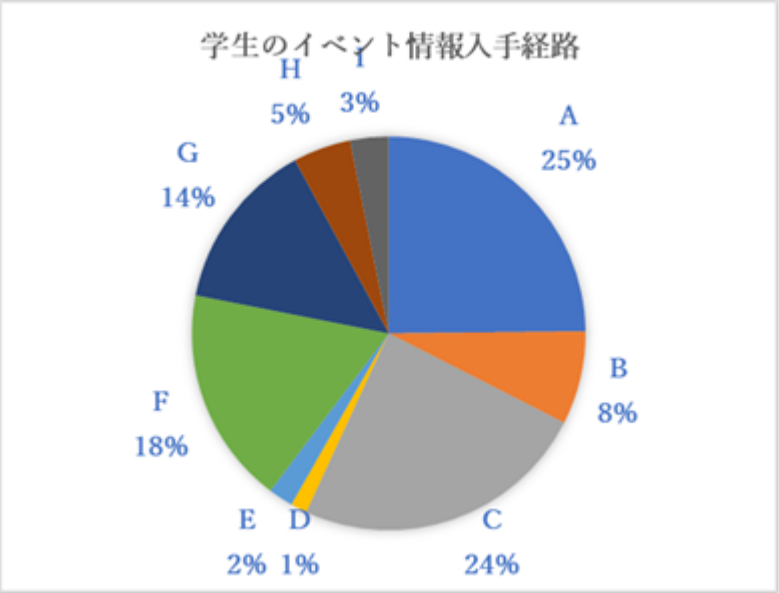



図2. 学生のイベント情報入手経路

## 6. まとめ

グローバルビレッジ常駐特任教員、学生スタッフとの連携の元、活動を拡充・充実化した。のべ 500 名を超える全学部からの学生と留学生が集う活気ある教育活動展開を行い、参加者からの高い満足感を得た。周知方法については、教員や友人といった身近な人からの直接的な広報が効果的であることがアンケート結果からわかった。次年度もグローカルな活動を実施するとともに、学生スタッフの主体的企画運営能力のさらなる育成を試みる。

報告:平井華代

# IHATOVO グローバルコース・グローバルマイレージ

## 1. 概要

グローバル教育センターでは、岩手に顕在化するグローバルな課題を理解し、解決に貢献し、発信する力を養成することを目的として、第 3 期中期目標・計画に基づき、IHATOVO グローバルコースを平成 28 年度後期に設定し、平成 29 年度は新カリキュラム履修の 1, 2 年次を対象に登録を進めた。本コースは、学部、学年の垣根を超え、授業と授業外での活動によって構成され、受講・活動歴に対してマイレージを付与して、学生の意欲を喚起する。

## 2. コースのコンセプトと構成

本コースは、以下のようなコンセプトで実施する。

◎学生のグローバル、グローカルな学び、活動を推奨し、多様な知識や体験を積み重ね、いわて協創人材としての力を向上させる。

◎マイルを付与することで学生の学びを可視化し、奨励する。

◎A～Dのすべてのカテゴリーを履修し、かつ、課外活動のいずれかに参加した者に対し、マイルの達成度に応じて認定証を授与する。

IHATOVO グローバルコース・ゴールド達成 2000 マイル以上獲得

IHATOVO グローバルコース・シルバー達成 1500 マイル以上獲得

IHATOVO グローバルコース・ブロンズ達成 1000 マイル以上獲得

【教育活動の分類】

| カテゴリー | 推奨授業（例） | 推奨課外活動（例） |
|---|---|---|
| A. 外国語 | 英語発展等 | Foundation of English, Super English、ニイハオ！漢語、海外語学研修等 |
| B. ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ | 多文化コミュニケーション、現代の諸問題等 | グローカル語り場、多文化ｷｯｽﾞｷｬﾝﾌﾟ、English Camp 等 |
| C. 国際教養 | 地域と国際社会、Comparative Japanese、国際講義等 | がんちゃん国際フォーラム、国際講演会等 |
| D. 実　践 | 地域課題演習 E,F、海外研修―世界から地域を考える、キャリアを考える等 | 学内留学、海外インターンシップ、国際ボランティア等 |

### 3. 実施状況

平成 29 年度は、IHATOVO ポートフォリオシステムとして manaba を活用（登録者 80 名）すると同時に、情報基盤センター技術部に依頼し、マイレージシステムを構築した。

### 4. 今後の展開と課題

本コースは全学的な認知がまだ低い状況にあるが、グローバル教育センターの各種教育事業、授業の参加者を中心に登録者が増加してきた。また、マイレージシステムの構築により、次年度より、IHATOVO グローバルコース参加よりも簡易な形で国際教育プログラムへの参加奨励を進める予定である。

なお、登録作業については、人的、財政的観点から改良が必要であり、より簡便な登録システムの開発を次年度に進める予定である。

報告：松岡洋子

# グローバル教育センター主催公開グローバルシンポジウム
# -奨学金”という名の借金：日米仏の学生の声から-
# -Scholarship? Or Education Loan?-Debt for the future-

## 1. 実施の経緯

本プログラムの実施経緯は以下の通りである。

⑥ 2018 年度前期の個別研究を履修したカナダからの交換留学生が、自国の奨学金制度に対して問題意識を持ち、カナダと日本の奨学金制度の比較を研究テーマに取り上げた。個別研究の口頭発表会において、日本の奨学金制度（実質上の低利子学資ローン）が予想に反してカナダのそれより条件が悪かったという結果を述べた。これを受けて、聴衆である他の学生たちから様々な意見が出され、政治への悲観論も述べられるなど大変白熱した。

⑦ 同時期に SCIP（貧困と持続可能な社会）の事前研修で奨学金問題の調査をしていた学生から自身の経験をもとに、日本の若者の奨学金問題に関わる社会的課題について指摘があった。

⑧ この時点で社会問題化しメディアでも広く取り上げられていた奨学金問題を、大学で取り上げることが教育上も適当と判断し、シンポジウムを開催することとした。奨学金問題が日本だけに特化した問題ではないことから、同じく奨学金問題を抱える米国からの交換留学生と、基本的に大学の授業料負担が低いことで知られるフランスからの交換留学生に発表を依頼した。

⑨ シンポジウム運営については、事前準備と当日の運営について学内カンパニーECL に委託した。教員と ECL 社員とで数回打ち合わせを実施した。学外への広報活動は学校関係の他に、報道機関及び政治のステークホルダーである県議会議員、市議会議員に情報発信した。

⑩ シンポジウムの様子は岩手日報により報道された（下図参照）。

## 2. 実施内容と態勢

①実施日　2017年11月28日（火）　16：30～18：00

②会場　　教育学部北桐ホール

③登壇者

- 日本から　　人文社会科学部　3年生
- アメリカから　ノース・セントラル・カレッジからの交換留学生
- フランスから　ボルドー・モンテーニュ大学からの交換留学生

④司会進行と英語通訳

司会進行と日英語通訳はグローバル教育センターの教員2名が担当した。

⑤準備と当日の運営

広報活動、ポスター作成、当日の配布資料準備、受付業務などは、学内カンパニーECLの社員学生が担当した。

⑥当日の参加者

盛岡市の市議会議員約5名を含む約 40 名。

### 3. アンケートからのコメント（抜粋）

- ✓ 実際に学生の声がきけたこと。あと、若い人達に総合的支援が必要というのは、困窮者支援に関っているので、よく理解できました。オーストラリアでやっている「所得連動型変換ローン」について興味があるので、それをうけている学生さんがいたらお話をききたかったです。
- ✓ 日本の奨学金の返済はきついものだと思っていましたが、アメリカの話しを聞いて、奨学金で苦しんでいるのは日本だけではないことが分かって良かったから。奨学金システムについてもともと興味があったから。
- ✓ その国の教育システムについて沢山知ることができた。実際に、留学生の方からお話をきけたので、本にかいてあるような外面的な内容だけでなく、家庭、お金、社会、学校が密接にかかわっているといった内面的な部分をくわしく知ることができて良かった。驚くことがたくさんあった。
- ✓ 奨学金担当ですが、日本人含め海外の学生の話しを聞く機会があまりないため、貴重な経験だったと思います。

なお、シンポジウム終了後数名の市議会議員から感想が述べられた。「シルバー民主主義といわれるように、高齢者からのニーズはよく聞くが、若者からの声を聴く機会はあまりない。今回大学生の直面する課題や奨学金の実態について生の声を通じて知ることができ、貴重な情報を得た。」「今後、この課題について考えたい。」等の感想が聞かれた。

### 4. まとめ

登壇した日米仏の学生たちは、大勢の人を前に発表することは今回が初めてであった。それにも関わらず、自身と社会に通じる課題を伝えるため、懸命に準備を進め、熱心に発表を行った。質疑応答では、留学生を含め、参加者から多くの質問がなされ、関心の高さが垣間見られた。

貸与型奨学金の返済に不安を抱える若者の姿は、日本だけではなく、カナダ、アメリカにも共通に見られ、グローバルイシューの様相を呈している。シンポジウムでは、給付型奨学金の拡充が、日米双方の学生から訴えられた。アメリカの学生は、家族の生活困難から抜け出すために、ローンを多額に借りて勉学に励みつつも返済に不安を抱える自身の現状を報告した。日本の学生は、実家からの仕送り額が減額する一方、学費の高騰が続く日本の現状を示した

後、自身の経験を含め、親世代の雇用環境の悪化や介護離職による復職困難といった、社会問題についての問題喚起を行った。日米双方において、「大学卒業」が安定した収入の確保の実現のために必要である実情がある。しかし、返済を可能とする収入を確保できずに、その後の返済や人生設計に苦しむ若者は少なくない。

一方、政府の助成金や支援等により大学の学費が安価に抑えられているフランスからの発表では、入学目的が明確でないまま入学する学生数とその後の退学数の多さ、大学施設の老朽化と学生数に見合った教師数の確保の困難など、学習環境に課題があることが指摘された。

奨学金問題の改善には、給付型奨学金の拡充と、学費と学習環境のバランスの確保だけでなく、格差が広がる社会において、大学進学に至るまでの教育費を含む子育てにかかる費用が個々の家族に重くのしかかる現状を考えなおす必要がある。若者が借金に苦しまずに学べる環境を整えるために、家族関係費の社会保障の充実を視野に入れた取り組みが必要である。

岩手日報
2017年11月29日
岩手
世界の奨学金事情学ぶ
岩手大シンポ 留学生と意見交換
盛岡
盛岡市上田の岩手大（岩渕明学長）は28日、同大北桐ホールで、同大の学生と米国、フランスからの留学生が奨学金を取り巻く各国の事情について発表するシンポジウムを開いた。学生ら約40人が参加。奨学金を受けながら学ぶ人文社会科学部3年田畑一基さん（22）、日本の学生の状況を説明。米国ノース・セントラル大からの交換留学生アシュリー・ナウリンさん（20）、フランスのボルドー・モンテーニュ大からの交換留学生ルイズ・グランバルさん（21）が登壇した。
田畑さんは、大学の授業料が高くなる一方、家庭から学生への仕送りは減っていることなど、奨学金を借りなければ学ぶのが難しい学生が集中し、教師不足や設備の劣化など課題が山積している」と指摘した。
「日本の学生の状況を説明。米国ノース・セントラル大からの交換留学生アシュリー・ナウリンさん（20）、フランスのボルドー・モンテーニュ大からの交換留学生ルイズ・グランバルさん（21）が登壇した。
田畑さんは、大学の授業料が高くなる一方、家庭から学生への仕送りは減っていることなど、奨学金を借りなければ学ぶのが難しい」と指摘した。
「貸与型の『学生ローン』ではなく、給付型の『奨学金』制度を実現してほしい」と訴えた。
グランバルさんは「フランスの公立大は授業料が安く、返済が必要な奨学金は一般的ではない」とした上で、「学費が安い分、入学する学生が集中し、教師不足や設備の劣化など課題が山積している」と指摘した。
日米仏それぞれの国の奨学金事情についてで発表し合ったシンポジウム

（左図：掲示ポスター、右図：岩手日報 2017 年 11 月 29 日付新聞報道記事）

報　告　：尾中夏美、平井華代

# ―地域支援・地域連携業務報告―

# 地域日本語教育支援事業

## 1. 事業の趣旨

グローバル教育センター年度計画および第 3 期中期目標・計画に基づき、外国出身の住民が増加する地域社会のコミュニケーション課題解決の一助とすることを目的として、地域日本語教育支援事業を平成 17 年度から継続実施している。

平成 29 年度は、子どもの学習支援事業（情報交換会、指導者研修会および合宿研修）、地域の日本語教育に関するネットワーク事業を実施した。

## 2. 事業内容

### 2.1 子どもの学習支援事業

A. いわて多文化子どもの学習支援連絡協議会総会

日　　時：平成 29 年7月 11 日（火）13 時～14 時 30 分
場　　所：岩手大学学生センターA 棟会議室
参 加 者：岩手県教育委員会　佐々木　淳一　　盛岡市教育委員会　熊谷　一史
一関市教育委員会　和賀　真樹
(財)岩手県国際交流協会　福澤　淳一・日向亜由美
いわて多文化子どもの教室むつみっこくらぶ　村井　好子
ゆうの会代表　熱海　アイ子　　NIKK 代表　村井　浩和
岩手大学教育学部　大野　眞男（議長）
グローバル教育センター　松岡　洋子　国際課長　八重樫　敬（事務局）

＜協議内容＞

・研修会、学習支援活動等の協議会としての事業の報告および計画を承認後、各地域教育委員会および民間支援団体からの活動報告を経て情報交換を行った。その結果、学校教育現場と支援者との連携が不十分であること、指導が必要な子どもの把握が困難であることなどが挙げられ、支援人材バンクの活用法、指導が必要な子どもの把握等について引き続き情報交換することが確認された。

B. 平成 29 年度日本語指導が必要な外国人児童生徒等指導者研修会

日　　時：平成 29 年 10 月 24 日（火）10:00-16:30
場　　所：岩手県庁 12 階特別会議室
主　　催：岩手県教育委員会　岩手大学グローバル教育センター
いわて多文化子どもの学習支援連絡協議会
参 加 者：35 名
内　　容：
1. 報告「日本語指導に関する国、県の動向」（県教育委員会　佐々木淳一）

2. 事例報告　上田小学校　小田多紀子、一関小学校　及川　崇
3. 情報交換(グループ討議)
4. ワークショップ「初期指導の具体的な進め方と教材選択」
(外国人の子ども・サポートの会　田所希衣子)

午前中は、施策の説明および県内の指導事例報告および意見交換を行った。午後は初期指導の具体的な方法、教材について、仙台の先進事例の紹介を中心としたワークショップを行い、現場に還元可能な研修となった。

C. 多文化キッズキャンプ

日　　時:平成 30 年1月13 日(土)～14 日(日)
場　　所:岩手山青少年交流の家(岩手県滝沢市)
参加者:子ども　29 名　留学生 20 名　日本人学生 16 名　外国人学生 2 名
保護者　8名　スタッフ 11 名　計 86 名
概　要:

外国出身あるいは外国人の親を持つ子どもが増加しているが、学校への適応指導などの体制が整っていないため、学習や生活に困難を感じる子どもが少なくない。特に、東北地方は外国人散在地域で、学内外を問わずその支援が難しい。このような状況に対応するため、子どもたちの日本語学習や教科学習の支援と交流を目的として平成 19 年度から合宿研修を実施している。7 年前からは岩手県内に加え、青森、宮城、福島からも参加し、子ども、支援者との交流が定着している。今年度は、本学の留学生、日本人学生に加え、岩手県立大学、盛岡大学、東北大学、東北学院大学、東北医科薬科大学の学生たちの協力も得た。経費は、中島国際交流財団助成金、岩手大学グローバル教育センターおよび東北多文化アカデミーの資金と個人参加費により支弁した。

＜成果と課題＞

協議会総会および指導者研修会は定例化しており、県内の外国人児童生徒指導に関わる機関、団体のネットワーク機能を果たしている。継続の必要性は高いが資金確保が課題となっている。

### 2.2 日本語学習支援情報交流事業

**日本語学習支援ネットワーク会議 17 in 仙台**

日　　時: 2017 年 12 月 10 日(日) 10:00－16:30
場　　所: 東北大学
主　　催: 日本語学習支援ネットワーク会議17 in 仙台実行委員会
岩手大学グローバル教育センター

参 加 者： 200名

内　　容： 午前：分科会1　社会を支える多様な人材の今

発題1：日本語学校で学ぶ留学生の現状

（仙台観光国際協会堀野正浩）

発題2：技能実習生と地域との関わり

（宮城県国際化協会大泉貴広）

分科会2　子どもを取り巻く支援の広がり

発題1：地域で支える

（中野栄小学校区学校支援地域本部郷家勤）

発題2：中学卒業後に来日した子どもを支える

（外国人の子ども・サポートの会田所希衣子）

午後：外国につながる子どもと家族が地域で生きるということ

パネリスト：「二重言語で育つこと」森野カロリナ

（外国人の子ども・サポートの会）

「母語継承の意義」李王寧（仙台中国文化交流協会）

「地域社会での自己実現」

裘哲一（宮城華僑華人女性聯誼会）

ディスカッサント：高畑幸（静岡県立大学）

＜成果と課題＞

平成17年度より始まった「日本語学習支援ネットワーク会議」は、東北地区の大学、地域の日本語学習支援に関する関係者、関係機関のネットワークを活用し情報交流を継続している。平成 29 年度は日本語教育学会東北支部会と外国人の子どもの教育研究会との共催により、午後は午後のパネルディスカッションは合同企画として実施し、多くの参加者を得た。

なお、平成 30 年度は山形での開催が予定されている。地域の日本語教育を課題とする大学の教員、自治体国際化協会、市民団体との連携が継続されている事例は全国でも珍しく、今後とも継続が期待される。

報告：松岡洋子

# 岩手県留学生交流推進協議会

## 1. 岩手県留学生交流推進協議会総会

平成 29 年 11 月 17 日(金)、岩手大学学生センターB 棟1階多目的室で岩手県留学生交流推進協議会総会を行った。

総会には 13 の構成団体が参加し、平成 28 年度事業報告に続き、平成 29 年度事業計画として、①広報誌「留学生いわて」№30 の発行、②「第5回外国人留学生による“岩手のいいところ”写真展」の開催、③「グローバルキャリアフェアin岩手」への協力について、④外国人留学生生活状況調査の実施について、それぞれ審議のうえ実施することとした。

また、「平成 29 年度トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム地域人材コース」の採択状況や構成団体の平成 29 年度地域交流等実施計画、平成 29 年 5 月 1 日現在の各高等教育機関に在籍する外国人留学生数等について報告があった。

## 2. 本協議会協力事業「グローバルキャリアフェア in 岩手」の開催

岩手県及びいわてグローカル人材育成推進協議会(会長:岩手県知事　達増　拓也)では、県内留学生や JET プログラム参加者※など、日本語能力を持ち、日本の文化や社会システムに一定の理解を有するグローバル人材の岩手県内での就職や定着を支援するため、2 月 12 日(月・祝)にホテルメトロポリタン盛岡を会場に「グローバルキャリアフェア in 岩手」を開催した。

フェアには、外国人の採用に関心がある製造業やサービス業、旅行業など県内 21 の企業・団体が出展し、約 50 名の県内留学生や国際交流員等が参加した。

参加者は積極的に関心のある企業ブースを訪れ、日本語で仕事内容や必要とされる日本語レベル等について熱心に聞き取っていた。

当協議会では、今後も関係団体等と協力しながら、県内留学生等の県内就職や定着に向け取り組んでいく。

※ JET プログラムについて

(1)「語学指導等を行う外国青年招致事業」(The Japan Exchange and Teaching Programme)の略称で、総務省、外務省、文部科学省及び(一財)自治体国際化協会(CLAIR)の協力のもと、地方公共団体が主体となって実施している国際的人的交流事業である。
(2)昭和 62 年に外国語指導助手(ALT)や国際交流員(CIR)など 848 人の外国青年を日本に招致してスタートしたこのプログラムは、今年度で 31 年目を迎え、これまでの JET 参加者は 67 か国 66,000 人を超えた。

### 3. 第5回外国人留学生による“岩手のいいところ”写真展

平成30年2月7日(水)～2月16日(金)、岩手大学学生センターB 棟フリースペースにて、「第5回外国人留学生による“岩手のいいところ”写真展」を開催した。

本写真展は、留学生が感じた岩手を、写真で表現することで、言葉とはまた違う形でメッセージを広く一般市民に発信するとともに、双方が多様な視点から岩手の良さを考察することで、今後の交流推進に役立てることを目的としている。

第5回目となる今回は、テーマを「岩手の伝統」とし、留学生が岩手に来て日常生活の中で感じた岩手の伝統文化、歴史ある建造物、伝統料理、おまつりなどについて写真で表現してもらった。岩手大学・盛岡大学・岩手県立大学・盛岡情報ビジネス専門学校から28点の作品の応募があり、6点の作品が受賞した。

「桜と鯉のぼり」、「手焼盛岡煎餅」、「郷土芸能鹿踊」、「祈願」、「猫に口づけされる神社」、「岩手の伝統チャグチャグ馬チャン」などをタイトルに、岩手にきて出会った人や景色、文化などを切り取った作品が集まった。撮影場所は、盛岡手作り村、盛岡八幡宮、盛岡城跡公園、桜山神社など岩手の伝統や歴史を感じさせる場所が取り上げられていた。

学生センターB 棟フリースペースを会場とした展覧会は報道機関にも取り上げられ、協議会関係者だけではなく、県民の方々や岩手大学の教職員、学生さんが足を運んだ。

来場者の感想として「日本の良さを日本人よりわかっているように感じました」、「どれもステキな写真ばかりです」、「日本の夏祭りを代表する花火の色合いがとてもきれいです。特に赤色が目に入ってきました」など、写真展に訪れた方々からコメントを得た。

写真展最終日には、優秀作品の表彰および副賞の授与が行われた。岩手県留学生交流推進協議会長賞（1点）のほか、協賛企業から、株式会社久慈琥珀賞（3点）、株式会社岩手ホテルアンドリゾート賞（1点）の二つの特別賞も授与された。また、来場者の投票によりアザリア賞は、紫葉農園から美味しいリンゴが送られた。

＜協賛団体＞

株式会社久慈琥珀
株式会社ヒヤマフォトスタヂオ
株式会社岩手ホテルアンドリゾート
紫葉農園

＜表彰作品＞

(1)岩手県留学生交流推進協議会長賞

「盛岡花火」 キアーターダー　ジャンウィジットクン （タイ） 岩手大学

(2)株式会社久慈琥珀賞

「チャンス」 サンス　エロディ　フランス　岩手大学

「塩焼秋刀魚」 賈　潤鑫(カ　ジュンシン) 中国　岩手大学

「猫に口づけされる神社」 李　成浩(リ　セイコウ) 中国　盛岡大学

(3)株式会社岩手ホテルアンドリゾート賞

「祈願」 賽旦夏　阿木提(サイダンカ　アムチ) 中国　盛岡情報ビジネス専門学校

(4)アザリア賞(来場者投票による選出)

「盛岡花火」 キアーターダー　ジャンウィジットクン （タイ） 岩手大学

報告:国際課

# English Camp

## 1. 趣旨

本事業は東日本大震災直後から釜石市、田野畑村への教育支援として、岩手大学と岩手大学の協定校である米国アーラム大学が協働して運営する事業である。合宿期間中、英語だけで行う体験学習を通じて、中学生たちに国際交流に興味を持つきっかけを作るとともに、英語学習への意欲を育み、広く世界で活躍できる人材(グローバル人材)の基礎を構築することを趣旨とする。同時に、岩手大学生は英語を実用的に使いながら、文化背景の異なるチームメイトと協働作業を行うことにより、言語能力、異文化対応力、積極性などの向上が見られることが、教育効果として検証されている。

## 2. 実施内容

【期　間】

2016 年 11 月 11 日(土)～11 月 12 日(日)

【場　所】

国立岩手山青少年交流の家(岩手県滝沢村)

【参加者】

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 中学生: | 田野畑中学校 | 2 名 | 釜石中学校 | 1 名 | 甲子中学校 | 2 名 |
| | 唐丹中学校 | 3 名 | 大宮中学校 | 2 名 | 黒石野中学校 | 3 名 |
| | 北松園中学校 | 1 名 | 土淵中学校 | 1 名 | 下橋中学校 | 2 名 |

岩手大学生: 8 名　　アーラム大学生: 3 名　　ALT: 6 名

引率教員: 岩手大学 1 名　　アーラム大学 2 名

【研修内容】

日本語でのオリエンテーション終了後は日本語使用禁止で 2 日間を過ごした。岩手大学生と留学生は混在小チームに分かれ、英語を使ったゲームやクラフト作りなどの活動を企画運営した。中学生は学年や所属中学校が異なる生徒を組み合わせて留学生、日本人大学生と同室宿泊させることで、英語を使うことと同時に「知らない人」とのコミュニケーション能力を育成する機会も提供した。

| DATE | TIME | ACTIVITIES |
|---|---|---|
| November 11 | 11:30-12:00 | Orientation（オリエンテーション） |
| | 12:00-13:00 | Lunch |
| | 13:00-13:50 | Session 1& 2 at the Gym |
| | 14:00-14:45 | Session 3 at the Gym |
| | 14:45-15:10 | Break（休憩） |
| | 15:10-15:55 | Session 4 |
| | 16:05-16:50 | Session 5 |
| | 16:50-17:30 | Move to the Dormitory Wing（宿泊棟に移動） |
| | 17:30-19:00 | Dinner |
| | 19:00-19:45 | Session 6 |
| | 20:00-22:30 | Take a bath.　Relax.　Get ready to go to bed. |
| | 22:30 | Lights out.　Good night! |
| November 12 | 6:30 | Wake up! |
| | 6:30-7:00 | Get dressed.　Wash your face. |
| | 7:00-7:30 | Cleaning time |
| | 7:30-9:00 | Breakfast.　Move your bags to the seminar room.（持ち物を研修室に移動） |
| | 9:00-9:50 | Session 7 |
| | 10:00-10:055 | Session 8 |
| | 10:55-11:15 | Break |
| | 11:15-12:00 | Wrap-up （まとめ）and cleaning |
| | 12:00-13:30 | Lunch |
| | 14:00 | Departure |

報　告:尾中夏美

# 留学生と市民のガーデンパーティー～世界の屋台村～

7月８日（土）、岩手大学留学生会と学生サークル「サークル U」等の主催により、「世界の屋台村・留学生と市民のガーデンパーティー」が岩手大学キャンパスで開催された。このイベントは留学生と地域住民との異文化交流を目的としたもので、外国人留学生と日本人学生のアイディアによりプログラムが組まれ、今年も地域の家族連れなどで大いに賑わった。

会場には、中国、韓国、台湾、モンゴル、ベトナム、タイなど、約9の国と地域の留学生や近隣の外国人による世界各国の料理屋台が並び、来場者は民族衣装などを身に着けた留学生との会話を楽しみながら、中国の水餃子やネパールのカレーなど、世界各国の料理をたっぷり味わった。

歌やダンス、民族芸能などのアトラクションも披露され、各国の歌謡やベトナムのバンブーダンスなどのほか、日本の伝統芸能でも来場者を楽しませた。大勢の地域の方や日本人学生が留学生と楽しく触れ合い、多種多様な文化を体験する貴重な機会となった。

1. 日時
   平成29年7月８日（土） 12:00～15:00
2. 場所
   岩手大学中央食堂前
3. 主催
   岩手大学留学生会、サークル U、岩手大学グローバル教育センター、盛岡国際交流協会
4. 参加者
   学生・教職員・一般市民
5. 参加屋台
   9ヶ国・地域（ロシア、中国、インドネシア、ベトナム、モンゴル、韓国、ネパール、タイ、台湾）、岩手大学生協

報告：国際課

# 高大連携ウィンターセッション

## 1. 概要

去年度に引き続き、高大連携ウィンターセッションにおいて、共通講義としてグローバル教育センターに複数コマの提供が求められたところ、参加学生を 2 分割し、同時に 2 つの授業を教員 2 名で実施することとして対応した。実施後の参加者アンケートの結果、グローバル教育センター担当部分に肯定的なコメントが多くみられた。

## 2. 実施内容

【期　間】

2017 年 12 月 26 日(火)13:00～14:20

【タイトル】

グローバルなマインドとグローカルなアクション 2017

GC1大教室:グローバル化時代の地域リーダーに必要な知識と技能とは―(尾中)

GB11教室:グローカルって何？SDGs を使って開発途上国と地域の課題を考えよう。(平井)

【参加人数】

県内高校　1, 2 年生　252 名

【研修内容】

参加高校生を尾中168名、平井84名で 2 分割し、それぞれの教室とサブテーマにおいてアクティブ・ラーニング形式で授業を行った。1 グループは 6 名程度の小グループに分けた。前年度同様、グループが別々の学校所属の生徒で構成されるように配慮した。今年度は予め事務による座席表の作成がなされた。生徒たちは与えられたディスカッションテーマに沿って、初対面のチームメイト達と意見交換や情報共有などを行って、グローバルな視点から日常を見直すという活動を体験した。また、持続可能な開発目標(SDGs)を軸に、世界の課題と地域の課題について相関的に考えることで、グローカルに社会を捉えるワークショップを体験したほか、岩手大学の海外研修の実践について知る機会を得た。

報　告:尾中夏美、平井華代

# 平成 29 年度日本留学フェア及び外国人学生のための進学説明会等

**【海　外】**

**1　中国　「日中大学フェア＆フォーラム in CHINA 2017」、「協定校上海海洋大学訪問」**

日　　時:5 月 13 日、14 日、15 日

場　　所:上海、杭州

参 加 者:岩渕明学長、上村松生副学長、平原英俊工学部教授、崔華月国際課

**2　韓国　「日本留学フェア（韓国）」、「協定校明知大学訪問」**

日　　時:9 月 9 日、10 日、11 日

場　　所:ブサン、ソウル

参 加 者:松岡洋子グローバル教育センター教授、朴賢淑三陸復興・地域創生推進機構准教授、竹原裕二入試課、山根康介国際課

**【国　内】**

**1　外国人留学生のための進学説明会（東京会場）**

日　　時:2017 年 7 月 9 日（日）

会　　場:【東京会場】 サンシャインシティ　文化会館展示ホール D

参 加 者:松岡洋子グローバル教育センター教授、福井ゆきの入試課、村山香織国際課

**2　外国人留学生のための進学説明会（大阪会場）**

日　　時:7 月 15 日（土）

場　　所:【大阪会場】梅田スカイビル　アウラホール及びステラホール

参 加 者:尾中夏美グローバル教育センター准教授、山根康介国際課主任

**3　北東北国立三大学国際交流担当者による進学説明会**

日　時:12 月 5 日（火）15:00～16:40（各大学紹介・質問タイム／大学毎に実施）

訪問先:盛岡情報ビジネス専門学校日本語学科

参加者:岩手大学、秋田大学、弘前大学国際交流担当教職員

**1　日中大学フェア＆フォーラム in CHINA 2017**

1.1　日中大学学長・高等専門学校校長個別会談

【概要】

日　　時:5 月 13 日(土) 15:30-17:30

場　　所:上海マート 7 階 （上海世貿商城、上海市長寧区興義路 99 号）

目　　的:日中大学・高等専門学校トップ同士の面談および意見交換の場を提供

使用言語:日本語、中国語（日中逐次通訳）

参 加 者:日中大学・高等専門学校学長（もしくは学長レベル相当者）

岩手大学参加者:岩渕明学長、上村松生副学長、平原英俊工学部教授、崔華月国際課

日本側の 25 大学・高等専門学校と中国側大学との個別面談が行われ(事前予約制・JSTがマッチングを調整)、中国側からは約 50 の大学から学長、副学長が参加。中国側からは短期留学や学生の交換留学、それに教員の派遣や共同研究に関する協定締結など様々な提案が行われた。また海洋開発や医学など、専門領域での共同研究のほか、大学での学部創設のノウハウを交換したいという提案もあった。

【岩手大学ブース】 面談大学及び面談概要

①ハルビン理工大学 李大勇学長ほか

ハルビン理工大学は黒龍江省直轄の理工系大学で、元々は中国機械部所属の大学。1995 年にハルビン科学技術大学とハルビン電工学院、ハルビン工業高等専科学校を統合して創設された。学生数は 26,000 人、教職員は 2,800 人。理工系を主体として経済学、文学、法学なども兼ね備える総合大学。械動力工程学院、材料科学与工程学院、電気与電子工程学院、計算機科学与技術学院、軟件学院、自動化学院、管理学院、測控技術与通信工程学院、経済学院、建築工程学院、応用科学学院、化学与環境工程学院、外国語学院、芸術学院など。

岩手大学の紹介をみて、専門分野が近いため、研究者交流、学生交流について、面談の希望があった。

岩手大学から、大学概要と現在交流協定を結んでいる中国の大学について説明を行った。理工学部と同じ分野が多いことから、研究者交流は可能。具体的にどんな分野で交流を進めたいか、具体的な内容についてはメール等で連絡することにした。学生交流については、研究者交流をベースに拡大していくことが望ましいのではと説明した。

②大連理工大学 宋永臣副学長ほか

本学と協定を結んでいる大連理工大学の宋永臣副学長及び国際交流担当職員と面談。昨年 10 月、岩手大学で行われたアジアジョイントシンポジウム(AJS)のお礼と、今年は大連理工大学で行われることの案内があった。

岩手大学から、以前大連理工大学の郭東明学長から依頼された、工学系の教員派遣(大連理工大学の日本語強化クラスにおいて、日本語で専門の授業を行う)についてご希望がある場合、詳細の条件を示してほしい旨

の質問があり、大学に戻って調査し、依頼することになった。そのほか、岩手大学のグローバルフェローについて説明し、大連理工大学からもぜひ推薦をしていただきたい旨の希望を伝えた。

③チベット(西蔵)大学　李俊傑副学長

中国チベット自治区のラサ市に本部を置く4年制国立大学。1952年に創設された自治区唯一の総合大学。ラサ・キャンパスとニンティキャンパスがある。文学部、理学部、工学部、農学部、医学部、経済管理学部、観光・外国語学部、芸術学部、師範学部、継続教育学部、中央電気大学チベット校など 11 学部を設置し、修士課程にはチベット言語文学、チベット史、チベット美術、公共事業管理、作物栽培学、生態学、予防獣医学、音楽学、博士課程には民族学、中国言語文学、生態学がある。 教職員数は1,134名で、専任教師 878 名。学生数は約 27,000 人で、学部学生が 9,338 人、修士が 670 人、博士が 40 人。

李副学長は、昨年に大連理工大学からチベット大学へ派遣し、三年の任期。チベット大学の国際交流活動はまだ少なく、海外の協定校も少ない状況。高原地域のため、生態学や生物学が特徴。相互の交流可能分野について今年度検討を行い、研究者等の交流を今後行いたいとの要望があった。

④吉林農業大学国際合作・交流所　張英氏、李雲南氏

交換留学生について意見交換を行った。吉林農業大学から派遣する学生が日本語も英語もあまりできない学生がいるため、指導教員とコミュニケーションが取れないことがあると尋ねたところ、他大学からも同じような意見があるとのことだった。実際、吉林農業大学の学内で、海外留学希望者が多くないため、申し込んだ学生が全員いけるようになっていて、審査基準がほとんどない状況とのことだった。今後、改善策を探るとのことだったが、岩手大学側から基準を掲示する必要性もあると感じた。9 月、吉林農業大学で行われる予定の本学農学部とのシンポジウムに向けて準備を進めているとのことで、今後農学部と連絡を取り、日程や分野、参加者などについて詰めていくとのことだった。

⑤上記のほか、海南熱帯海洋学院、武漢理工大学、華南農業大学、浙江外語学院の方々が本学のブースを訪れ、大学の紹介および交流の可能性等について面談を行った。

1.2　日中大学フォーラム

　大学経営、国際化、人材育成など日中共同の課題について発表・議論

日程：平成 29 年 5 月 14 日(日)9:30-15:00

会場：上海マート(上海世貿商城、上海市長寧区興義路 99 号)

使用言語：日本語、中国語(日中同時通訳)

今月 13 日から中国・上海で始まった「日中大学フェア&フォーラム」は、2 日目の 14 日、基調講演の後、日中の学長クラスによるシンポジウム形式の分科会が行われた。

【フォーラム】

　冒頭、主催者側として、中国国際人材交流協会の夏兵主任、科学技術振興機構の安藤慶明理事から挨拶。安藤理事は、「環境、エネルギー、防災などの分野で、日中で協力する必要がある」と、日中間の学術交流の重要性を強調した。

基調講演では、北海道大学の名和豊春総長が、北海道大学での国際人材の育成について、地域の特性を生かした研究について紹介があった。

【分科会】

　午後に行われた分科会では、「大学の国際化および国際人材育成」「大学における地域貢献のあり方」「実践的技術者の育成について」の 3 つのテーマで、5 つの会場に分かれて、日中の学長クラスが討論した。

岩渕学長は、「大学における地域貢献のあり方」の分科会で、本学の取り組みについて紹介した。

※参考

分科会「大学における地域貢献のあり方(1)」参加者リスト

モデレータ:鵜飼 裕之 名古屋工業大学学長

・陳 新 広東工業大学学長

・李 大勇 ハルビン理工大学学長

・李 俊傑 チベット大学副学長

・趙 継 東北大学学長

・張 洪海 曲阜師範大学学長

・岩渕 明 岩手大学学長

・受田 浩之 高知大学副学長

・瀧 寛和 和歌山大学学長

【日中大学マッチング会】

目的：日中大学・高等専門学校、研究者、日本に留学希望者などマッチングの場を提供

日時：5 月 13 日(土) 15:00-17:00

参加者：日本の大学、高等専門学校の国際、研究、留学生担当者など

対象者：中国各地の大学・高等専門学校の関係者、学生など

【岩手大学ブース】
来場者：大学関係者、留学希望者など
【主な相談事項】
入試について：日程、必要な科目、手続方法、日本留学試験の合格ライン語学要件（日本語能力試験、TOEFL、TOEIC など）
奨学金について：種類（JASSO 学習奨励費・民間）、金額、受給の可能性
納付金：入学料、授業料の金額、授業料免除制度について
学習内容：英語で学位が取れるコースはないのか（学部、修士課程）
大学概要：大学の位置
生活状況：おおよその生活費、アルバイト
宿舎について：寮、民間アパートの家賃相場
研究生について：研究生になる方法・時期・授業料など
1.3　日中研究成果・技術フェア
目的：　日本の大学・高等専門学校、団体、企業の研究成果・企業の技術シーズの展示
日本側出展者と中国側来場とのマッチングの場を提供
日時：　5 月 15 日（月）
場所：三立開元名都ホテル（杭州市）
使用言語：　日本語、中国語（日中同時通訳）

「日中大学フェア&フォーラム」は 3 日目の 15 日、場所を杭州に移して、日本の大学・研究機関による「研究成果・技術フェア」が行われた。

JST 中国総合研究交流センターの有馬朗人センター長は、「日本の科学技術は大問題を抱えている。かつて論文数で世界第 2 位だったが、今は第 5 位だ。日本の高等教育に対する財政支出は GDP のわずか 0.6%。しかも国公立大学への交付金を毎年 1%ずつ減額するという、最もやってはいけないことをしている」と挨拶。今回のフェアは浙江省科学技術庁の強いイニシアチブで実現した。周国輝庁長は講演で、北京で開催されている「一帯一路フォーラム」との関連に触れ、「今回のフェアは、習主席の提唱する『平和の道』『繁栄の道』『開かれた道』『文明の道』という考え方に呼応している」と、開催の意義を強調した。

午後行われた「技術説明会」では、本学理工学部平原英俊教授が、異種材料の接合（射出成形による樹脂と金属の接合、樹脂樹脂の接合）について紹介した。本学のほかに、香川大学、熊本大学、新潟大学、電気通信大学、福井大学、首都大学東京、東京理科大学、鹿児島工業高等専門学校など、合わせて 15 の大学・研究機関から、独自に開発した技術の説明会が開かれた。

また、技術説明会後の商談会では、日本側から 33 大学・研究機関等が参加し、中国側企業・大学とのマッチングや商談が行われ、本学からは平原教授が異種材料の接合技術ついて、中国企業への技術移転可能性を含めて、商談を行った。

2　上海海洋大学との協定調印

日時：平成 29 年 5 月 16 日（火）　9:30～

会場：上海海洋大学図書館

参加者：上海海洋大学

　程　裕東　学長

　鐘　俊生　外事処長

　王　錫昌　食品学院長　ほか　（計 8 名）

岩手大学

　岩渕　明　学長

　上村　松生　副学長

　石村　学志　農学部准教授

　袁　春紅　農学部准教授

　崔　華月　国際課外国語専門職員

内　　容：

・学術交流協定・学生交流に関する覚書の調印

・大学改革に関する意見交換

・協定調印記念ワークショップ

5月16日、上海海洋大学にて、学術交流・学生交流に関する協定を締結し、水産分野を中心とした教育・研究のグローバル化を強化するとともに、交換留学など学生の相互交流も展開していく予定である。

協定調印後、両大学の学長からそれぞれの大学の現状と課題について報告が行われ、大学経営についての意見交換が行われた。

また、岩渕学長から今後上海海洋大学とクロスアポイントメント制度による教員交流の提案があり、程学長から上海海洋大学には日本留学経験者が多い、今後の大学グローバル化推進の中で外国人教師の役割は大事であるとの説明があり、賛同の意が述べられた。

午後は、協定調印記念ワークショップが行われ、本学から上村副学長、石村准教授、袁准

教授が、上海海洋大学から周志剛水産・生命学院教授、張海清経済管理学院副教授、呉文恵食品学院教授が、それぞれの研究内容について発表し、研究交流を行った。

2. 日本留学フェア(韓国)

主催:独立行政法人日本学生支援機構

日時:9 月 9 日(土) 10 時 ～ 16 時(釜山会場)

9 月 10 月(日) 10 時 ～ 16 時(ソウル会場)

参加者:グローバル教育センター 教授 松岡洋子

三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門 准教授 朴賢淑

入試課 主任 竹原裕二

国際課 主任 山根康介

釜山会場ではヤングリーダーズ国際研修元参加者、ソウル会場ではヤングリーダーズ国際研修元参加者卒業生が通訳補助を行った。

| 開催地 | フェア全体<br>来場者数 | 岩手大学ブース相談者 | 資料<br>配付数 |
|---|---|---|---|
| 釜山 | H29/2,410<br>H28/1,738<br>H27/1,670<br>H26/1,720 | 51 名以上<br>内訳:学部 48 名、大学院 4 名;人社 22 名、教育 2 名、理工学 21 名、農学 7 名<br>※重複回答有、※H28 年度 52 名 | 50 部<br>※資料足らず |
| | 参加機関 | 75 機関<br>内訳:8 国立大学、2 公立大学、33 私立大学<br>19 専門学校、10 日本語教育機関、3 その他機関 | |
| ソウル | H29/3,950<br>H28/3,120<br>H27/2,580<br>H26/2,360<br>H25/2,125<br>H24/2,450 | 100 名以上<br>内訳:学部 93 名、大学院 5 名、無回答 2 名;人社 44 名、教育 7 名、理工学 42 名、農学 18 名<br>※重複回答有、※H28 年度 84 名 | 100 部<br>※資料足らず |
| | 参加機関 | 95 機関<br>12 国立大学、2 公立大学、43 私立大学<br>23 専門学校、12 日本語教育機関、3 その他機関 | |

主な相談事項

大学概要：岩手大学と岩手県の位置、留学生在籍数、国別の留学生数について

学習内容：関心ある分野を学べる学部・学科があるか、どのような授業があるかについて

就職先：岩手大学の留学生の卒業後の就職動向について

入試：入試日程、出願時期、願書の取り寄せ方法・必要な科目・手続き、日本留学試験の合格ライン、入試の過去問、英語成績（TOEFL など）が必要かどうか（入試には必要なくても、理系では英語論文を読んだりすることが必要なので英語力は必要と、対応）、渡日前入学制度について、編入学について、二重国籍の場合の入試について

授業料等：入学料および授業料の額、授業料免除について

奨学金：学習奨励費・私費奨学金の種類、金額、受給の可能性

生活状況：おおよその生活費

宿舎：学生寮の有無、寮費等必要経費、寮の間取り、民間アパートの賃貸相場

その他の質問事項：兵役時の休学について、地震・天災の可能性（盛岡は沿岸から遠く内陸に位置しているため津波や地震の大きな被害は考えにくい、と対応）、盛岡の気候、大学周辺の環境、街の規模など

感想

・全体的に来場者数が増えており、本学ブースでの相談者も途切れることなく、終日盛況であった。事前に郵送した配付資料が両会場とも足りなくなったが、手持ち資料で対応し、学生には後で HP にアクセスしてもらうよう伝えた。学生に伝える際、HP アドレスが記載されているボールペンが役立った。

・新たに作成した本学のバッグも好評だった。バッグを持った学生を会場だけでなく、釜山駅でも見かけた。

・両会場とも国立大学の参加が少ない理由もあり、国立大学への進学を希望する学生が多く本学ブースを訪れてきた。

・質問内容が、学びたいことを学習できる学部・大学院はあるか、指導してくれる教員はいるか、というものが多く、学びたい分野が明確な学生が多かった。日本語で質問する学生も多く、日本留学への強い意欲を感じた。

・来場者の中には、高校2年の学生も多く相談に訪れて、再来年の入学に備えていた。保護者の来場者も多かった。

・日本留学試験の合格点数、入試の過去の入手可能性についての質問が多く、回答できる範囲で対応した（日本留学試験の合格点は、非公表なので回答できない旨伝え、平均点が一つの目安なので、すべての科目で平均点を超えることを目標にするよう回答した。）。

・大学院への進学希望者の場合、希望する研究分野の教

員を紹介し、後で HP を通して研究内容等を調べ、教員と直接連絡するように伝えていた。しかし、メールアドレスを公表していない教員もいて、その場合は国際課を通して連絡するように対応した。

・両会場ともに、2名が韓国語対応できることでスムーズなブース対応ができた。また、入試課の職員がいることで様々な入試の質問について答えることができた。

・卒業後の就職先に関する質問が多かったので、留学生の進路、就職先について把握しておく必要を感じた。

・全学停電の影響で本学の HP にアクセスできなかったため、9 月 9 日釜山会場での説明は、持参した紙資料、ipad での説明となった。来年は、留学フェアと停電の日が重ならないよう調整や注意をしておく必要がある。

・岩手大学が日本のどこにあるのか、韓国から盛岡へのアクセスがわかるポスターが必要と感じた。

・学生からの質問は似ているものが多いので、情報をまとめたチラシ(韓国語)や Q&A(FAQ)を作成しておくとブース対応がよりスムーズになるのではないかと感じた。

・通訳者が来場者や岩手大学の担当者が話したことのみ通訳するのか、もしくは、通訳者が岩手大学について理解したものを、来場者に直接説明するのか、役割をはっきりさせる必要を感じた。通訳者が直接来場者に説明を行うなら、通訳者だけである程度説明ができるように岩手大学の情報やマニュアルを準備した方が良い。

【明知大学校訪問】

留学フェア翌日(9月11日)には、協定校である明知大学校を訪問し、日本語学科の2年生26名を対象に岩手県や岩手大学の紹介、交換留学プログラムについての説明を行った。また、明知大学日文科の教員と学生の短期交流プログラムや来年度の交換留学プログラムについて、意見交換を行った。

**【国　内】**

**1　外国人留学生のための進学説明会(東京会場)**

主　　催　　独立行政法人　日本学生支援機構(JASSO)
日　　時　　2017 年 7 月 9 日(日)　10 時　～　16 時
会　　場　　【東京会場】 サンシャインシティ　文化会館展示ホール D
参 加 者　　松岡　洋子　グローバル教育センター教授
　　福井　ゆきの　入試課入試グループ主任
　　村山　香織　国際課教育グループ事務職員

参加機関　183 機関

総入場者数 2263 名(H28 年 2669 名、H27 年 2844 名、H26 年 2536 名、H25 年 2327 名)

1.1 岩手大学会場訪問者

外国人学生

① 総計:44 名　※名簿に記入した学生数

(H28 年 76 名、H27 年 73 名、H26 年 52 名、H25 年 56 名、H24 年 77 名)

② 国別:中国(25 名)、韓国(2 名)、ベトナム(9 名)、マレーシア(7 名)、台湾(1 名)

学部別: ★学部希望(39 名)、大学院希望(5 名)

・人文社会科学部(11 名)(うち大学院希望 3 名)

・教育学部(4 名)(うち大学院希望 1 名)

・理工学部(17 名)(うち大学院希望 1 名)

・農学部(8 名)(うち大学院希望 0 名)

・特定学部なし(4 名)(うち大学院希望 0 名)

日本語学校等来訪者　総計: 7 名

キノシタ学園日本語学校: 大田　真也　様

中央工学校: 井上　洋輔　様

東京日本語学校: 西村　尚　様

東京ベイサイド日本語学校: 吉田　岳生　様

淑徳日本語学校: 工藤　育子　様

双葉外語学校: 多田　真由美　様

育秀国際語学院

1.2 主な相談事項

・大学概要:岩手県と岩手大学の位置、周辺環境について

・試験関係:入試日程、必要な科目、出願手続きについて(学部、大学院ともに)

日本留学試験のボーダーライン

英語成績(TOEFL など)が必要かどうか

私費留学生入試の合格者割合(前年度の留学生入学者数)

過去問はもらえるか

・納付金: 入学料および授業料の額

授業料免除の得やすさ(基準)、免除される割合、免除許可者の割合

・奨学金について: 私費奨学金の種類、金額、受給者数、申請方法

・生活状況: おおよその生活費、アルバイトは探しやすいか

・宿舎について: 学生寮の設備、寮費等必要経費、民間アパートの家賃相場について

・その他の質問事項: 盛岡の気候、雰囲気、言葉のなまり等について

留学生在籍数、各国別の留学生在籍数
卒業後の就職動向について
留学生対象のイベントについて

1．3　全体的な感想

・昨年度より総入場者数が減少し、さらにブースが会場の一番奥まった場所だったため、人通りも少なく、訪問者数も伸びなかった。
・学部入試希望で、学びたい分野が明確な学生が多い印象だった。
機械（航空科学、自動車、ロボット）、デザイン（美術・工業両分野含む）、経済、経営、国際文化、、農学、食品、環境などの分野を志望する学生の相談が多かった。
・昨年同様に PC や iPad を持ち込み、インターネット上で入試情報や研究者情報を説明した。
来場者にも、HP での情報収集方法などお知らせし、今後自分でも調べることができるように案内した。
・日本留学試験での点数のボーダーライン及び英語成績が必要かどうかを質問する学生が多数いた。（英語の試験がないということで、喜ぶ学生が多かった。）
・オープンキャンパスのチラシも配布し、多くの学生が感心を持っていた。
・今年から学生に配布しているがんちゃんバックは、他でもらってきた資料も入れて使えるので便利で、大学の宣伝にもなり良かった。

**2　外国人留学生のための進学説明会（大阪会場）**

主催：独立行政法人日本学生支援機構
日時：7 月 15 日（土） 10 時 ～ 16 時
場所：大阪会場：梅田スカイビル アウラホール及びステラホール
参加者：グローバル教育センター　准教授　尾中夏美、国際課　主任　山根康介
参加機関：131機関（H28　134機関：国公立大学、私立大学、その他専門学校）
総入場者数　1,761 名（H28　1,633 名、H27　1,322 名、 H26 1,313 名、H25 1,095 名）

2．1　岩手大学ブース訪問者

①総計：　学生　34名　（H28　30 名、H27 25 名、H26 43 名）、日本語学校等関係者　4名
②国別：　中国（28名）、台湾（3名）、インドネシア（1名）、スリランカ（1名）、スペイン（1 名）
③学部別：
・人文社会科学部（13名）：心理学、歴史、芸術、経営学など （うち大学院希望1名）
・教育学部（4名）：特別支援教育など
・理工学部（9名）：物理、化学、機械、航空宇宙工学など（うち大学院希望2名）
・農学部（6名）：農学、食品生産、獣医学など

・学部指定なし(2名):学部進学希望

2.2　主な相談事項

・大学概要:岩手大学と岩手県の位置、留学生在籍数、国別の留学生数について
・学習内容:関心ある分野を学べる学部・学科があるかについて(どのような授業があるのか、獣医学を学びたいが、外国人でも可能か、など)
・就職先:岩手大学の留学生の卒業後の就職動向
・入試:入試日程・必要な科目・手続き、日本留学試験の合格ライン、入試の過去問英語成績(TOEFL など)が必要かどうか(入試には必要なくても、理系では英語論文を読んだりすることが必要なので英語力は必要と、対応)、
・授業料等:入学料および授業料の額、授業料免除について
・奨学金:学習奨励費・私費奨学金の種類、金額、受給の可能性
・生活状況:おおよその生活費
・宿舎:学生寮の有無、寮費等必要経費、寮の間取り、民間アパートの賃貸相場
・その他の質問事項:地震・天災の可能性(盛岡は沿岸から遠く内陸部に位置しているため津波や地震の大きな被害は考えにくい、と対応)、盛岡の気候、大学周辺の環境、街の規模など

2.3　感想

・　質問内容が、学びたいことを学習できる学部・大学院はあるか、指導してくれる教員はいるか、というものが多く、学びたい分野が明確な学生が多いので、どのような授業(カリキュラム)がわかる各学部のパンフレットが役に立った。

・　日本留学試験の合格点数、入試の過去の入手可能性についての質問が多く、回答できる範囲で対応した(日本留学試験の合格点は、非公表なので回答できない旨伝え、募集要項に記載されている日本語の最低点については学生と確認した。)。
・　ブースへの訪問者数の印象として、昨年と同様、大阪大学、九州大学、関西大学などの有名校は行列ができていた。京都大学、大阪大学進学コースのある予備校、美容やアニメ関係の専門学校も人気が高かった。その他の地方国立大学への訪問者数は、本学の訪問者数とほぼ同じ程度に感じた。(参考:島根大学の訪問者は40名)。
・　会場が2つに分かれている上、一度外に出ないともう一方の会場に行くことができず、岩手大学が出展した会場の午前中の来客者は少なく感じた。来年は、一つの会場にしてほしい旨 JASSO アンケートに回答した。

・　特に関西では、岩手大学が日本のどのあたりにあるか示すポスターが必要と感じた。

**3　北東北国立三大学国際交流担当者による進学説明会**

日時:平成 29 年 12 月 5 日(火)15:00～16:40(各大学紹介・質問タイム／大学毎に実施)

訪問先:盛岡情報ビジネス専門学校日本語学科

参加期間及び参加者

○秋田大学

平田　未季　　国際交流センター助教

角田　美穂子　　国際課留学生交流・支援担当

○弘前大学

鹿嶋　彰　　国際連携本部　准教授

澤田　祐人　　国際連携本部　係員

○岩手大学

石松　弘幸　　国際連携室　准教授

越田　晶子　　国際課国際連携グループ主査(副課長)

山下　千佳　　国際課国際連携グループ主任

崔　華月　　国際課連携グループ外国語専門職員

参加学生数:　20 名(ベトナム　15 名;　中国　5 名)

配布資料:　大学毎に大学案内・願書などを事前郵送まだは当日持参

3.1　感想

盛岡情報ビジネス専門学校での合同進学説明会は平成 25 年度から毎年 1 回実施しており、今年は 5 回目となった。各大学からの感想は次のとおりである。

【秋田大学】

本学への進学を考えている留学生が何名かいたが、ほとんどが理工学部志望だった。

例年、理工学部について、コースで学べる内容や留学生の数等について細かい質問があるため、今後、同校出身の理工学部の学生に同行してもらうと良いかもしれない。

大学説明の際に、自分の母国の先輩が頑張っている話を聞き、嬉しそうに、またその事実を誇りに思っている様子がうかがえた。先輩学生が説明会に参加することはロールモデルを提示する意味でも効果的だと思われる。

【弘前大学】

弘前から比較的近い盛岡に在住する留学生にとっても、弘前という土地は馴染みが薄かったように感じたため、こういった機会に日本語学科生に対して、本学の PR をすることができたのは、大変貴重な機会であったと思う。

また個別の面談では理工学・農学系の学部に関する質問が多くあり、学習したい内容や研究したい分野等、明確なビジョンを持っている学生が多かったように感じた。準備等に担当校の負担をかけているが、北東北に在住する留学生に PR する機会は少ないため、今後とも本説明会に参加したい。

【岩手大学】

参加者のほとんどは昨年と同様、ベトナム人であり、中国人留学生も少数参加していた。大学説明終了後に実施した個別相談において岩手大学のブースを訪れた学生からは、『大学卒業後はベトナムと日本の貿易を行ないたいので国際経済学を学びたい』とか、『サイバーセキュリティーに関する職業に就きたいので、岩手大学理工学部で関連分野を学びたい』といった、将来の職業と結びついた具体的な質問があった。

参加者の中にはすでにオープンキャンパスの機会を捉えて、岩手大学を訪問した学生もおり、盛岡情報ビジネス専門学校が盛岡に位置していることから、岩手大学への関心が相対的に高いことが窺われた。直接岩手大学をPRできるいい機会だった。

また、友人・兄弟・親戚が岩手大学に進学していて自分も進学を希望している学生も多く、身近な方からの紹介や「口コミ」の影響の大きさを再認識した。

今回は他の参加校が各 2 名の人員を説明会に割り当てていたのに対し、岩手大学側は 4 名で対応したが、地の利に鑑み、来年以降も、他の参加校より多くの人員で参加し、大学の PR を行なうことが有意義であると考える。

最後に、私費外国人留学生募集要項をもっと持参すれば良かったと思った(10～15 部ほど)。

**4 その他**

・留学パンフレット(日英版)作成

・大学紹介スライド作成

報告:国際課

# ―国際連携室 業務報告―

# 岩手大学国際戦略推進体制及び各プロジェクトについて

## 1. 国際連携室・国際戦略推進委員会の設置

平成 24 年度に策定した「岩手大学国際連携戦略」の具現化において、留学生の受け入れ及び学生の海外派遣の促進、学生及び教職員の国際的視野、外国語能力の向上など、海外大学との連携・研究交流推進などに係る方策・戦略を推進するための体制強化が求められる中、平成 26 年度に実施された教育研究支援施設改組の中で、「国際連携室」を新たに設置した。

また、国際化及び国際連携戦略の推進において、教育推進、研究推進、地域連携の各機構及び各学部・研究科との連携・協働により、全学としての各戦略項目の進捗状況等の確認、推進策の検討、各種課題の共有やその解決のための調整を図る場として「国際戦略推進委員会」を設置した。

## 2. 国際戦略推進のための各プロジェクトの設置

国際連携戦略を着実に推進するためにアクションプラン(Plan)を策定し、優先順位を付しながら、横断的な組織構成のもと、迅速かつ柔軟な対応(Do)を行う必要がある。

そのため各種戦略の進捗状況に合わせ、国際戦略推進委員会のもとに以下のプロジェクトを設置した。プロジェクトは従来の委員会方式に依ることなく、各種案件の必要性や緊急性に合わせて適宜設置・改廃を行い、迅速かつ柔軟に対応できるものとした。

### 2．1　プロジェクト運営のポイント

・特定部局のみで対応が難しい横断的事項を中心にプロジェクトを設置する。
・案件に応じ既存の組織・委員会をもってプロジェクトの実質的運営を付託する。
・各プロジェクトには国際連携室構成員が必ず加わり、関連事業の実施(実施支援)を行う。
・各学部・機構等における国際関連事業推進の現状・課題等については、国際戦略推進委員会において共有を図るほか、各学部国際交流委員会等に国際連携室構成員が陪席等を行い、情報収集・提供に努め、国際戦略推進委員会等において、必要な支援の実施(または支援策の検討)を図る。

### 2．2　各プロジェクトの概要(平成 29 年度現在)

(1)交流基盤整備プロジェクト

● 対応する国際連携戦略
・「グローバル化の意識を高めるキャンパス環境を整備する」
・「各種戦略を実現するためのハード、ソフト両面の整備を進める」

● 推進するアクション

・キャンパス環境及び関連施設（宿舎、交流施設等）の整備
・グローバル化に対応した教職員のFD、SDの企画
（教育推進機構等との協議に基づく）
・国際連携推進のための広報（広報室との協議に基づく）
・国際連携・国際交流に関する危機管理
・帰国留学生の組織化とネットワークの強化　など

※ 環境整備（英文翻訳等）や広報活動、教職員のFD、SD、危機管理マニュアルの整備等は通常業務として定着してきており、平成30年度以降はプロジェクトとしてではなく、通常業務として実施していくこととなった。

(2) 地域協働型グローバル人材育成推進プロジェクト

● 対応する国際連携戦略
・「協定校の重点化を図り、留学生受入と学生の海外派遣を促進する」
・「学生の国際的コミュニケーションスキルとしての外国語能力を向上させる」
・「地域社会のグローバル化への対応に貢献する産学官民連携事業を実施する」

● 推進するアクション
・地域産学官一体となったグローバル人材育成のための、多様な海外派遣・受入支援体制の構築
・学内外における学生と留学生、及び地域との交流機会の拡大
・地域のグローバル化にかかる情報収集・提供、調査研究、各種支援事業や交流事業の展開　など

※ これまでの活動は主に「トビタテ！留学JAPAN　地域人材コース」の実施検討を行ってきた。平成29年2月に地域人材育成推進協議会（事務局：岩手県）が設置され、トビタテ！留学 JAPAN 地域人材コースについては、協議会を中心に運営していくこととなったこともあり、当初の目的は達成されたため平成29年度末をもってプロジェクトとしては廃止とすることとなった。なお、「トビタテ！留学 JAPAN　地域人材コース」に係る事業については、国際連携室、グローバル教育センター等と連携しながら通常業務として実施していく。また、想定されるアクション（グローバル人材の育成、学生と留学生及び地域との交流機会の拡大や情報収集、交流事業の展開　等）については、地域人材育成推進協議会や岩手県留学生交流推進協議会、岩手県高等教育コンソーシアム等と連携・協力をしながら進めていく。

(3)．共同教育推進プロジェクト

● 対応する国際連携戦略

・「協定校の重点化を図り、留学生受入と学生の海外派遣を促進する」

・「各種戦略を実現するためのハード、ソフト両面の整備を進める」

● 想定されるアクション

・デュアルディグリーなど、海外大学との複数・共同学位制度の開発と推進　など

※ 平成27年度から活動実績がないため平成29年度末をもって、廃止とする。なお、今後理工学部等で共同学位制度を進めることとなった場合は、国際連携室としてバックアップを行う。

(4) 国際研究推進プロジェクト

● 対応する国際連携戦略

・「教員の海外派遣を支援するとともに、岩手大学の特徴ある分野の研究を促進し、研究の質向上を推進する」

・「各種戦略を実現するためのハード、ソフト両面の整備を進める」

● 推進するアクション

・大学の特色ある研究を国際水準に引き上げるための支援強化

・特に研究推進のための外部資金の獲得支援

・国内外の研究機関との共同研究等の推進

・教員等の海外派遣事業の推進　など

※ 本プロジェクト運営は、「研究推進機構・プロジェクト推進部門」にて実施する形となっており、研究推進機構で進めているため、平成29年度末をもって廃止する。今後は通常業務として研究推進機構と連携を取りながら進めていく。

(5) 特色型国際連携推進プロジェクト

● 対応する国際連携戦略

・「協定校の重点化を図り、留学生受入と学生の海外派遣を促進する」

・「地域社会のグローバル化への対応に貢献する産学官民連携事業を実施する」

● 推進するアクション

・国際的な産学官連携事業、大学・地域間交流事業の展開（UURR事業の継承含む）

・復興、防災、COC 等と関連した特色ある国際連携・共同教育事業の推進

・国内外大学とのコンソーシアム型連携

・海外拠点、連携拠点等の整備　など

● プロジェクト構成・運営方法

・本プロジェクトは、各アクションに対応したプロジェクトチームをそれぞれ構成する。

＜設置するプロジェクトチーム＞

**① UURRプロジェクトチーム**

**② 地域特性課題解決プロジェクトチーム**

**③ コンソーシアム型連携プロジェクトチーム**

※ ①UURRプロジェクトチームは、平成30年度以降「UURRプロジェクト」として継続実施。

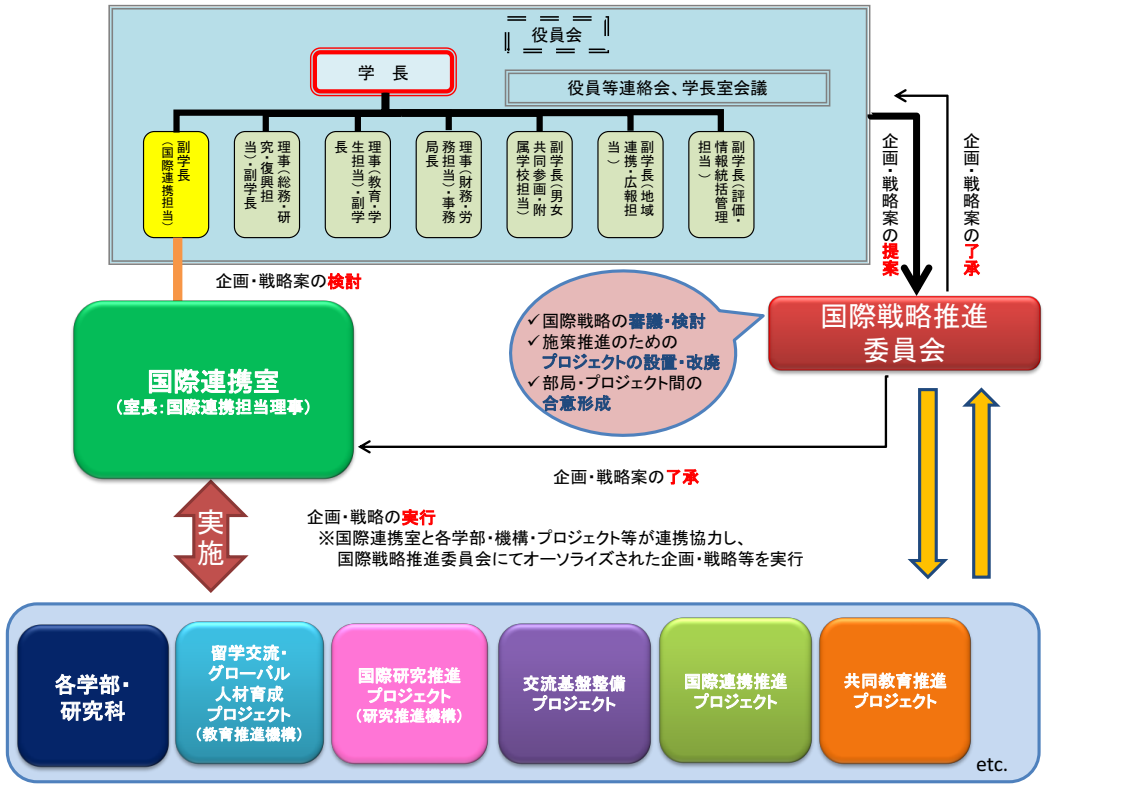
※ ②地域特性課題解決プロジェクトチームは、震災復興関係でアラスカ大学やハーバード大学との交流推進や陸前高田において事業の実施等を行ってきたが、三陸復興・地域創生推進機構が平成28年4月に設置され、また、地域防災研究センターが中心となって進めいていることから、平成29年度末をもって廃止とする。

※ ③コンソーシアム型連携プロジェクトチームは、活動実績がほとんどないため平成29年度末をもって廃止とする。

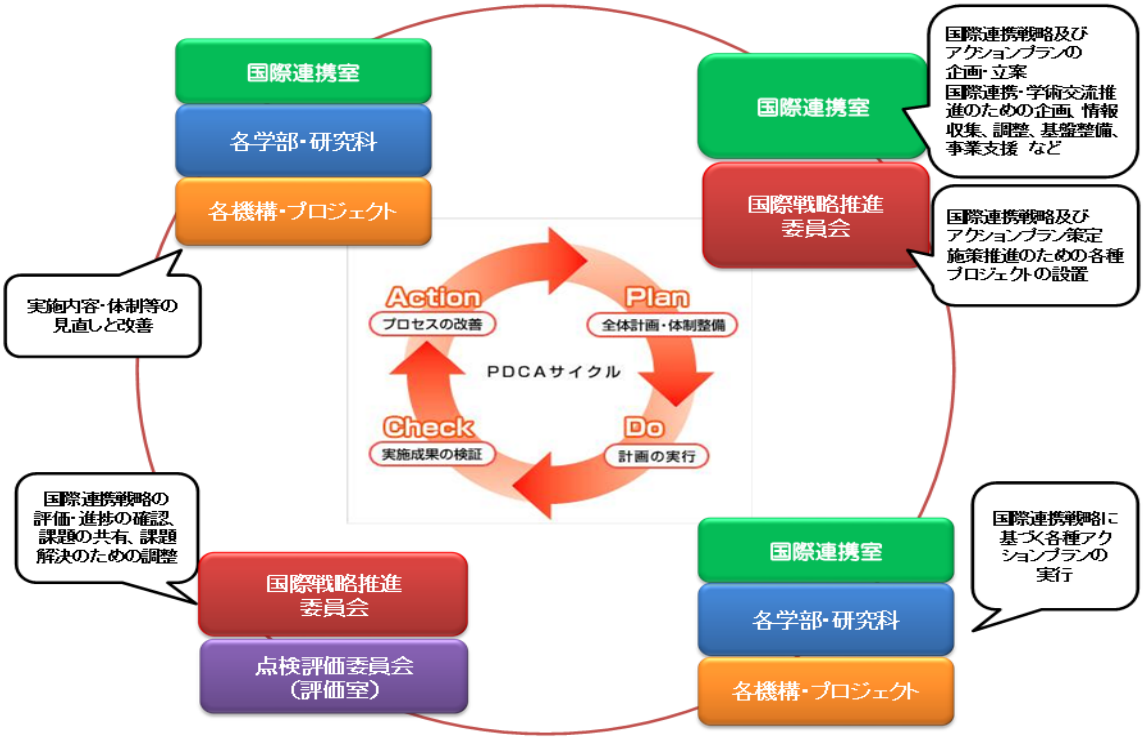
2．3 プロジェクトの見直しについて

国際連携戦略及び具体的アクションプランを着実に推進するために、各プロジェクトを設置し対応してきたが、すでに通常業務として定着してきた事業や全く動きがない事業などがあり、ここで活動実績がないプロジェクトについては平成29年度末をもって廃止し、平成30年度からは「岩手大学第三期における国際連携戦略アクションプラン」及び「平成30年度国際連携室推進事項」に基づき事業を進めていくこととする。

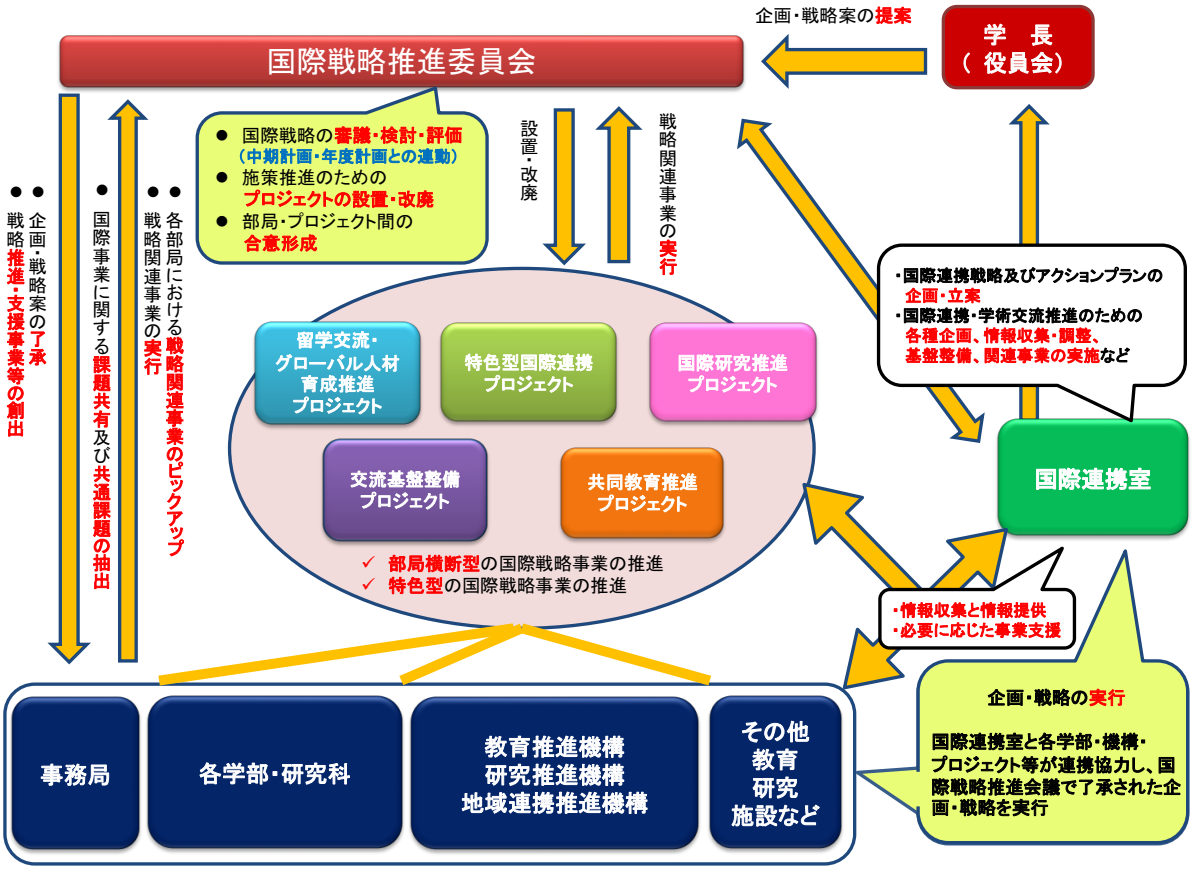
**国際連携室及び国際戦略推進委員会の構成**




国際連携戦略推進のためのPDCAサイクル



国際戦略推進業務の具体的流れ



# 平成 29 年度　第２回カナダ・サスカチュワン大学教員による
# アクティブ・ラーニング短期集中研修開催実施報告

講師：ウィノナ・パートリッジ（Ms. Wenona Partridge：サスカチュワン大学グウェナモス・センター講師）
助手：ウィリアム・ブラネン（Mr. William Brannen：岩手大学グローバルビレッジ担当職員）
参加者数：合計17 名（人文社会科学部 1 名、教育学部 2 名、農学部 3 名、理工学部 7 名、グローバル教育センター2 名、非常勤講師（英語）2 名）
研修日程：2017年7月31日～8月3日の実質4日間（※8月4日に借り上げバスで平泉を訪問し、中尊寺、毛越寺を視察）

## 1. 概要

プログラム内容：1 日 6 時間の集中プログラム。午前はアクティブ・ラーニングの理論の講習を受け、午後は少人数グループに分かれ実践中心。4 日間、毎日異なったテーマで実施。人数に余裕があれば何日でも受講可能。また、各プログラムに終日出席することで、サスカチュワン大学グウェナ・モス教育センターによる修了証を発行。

実施日程：7 月 31 日（月）～8 月 3 日（木）の 4 日間（1 日 6 時間：午前：9:00～12:00、午後：13:00～16:00）。8 月 4 日（金）は希望者のみパートリッジ先生、ブラネン先生と共に平泉を訪問。

募集対象：英語での授業やアクティブ・ラーニングに関心を有する本学学部・支援センター専任教員、非常勤教員　各クラス合計 10 名まで（※昨年の同研修に参加していない人を優先、先着順）
会場：学生センターB 棟多目的室
使用言語：英語　参加費用：無料

## 2. 内容

7/31(月)　教育理念の作り方：アクティブ・ラーニングによる教育理念の作り方の紹介
参加人数（午前：6 名　午後：6 名）

8/1(火)　アクティブ・ラーニングの技法：現場で役立つアクティブ・ラーニングの技法の紹介
参加人数（午前：9 名　午後：8 名）

8/2(水)　評価の方法：アクティブ・ラーニングによる評価法の紹介

参加人数(午前:10 名　午後:10 名)

8/3(木) カナダの高等教育について:ゲストスピーカーによる話、グループディスカッション、参考文献を通じたカナダの高等教育の紹介
参加人数(午前:12 名　午後:11 名)

8/4(金) 平泉訪問:パートリッジ先生・ブラネン先生と平泉訪問(※希望者のみ)
参加人数(計 5 名　※うち FD 研修参加者 1 名)

パートリッジ先生による授業の様子

グループディスカッションの様子

**3. 所感・反省**

・客年 3 月に実施した同 FD 研修には、合計 13 名(常勤教員 6 名、非常勤講師 5 名、大学院生 2 名)が参加したが、今回の研修には常勤教員 15 名を含む 17 名が参加し、積極的にワークショップに参画したため、教員の語学力及びアクティブ・ラーニングのスキルの向上という本研修の趣旨により沿ったものとなった。

・今回の研修の内容(教育理念の記述法、Think Pair and Share 法、ギャラリーウォーク法、評価方法の考察)は、基本的に昨年実施された研修においてもあつかわれたものであったが、日程の都合上、マイクロティーチング法の実践は省かれた。その代わり、研修の最終日に、インターネットを介してサスカチュワン大学の教員や職員と、カナダの大学教育における教科書や授業の資料の無料化やサスカチュワン大学の学生支援サービス強化や、大学改革の状況についてのプレゼンテーションを聞いて質疑応答を行なったり、参加者同士で意見交換を行なったりするという時間が設けられ、参加者にとっては啓発的なワークショップとなった。

・サスカチュワン大学関係者とのインターネット電話を通じた議論では、カナダの大学においても、大学改革のプレッシャーが大きいことを窺い知ることができた。サスカチュワン大学の教職員が学生や職員の健康管理、多文化状況への対応(とくに先住民への対応)、学生の金銭的負担を減らすための教科書や教材の無料オンライン化などにつき、現在の傾向や今後の課題を説明した。

報告:石松弘幸

# 岩手大学教員海外派遣事業（平成29年度分）実施要項

平 成 28年 10月 27日
国際戦略推進委員会決定

## 1. 目的

岩手大学の若手・中堅教員を海外の大学・研究機関に派遣し、国際的な視野を持った教員を育成する。国際交流に積極的な教員へのインセンティブ付与や、教員の国際業務能力向上の機会を提供し、教員一人ひとりの国際化への意識を高め、岩手大学のグローバル化を推進することを目的とする。

なお、当該教員は、本事業への参加後、派遣先の大学・研究機関の研究者との交流推進に寄与するとともに、岩手大学が実施する国際関係事業に積極的に参画することとする。

## 2. 期待される効果

・岩手大学の国際交流関連事業に積極的に取り組み、大学運営において国際関係業務の核となる人材となる。
・教育内容・方法の改善に意識的に取り組み、派遣終了後、岩手大学において外国語等による国際的に水準の高い講義が実施可能になる。
・国際理解力、コミュニケーション能力が強化、育成される。
・派遣国に対する教育研究分野の理解が促進される。
・教授法に関わるFD研修会や講演会、国際交流委員会等へ積極的に参画する。

## 3. 要　件

(1)資格： 派遣年度の4月1日現在、50 歳未満の本学教員（附属学校教員を除く）
(2)派遣期間： 派遣開始は4月1日以降とする。派遣の期間は、原則6ヵ月以内で、年度末を超えない範囲とする。承認後の期間延長は原則として認めない。ただし、住居確保や転居手続きの都合上、派遣期間前後1週間程度の滞在は認める。
(3)派遣期間中の身分： 派遣期間中の身分は、本学教員であり、出張として扱われる。
(4)受入機関:国際連携室が提示する協定校
具体的なプログラム内容は別紙のとおり。
※協定校以外への海外派遣（自由選択型）については本事業とは別途募集予定。
(5)派遣者数： 2名以内
(6)支給経費： 勤務場所と派遣先との往復1回分に係る交通費、及び滞在費を支給する（国立大学法人岩手大学旅費規則による）。ただし、航空運賃は最下級普通運賃（ディスカウントエコノミー相当）とする。滞在費については、日額1万円を上限として支給する。 その他、実施

にあたり必要となる経費について、教員に配分される研究費等から充てることができるものとする。
(7)語学力:研修先で主に英語でコミュニケーションを取る場合、IELTS 5.5/TOEFL-iBT 69-79/TOEIC 600-740 程度以上の語学力を有していることが望ましい。
(8)その他
①本事業は、サバティカル研修との重複申請を認めるが、本事業は教員の「国際業務能力向上」の機会を提供し、その成果を本学の国際関係事業に積極的に還元してもらうことを主目的とした事業であり、「自主的調査研究に専念できる」ことを主目的とするサバティカル研修制度とは目的が異なるため、申請に当たっては留意すること。なお、双方とも採用された場合、重複する期間については一方を辞退すること。
②本事業による派遣期間がサバティカル研修と連続する場合、本事業派遣先とサバティカル研修実施場所の移動にかかる旅費は別途協議により支給する。
③海外旅行保険については、必ず加入すること。

**4. 応募方法**

申請時の所属部局を通じて応募すること。
(1)申請書類
岩手大学教員海外派遣事業申請書(別紙様式1)
※本事業の趣旨から、帰国後、岩手大学に1年以上在職することが期待されていることを理解したうえで署名すること。
部局長の推薦書(別紙様式2)
※推薦者数が複数の場合は順位も付して連絡すること。
航空賃等の見積書
※内訳記載があるもの。家族で行く場合は申請者分のみのもの。
(2)提出期限は別途定める。

**5. 選 考**

(1)本事業の目的に照らし、国際連携室による審査のうえ、国際戦略推進員会において決定する。
(2)審査結果については推薦のあった部局長に対して通知する。

6. その他
(1)採択された教員は以下の義務が発生する。
①派遣期間中、毎月定期報告書(別紙様式3)を提出すること。
②派遣終了後、1ヵ月以内に、「帰国報告書(別紙様式4)」を提出すること。

③派遣終了後、1年以内に、事業報告会にて派遣概要及びその後の業務進捗状況の報告を行うこと。
④派遣終了後、1年経過後に「成果報告書（別紙様式5）」を提出すること。
⑤派遣終了後、大学及び学部等で企画する国際関連事業に積極的に協力すること。
（2）派遣修了後 1 年以内に自己都合退職した場合、当該事業にかかる費用について返還を求める場合がある。
（3）本事業による派遣に伴う所属部局における研究上・教育上・職務上の影響を最小限に留めるよう努力すること。

# UURR プロジェクト―平成 29 年度事業―

平成 29 年度　アジア・ジョイントシンポジウム 2017：　10 月 17 日～19 日　於：大連理工大学

**1. 参加機関**：大連理工大学・中国,国立ハンバット大学・韓国,岩手大学・日本

**2. 岩手大学側参加者**

岩渕　明　　学長／オープニングセレモニー挨拶
上村　松生　副学長／基調講演
廣瀬　宏一　理工学部教授／分科会（金型）発表者
平塚　貞人　理工学部教授／金型・鋳造技術学生報告会
対馬　正秋　研究推進機構教授／分科会（産学官連携）発表者
山田　美和　農学部准教授／分科会（農学）発表者
越田　晶子　国際課副課長
崔　華月　　国際課外国語専門職員
石松　弘幸　国際連携室准教授／分科会（産学官連携）発表者

**3. 参加者数**

歓迎レセプション　計 52 名
基調講演　計 70 名
分科会　計 80 名（「産学官連携」11 名,「金型・鋳造技術」25 名,「農業技術」9 名,「金型・鋳造技術学生報告会」35 名）

**4. 日程**

10 月 17 日（火）歓迎レセプション
10 月 18 日（水）基調講演・分科会・交流レセプション
大連理工大学長表敬訪問
オープニングセレモニー
参加大学代表による基調講演
分科会・学生発表会・アジア金型・鋳型コンソに関する協議
10 月 19 日（金）大連理工大盤錦キャンパス視察
大連理工大学盤錦キャンパス、岩手大学、国立ハンバット大学の研究・教育紹介
大連理工大学盤錦キャンパス視察（図書館、工学系研究施設）
紅海灘風景区視察

**5. 分科会**

5.1　【分科会名】産学官連携
【参加者数】全参加者数 11 名（中国 4 名、韓国 3 名、日本 4 名）
5.2　【分科会名】金型・鋳造技術

【参加者数】全参加者数 25 名（中国 20 名、韓国 4 名、日本 1 名）

分科会「金型・鋳造技術」の講演

分科会「金型・鋳造技術」の会場の様子

5.3　【分科会名】農業技術

【参加者数】全参加者数 9 名（中国 2 名、韓国 1 名、中国の学生 5 名、日本 1 名）

5.4　【分科会名】金型・鋳造技術学生報告会

【参加者数】全参加者数 35 名（中国 17 名、日本 18 名）

引率教員：平塚貞人　教授　岩手大学理工学部（鋳造）　内舘道正　准教授　岩手大学理工学部（金型）

【所感】

今回は、マレーシア・パハン大学が不参加となり、コンソのあり方やシンポジウム開催の意義について再考を迫られることになったものの、大学間の交流は研究者同士のネットワーキングや既存の研究交流の強化において有意義であることは明らかである。シンポジウムには、岩手大学理工学部・金型鋳型専攻の学生 15 名が参加し、発表を行なったが、今回は大連理工大学側の学生と交流の機会がなかった。次回以降、学生同士の国際交流・研究交流の機会を設けることができればよいだろう。一方、今回のシンポジウムでは、発表時間が各 5 分と短時間であったものの、学生にとって外国の大学で英語を使って発表する貴重な経験であったにちがいない。このような国際シンポジウムへの学生の参加を今後も促進していくことは、教育的な観点から非常に有益であると考えられる。

報告：石松弘幸

世界遺産の保護及び管理に関する国際シンポジウム： 10 月 11 日　於：中国洛陽市文物考古研究院

2017 年 10 月 11 日(水)に中国洛陽市文物考古研究院の会議室で UURR 国際シンポジウム「世界遺産の保護及び管理関する国際シンポジウム」(岩手大学 H29 年度 UURR プロジェクト)を開催た。このシンポジウムは、岩手大学が平成 15 年度より推進してきた国際的な大学間ネットワークや地域間交流を活用し、地域の発展に貢献するための UURR プロジェクト(University and University + Region and Region=大学・大学と地域・地域の連携事業)平成 29 年度事業の一環である。

今回のシンポジウムは、岩手大学平泉文化研究センター・岩手県教育委員会、中国洛陽市文物考古研究院の共催となり、実施要項及び次第は次のとおりだった。

【日時】2017 年 10 月 11 日(水) 09：00～12:00
【場所】中国洛陽市文物考古研究院会議室
【次第】総合司会：趙　暁軍(洛陽市文物考古研究院隋唐研究室室長)
通訳：劉　海宇(岩手大学平泉文化研究センター教授)
趙　虎龍(中国洛陽龍門石窟国際旅行社総経理)
※開会に先立ち、中国側の研究者を史家珍氏が、日本側の研究者を藪敏裕教授がそれぞれ紹介した。
09：00 開会挨拶：洛陽市文物考古研究院　史家珍院長
【報告】
1) 09：15 世界遺産平泉と古代中国(岩手大学平泉文化研究センター長　藪敏裕)
2) 09：45 世界遺産平泉の拡張登録(岩手県教育委員会文化財専門員　千葉正彦)
3) 10：15 平泉の額と色紙形(岩手大学平泉文化研究センター客員教授　誉田慶信)
意見交換と休憩 10：45～11：00
4) 11：00 隋唐洛陽城における園林と水系(洛陽市文物考古研究院研究員　張如意)
5) 11：30 隋唐洛陽城における考古新発見(洛陽市文物考古研究院室長　趙暁軍)
12：00　閉会挨拶：岩手大学平泉文化研究センター長　藪敏裕教授

今回の国際シンポジウムを通して日中庭園遺跡の比較研究および平泉文化の国際的な意義の解明に寄与することができた。来年度の UURR 世界遺産国際シンポジウムは岩手大学で開催することを予定している。

報告:劉海宇

# 平成 29 年度　岩手大学における国際交流に伴う危機管理体制構築に関する取組

## 1. 概要

近年、海外でテロ、騒乱、自然災害などが頻発しており、留学・研究等を目的として海外に派遣される学生や教職員に対し、安全対策が強く求められてきた。平成 24 年 5 月に示された「岩手大学の国際連携戦略」では、国際交流における危機管理体制の構築も掲げられており、岩手大学第 3 期中期計画においても国際連携・国際交流における危機管理体制の構築が明記されている。この方針に従い、岩手大学国際連携室及び国際課では、平成 28 年 4 月より民間危機管理会社・日本エマージェンシーアシスタンス社(※以下 EAJ)の留学生危機管理サービス(※以下 OSSMA)に加入し、学生及び学生の引率を行う教職員の海外派遣に際して必要な危機管理体制構築に向けて準備を進めてきた。平成 28 年度は本学が OSSMA と契約を行い、海外派遣される学生及び海外研修の引率などを行う教職員の OSSMA への加入の義務付けを通じて危機管理体制を充実させた。一方、平成 23 年に国際交流に関する本学の危機管理対応として作成された「岩手大学の学生の交流に係る危機管理マニュアル」につき、平成 29 年度に、その内容を更新し、OSSMA への連絡体制との連動を図ったものとして改訂版を作成した。今後は本改訂版危機管理マニュアルの学内での一層の定着を目指し、危機管理体制をより効果的なものとする。

## 2. 経緯

平成 29/3　　平成 28 年度第 5 回国際戦略推進委員会で「岩手大学海外派遣危機管理マニュアル」案の下書き提示し、今後のスケジュールにつき説明。

平成 29/10　　平成 29 年度第 3 回国際戦略推進委員会で同マニュアル案を提示。

平成 30/1　　平成 29 年度第 4 回国際戦略推進委員会で同マニュアル案に寄せられた理工学部及び農学部の質問につき回答。

平成 30/3　　平成 29 年度第 5 回国際戦略推進委員会で同マニュアル案に寄せられた全学部の質問を公表し、その全てに回答。正式に「岩手大学海外派遣危機管理マニュアル」として公表することが承認される。

### 3. 今後の課題

今般作成した危機管理マニュアルの学内における宣伝・周知を徹底し、海外派遣の際に活用してもらうことで、危機管理体制をより効果的なものとしていく必要がある。また、EAJ 社と平成 28 年度に導入した OSSMA の利用実績及び対応の実態について、意見交換を行い、改善案等を取り入れてもらえるように働きかけることも必要だろう。さらに、危機管理関連の専門家を招いた危機管理講演会や研修を実施し、学生や教員の海外派遣に関する危機管理体制の構築を強化していきたい。

報告:石松弘幸

# 岩手大学外国人留学生 OB・OG 等との懇談会

## 1. 外国人留学生 OB・OG との懇談会 in バンコク

平成29年 7 月 29 日（土）、外国人留学生 OB・OG との懇談会 in バンコクをバンコクの Sit In –Inspired Work Space にて開催した。

会場には、岩手大学卒業生・修了生のタイ人卒業生7名とタイ在住の中国人卒業生1名及び岩手大学から上村松生国際連携・広報担当副学長、八重樫国際課長、山下国際課主任が出席した。

懇談会では、上村副学長より近年の岩手大学の取組や、平成29年4月に実施された大学院改組の詳細など、岩手大学の現況が報告された。その後、卒業生より近況報告いただくと共に、岩手大学在学時代の思い出や岩手大学に在学してよかった点や逆に困った点、そして今後の岩手大学に期待すること等について発言いただき、活発な意見交換を行った。

卒業生からは岩手大学の魅力の一つとして「寒いところが魅力」、「他大学に比べて、留学生向けの行事やイベントが充実している」との意見・感想が聞かれた。再度、岩手大学への進学を目指している方も多く見受けられ、タイ人卒業生の向学心の高さが感じられた。

懇談会の後半には、現在岩手大学に留学しているタイ人留学生が作成したスライドショーを上映し、岩手や岩手大学の懐かしい風景を、卒業生たちは感嘆の声をあげながら見いっていた。

岩手大学同窓生の活躍を互いに喜び、励まし合い、「第二の故郷、岩手」を心に刻んだ懇談会となった。

## 2. 外国人留学生 OB・OG との懇談会 in 東京

平成30年2月10日（土）に「岩手大学外国人留学生 OB・OG 等との懇談会 in 東京」を東京駅前カンファレンスセンターにて開催した。

当日は岩手大学を卒業・修了した留学生（以下、同窓生）18名と、本学から上村松生副学長を初め9名が出席した。平成10年の修了生から平成28年の修了生まで幅広い年代の同窓生が集まり、岩手の話題で懇談会開始前から会場は熱気に溢れていた。懇談会では、岩手大学の現状と主な取り組みについて上村副学長が紹介したあと、同窓生から近況報告をいただいた。同窓生からは、「岩手大学で暮らし、学んだ日々が今の自分を作ってくれた。これからも岩手大学を応援していきたい」、「岩手大学を卒業してから早数年が過ぎたが、これまで岩手大

学を訪れる機会がなかったが東京でこのような会に参加できて嬉しい。今日の集まりをきっかけとして今後も岩手大学と交流していきたい」、「卒業・修了した年が各々違う年代の同窓生が集まり、ネットワークを広めることが出来る良い機会となった。」等の意見が聞かれた。この他、岩手や岩手大学の風景を音楽と共に楽しめる動画を上映し、同窓生からは感嘆の声があがっていた。

懇談会の最後には、今後の岩手大学留学生同窓会設立に向けての意見交換を行った。東京支部の立ち上げについても前向きな話し合いを行い、出席者の中から支部会長候補者が選出された。懇談会の後には交流会を開催し、さらに親睦を深めた。

### 3. 外国人留学生 OB・OG との懇談会 in 盛岡

平成30年3月17日（土）に「岩手大学外国人留学生 OB・OG 等との懇談会 in 盛岡」を岩手大学学生センターB 棟多目的室にて開催しました。2月に実施した東京での懇談会に続き国内では今年度2回目、盛岡では初の実施となった。

当日は岩手大学を卒業・修了した留学生（以下、同窓生）11名と、在学生4名、本学から岩渕学長を初め9名が出席した。平成9年の修了生から平成29年の修了生まで幅広い年代の同窓生が集まった。

懇談会では、岩渕学長から歓迎の挨拶が述べられ、岩手大学の現状と主な取り組みについて上村副学長が紹介したあと、同窓生が近況を報告。在学生からは留学生会や中国人留学生学友会の活動状況について報告がなされ、同窓生に対して学習面や経済面等、留学生活を送るうえでの悩みについてアドバイスを求めた。同窓生からは自身の経験談を踏まえた、あたたかい励ましの言葉が在学生に送られた。懇談会に出席した同窓生の多くは岩手県内在住者。何等かの形で岩手大学とも関係を続けている方もいた。しかし、卒業した幅広い年代の留学生同志で集まる機会を持ったのは初めての方が多く、「このような機会を設けていただいて感謝。今後も定期的に同窓生が集まれれば良い」「今回のように、同窓生と在学生が交流できる機会が持てればなお良い」との感想が聞かれた。

懇談会の後半には上村副学長から、岩手大学留学生同窓会を 2019 年に設立することを目標としていることや、これまでに実施した世界各地での懇談会の様子について紹介された。出席者からは同窓会設立に賛成の声が出され、盛岡での同窓会発足に向けて前向きな話し合いを行い、出席者の中から支部会長候補者が選出された。懇談会の後には交流会を開催し、さらに親睦を深めた。

報告：国際課

# 平成 29 年度トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム地域人材コース「いわて協創グローカル人材育成プログラム」

## 1. 概要

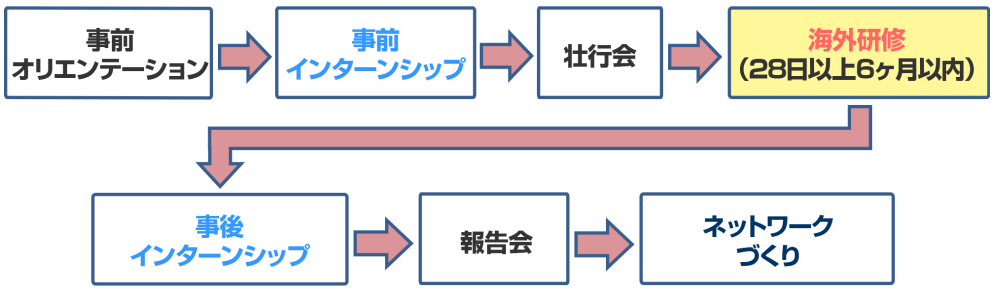
「グローカル」な視点から、地域の課題や豊富なリソースを現実的かつ創造的に見極め、課題を解決するとともに、岩手の潜在的価値を活用し、将来の岩手を導くリーダーを、産学官一体となって育成することを目指し、平成 29 年度、「いわてグローカル人材育成推進協議会」はトビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム・地域人材コース「いわて協創グローカル人材育成プログラム」を開始した。第一期生として「いわて高等教育コンソーシアム」全体で 8 名が採択された（内訳：岩手大学 5 名、岩手県立大学 1 名、一関高専 1 名、岩手医科大 1 名（※後に辞退））。

## 2. プログラム内容

A. 県産品販路開拓人材育成プログラム
B. ものづくり産業海外展開人材育成プログラム
C. 交流人口拡大促進人材育成プログラム
D. 持続可能型地域づくり人材育成プログラム
E. 多様性地域人材育成プログラム

参加学生は留学期間前に「いわてグローカル人材育成推進協議会」が実施した事前オリエンテーションに参加し、県内企業などでの事前インターンシップを行った後、海外留学・研修を行った。帰国後、研修成果を地域に還元することを目的に、県内企業でインターンシップを実施。

「いわて協創グローカル人材育成プログラム」の流れ




（「いわてグローカル人材育成推進協議会」HP より転載）

## 3.「いわて協創グローカル人材育成プログラム」第一期生の岩手大学生内訳

| | 学部 | 性別 | コース | 留学先 | 留学期間 | 留学計画タイトル |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 教育3年 | 女性 | C 交流人口拡大促進人材育成 | カナダ | 8/18～9/18 | カナダの駅舎から受けるインスピレーションを活用し、魅力的な「玄関」としての駅舎を構築することで、列車を利用したいわて観光を浸透させる |
| 2 | 農3年 | 男性 | A 県産品販売開拓人材育成 | アメリカ | 8/28～10/23 | 世界へはばたけ！Japanese SAKE 南部美人 |
| 3 | 人社2年 | 男性 | D 持続可能型地域づくり産業 | ドイツ | 10/7～2/28 | 「岩手発」で再生可能エネルギーの浸透を一欧州の先行事例に学ぶー |
| 4 | 農3年 | 女性 | D 持続可能型地域づくり産業 | 英国、ドイツ | 8/18～10/20 | ロハス的な理想郷を目指して地域と考える、豊かなまちづくり |
| 5 | 人社1年 | 男性 | D 持続可能型地域づくり産業 | インドネシア | 2/16～3/25 | 世界の被災地から学ぶ多文化社会 |

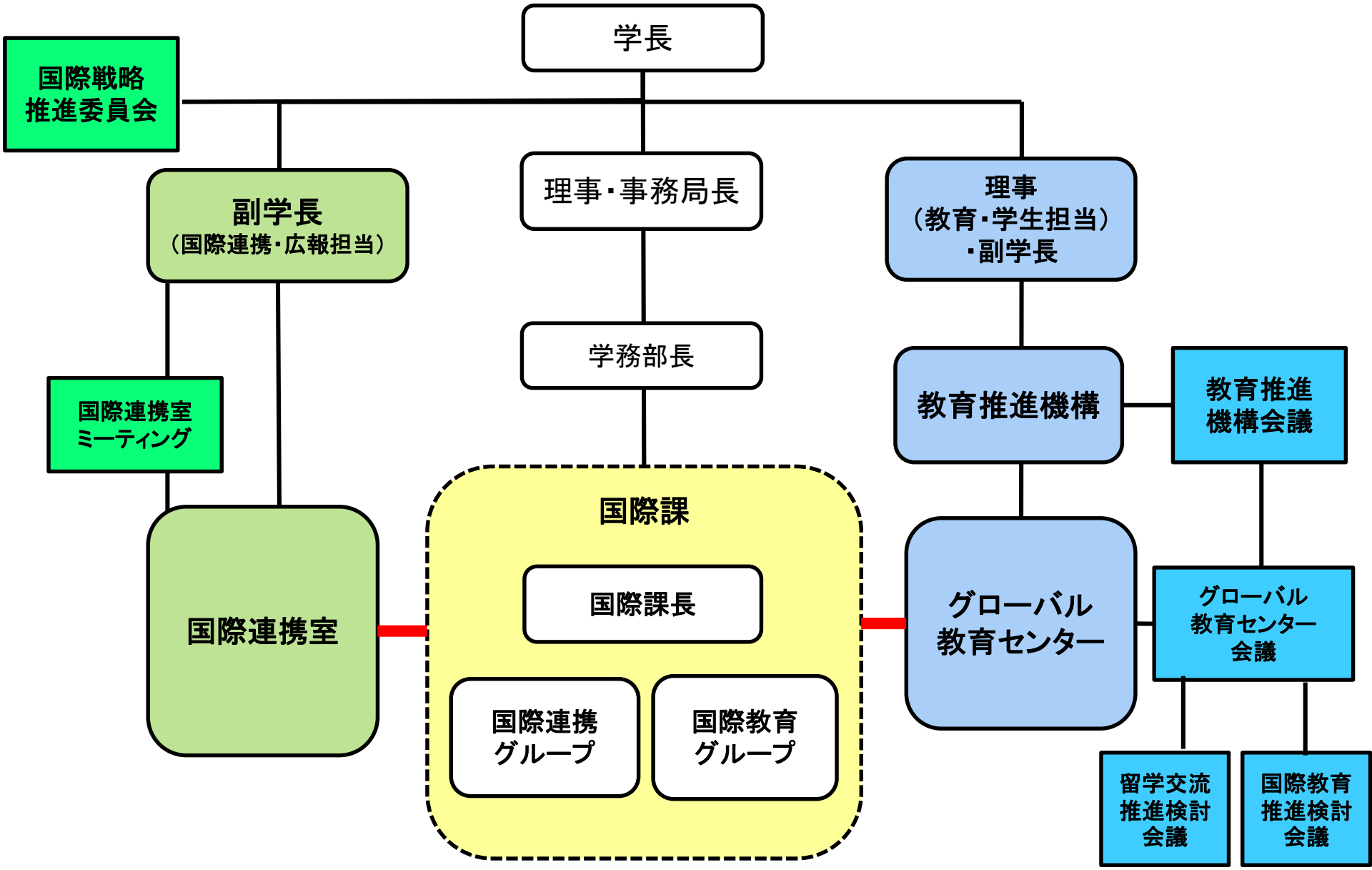
## 4. 第一期生派遣の反省と今後の課題

- 今回は初回であったため、担当の教員及び国際課職員は、試行錯誤で個別相談やオリエンテーション、企業とのマッチングを行なった。今後は、今回の経験で得たノウハウをもとに学生への対応や企業との調整を合理化し、関係する教職員の負担を減らすことが必要。
- 学生インターン受入に好意的だった地元企業の特徴として、以下が挙げられる。
  - 商品の海外展開や海外の状況の調査の必要を感じている。
  - 海外にコネクション・チャンネル・ネットワークを有している。
  - 受入先企業の社長が学生受入に好意的(リスクや損よりも、未来志向で人を育てることが好き)。
  - 受入先企業の担当者が学生と積極的に関わり、世話することを申し出てくれる(一番大事なのは事業や学生の志への理解)。
- 今回は理工学部からの応募者が不在であったが、今後はすべての学部の学生に本事業に対して関心を持ってもらい、参加してもらうことを期待したい。そのためには国際課や教員による同事業の広報・周知の徹底が必要とされる。

報告:石松弘幸

−資料−

# 国際連携・国際教育関連 組織図



# 外国の大学との交流
# Academic Cooperation between Universities/Faculties

平成 29 年 5 月 1 日現在

大学間協定 Universities

| 国名<br>Country | 大学等名<br>Name of University | 初締結年月日<br>First Date of Agreement | 主な交流内容<br>Contents of Exchanges | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 学術交流<br>Academic Exchange | 学生交流<br>Student Exchange |
| 中華人民共和国<br>People's Republic of China | 曲阜師範大学<br>Qufu Normal University | 2002.9.25 | ○ | ○ |
| | 北京大学・石河子大学<br>Peking University Shihezi University | 2003.12.5 | ○ | |
| | 西北大学<br>Northwest University | 2003.12.9 | ○ | ○ |
| | 大連理工大学<br>Dalian University of Technology | 2005.5.23 | ○ | ○ |
| | 吉林農業大学<br>Jilin Agricultural University | 2006.10.3 | ○ | ○ |
| | 寧波大学<br>Ningbo University | 2006.10.28 | ○ | ○ |
| | 山東工芸美術学院<br>Shandong University of Art and Design | 2016.7.21 | ○ | ○ |
| 大韓民国<br>Republic of Korea | 明知大学校<br>Myongji University | 2004.7.13 | ○ | ○ |
| | 国立 HANBAT 大学校<br>Hanbat National University | 2006.8.23 | ○ | |
| | 全南大学校<br>Chonnam National University | 2009.9.1 | ○ | ○ |
| | 群山大学校<br>Kunsan National University | 2016.1.27 | ○ | ○ |
| 台湾<br>Taiwan | 高雄師範大学<br>National Kaohsiung Normal University | 2011.7.8 | ○ | ○ |
| タイ王国<br>Kingdom of Thailand | サイアム大学<br>Siam University | 2002.7.2 | ○ | ○ |
| | キングモンクット工科大学トンブリ校<br>King Mongkut's University of Technology, Thonburi | 2016.6.20 | ○ | |
| ミャンマー連邦共 | パテイン大学 | 2016.12.4 | ○ | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 和国<br>Republic of the Union of Myanmar | Pathein University | | | |
| アメリカ合衆国<br>United States of America | オーバン大学<br>Auburn University | 1998.11.6 | ○ | |
| | アーラム大学<br>Earlham College | 2003.8.11 | ○ | ○ |
| | テキサス大学オースティン校<br>The University of Texas at Austin | 2004.10.20 | ○ | ○ |
| | アラスカ大学アンカレッジ校<br>University of Alaska Anchorage | 2016.2.5 | ○ | ○ |
| カナダ<br>Canada | セント・メアリーズ大学<br>Saint Mary's University | 2003.7.31 | ○ | ○ |
| | サスカチュワン大学<br>University of Saskatchewan | 2013.3.1 | ○ | ○ |
| アイスランド共和国<br>Republic of Iceland | アイスランド大学<br>The University of Iceland | 2011.2.16 | ○ | ○ |
| ロシア連邦<br>Russian Federation | サンクト・ペテルブルグ国立文化大学<br>St. Petersburg State University of Culture | 2000.3.28 | ○ | ○ |

部局間協定 Faculties

| 部局名<br>Faculty in Charge | 国名<br>Country | 大学等名<br>Name of University | 初締結年月日<br>First Date of Agreement | 主な交流内容<br>Contents of Exchanges | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 学術交流<br>Academic Exchange | 学生交流<br>Student Exchange |
| 人文社会科学部<br>Humanities and Social Sciences | フランス共和国<br>French Republic | ボルドー・モンテーニュ大学<br>Université Bordeaux Montaigne | 2007.7.6 | ○ | ○ |
| | 大 韓民国<br>Republic of Korea | 群山大学校<br>Kunsan National University | 2011.1.20 | ○ | ○ |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 教育学部<br>Education | 中華人民共和国<br>People's Republic of China | 北京大学芸術学系・哲学系・宗教学系<br>Peking University Department of Philosophy (Religion) | 1998.8.21 | ○ | |
| | | 清華大学中文系<br>Tsinghua University of Chinese Languages & Literature | 2000.12.15 | ○ | ○ |
| | | 山東工芸美術学院国際交流与合作処<br>Shandong University of Art and Design<br>Office of International Exchange and Cooperation | 2006.5.24 | ○ | ○ |
| | イタリア共和国<br>Republic of Italy | カラーラ大学<br>Accademia di Belle Arti di Carrara | 2005.10.5 | ○ | ○ |
| | アメリカ合衆国<br>United States of America | ノース・セントラル・カレッジ<br>North Central College | 2002.9.6 | ○ | ○ |
| | カ ナダ<br>Canada | ブリティッシュ・コロンビア大学教育学部<br>The University of British Columbia Faculty of Education | 2001.7.17 | ○ | |
| 人文社会科学部・教育学部<br>Humanities and Social Sciences, Education | 中華人民共和国<br>People's Republic of China | 清華大学人文学院<br>School of Humanities, Tsinghua University | 2017.3.21 | ○ | ○ |
| 理工学部<br>Science and Engineering | 中華人民共和国<br>People's Republic of China | 新疆農業大学<br>Xinjiang Agricultural University | 2003.11.10 | ○ | ○ |
| | | 華南理工大学<br>South China University of Technology | 2004.7.6 | ○ | ○ |
| | | 西北農林科技大学信息工程学院<br>Northwest A&F University College of Information Engineering | 2006.8.23 | ○ | ○ |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 西安科技大学計算機科学と技術学院<br>College of Computer Science and Technology, Xi'an University | 2010.9.8 | ○ | |
| | | 清華大学深圳研究生院<br>Graduate School at Shenshen, Tsinghua University | 2016.7.5 | ○ | |
| | タイ王国<br>Kingdom of Thailand | チュラロンコン大学理学部<br>Chulalongkorn University Faculty of science | 2002.1.10 | ○ | |
| | | タマサート大学工学部<br>Faculty of Engineering, Thammasat University | 2014.12.11 | ○ | |
| | | キングモンクット工科大学ラドカバン校理学部<br>Faculty of Science, King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang | 2014.11.18 | ○ | ○ |
| | | カセサート大学<br>Faculty of Science, Kasersert University | 2016.7.1 | ○ | |
| | マレーシア<br>Malaysia | マレーシアパハン大学研究イノベーション部門<br>Department of Research and Innovation, University Malaysia Pahang | 2010.6.9 | ○ | |
| | 大韓民国<br>Republic of Korea | 忠南大学校グリーンエネルギー技術専門大学院<br>Chungnam National University Graduate School of Green Energy Technology | 2013.4.8 | ○ | |
| | モンゴル国<br>Mongolia | モンゴル国立大学<br>数学とコンピュータサイエンス学院<br>National University of Mongolia<br>School of Mathematics and Computer Science | 2007.9.14 | ○ | ○ |
| | | モンゴル科学技術大学<br>Mongolian University of Science and Technology | 2008.10.29 | ○ | ○ |
| | | 人文大学情報通信マネージメント学院<br>University of the Humanities | 2016.4.1 | ○ | ○ |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ人民共和国 People's Republic of Bangladesh | ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ工科大学工学部 Faculty of Engineering, Bangladesh University of Engineering and Technology | 2003.12.23 | ○ | ○ |
| | ﾌﾗﾝｽ共和国 French Republic | ピエール・エ・マリーキュリー大学化学部 Electrochemistry Department of Pierre & Marie Curie University | 1997.4.19 | ○ | |
| | キルギス共和国 Kyrgyz Republic | キルギス-トルコマナス大学工学部 Engineering Faculty, Kyrgyzstan-Turkey Manas University | 2009.10.22 | ○ | ○ |
| | | キルギス-ロシアスラブ大学工学部 Engineering Faculty, Kyrgyz-Russian Slavic University | 2010.12.1 | ○ | ○ |
| | スウェーデン王国 Kingdom of Sweden | リンネ大学工学部 Faculty of Technology, Linnaeus University | 2016.10.1 | ○ | |
| 農学部 Agriculture | ｱﾒﾘｶ合衆国 United States of America | パデュー大学農学部 Purdue University. School of Agriculture | 1996.4.4 | ○ | ○ |
| | ドイツ連邦共和国 Federal Republic of Germanly | ロッテンブルク大学 University of Applied Forest Sciences Rottenburg | 2013.11. 6 | ○ | ○ |
| 連合農学研究科 Agricultural Sciences | モンゴル国 Mongolia | モンゴル生命科学大学 Mongolian University of Life Sciences | 2014. 2.24 | ○ | ○ |
| | バングラデシュ人民共和国 People's Republic of Bangladesh | ダッカ大学生物学部 Faculty of Biological Sciences, University of Dhaka | 2014.11.26 | ○ | |

# 岩手大学教員海外派遣事業（平成29年度分）実施要項

平 成 28年 10月 27日
国際戦略推進委員会決定

1. 目的

岩手大学の若手・中堅教員を海外の大学・研究機関に派遣し、国際的な視野を持った教員を育成する。国際交流に積極的な教員へのインセンティブ付与や、教員の国際業務能力向上の機会を提供し、教員一人ひとりの国際化への意識を高め、岩手大学のグローバル化を推進することを目的とする。

なお、当該教員は、本事業への参加後、派遣先の大学・研究機関の研究者との交流推進に寄与するとともに、岩手大学が実施する国際関係事業に積極的に参画することとする。

2. 期待される効果

・岩手大学の国際交流関連事業に積極的に取り組み、大学運営において国際関係業務の核となる人材となる。
・教育内容・方法の改善に意識的に取り組み、派遣終了後、岩手大学において外国語等による国際的に水準の高い講義が実施可能になる。
・国際理解力、コミュニケーション能力が強化、育成される。
・派遣国に対する教育研究分野の理解が促進される。
・教授法に関わるFD研修会や講演会、国際交流委員会等へ積極的に参画する。

3. 要 件

(1)資格: 派遣年度の4月1日現在、50 歳未満の本学教員(附属学校教員を除く)
(2)派遣期間: 派遣開始は4月1日以降とする。派遣の期間は、原則6ヵ月以内で、年度末を超えない範囲とする。承認後の期間延長は原則として認めない。ただし、住居確保や転居手続きの都合上、派遣期間前後1週間程度の滞在は認める。
(3)派遣期間中の身分: 派遣期間中の身分は、本学教員であり、出張として扱われる。
(4)受入機関:国際連携室が提示する協定校
具体的なプログラム内容は別紙のとおり。
※協定校以外への海外派遣(自由選択型)については本事業とは別途募集予定。
(5)派遣者数: 2名以内
(6)支給経費: 勤務場所と派遣先との往復1回分に係る交通費、及び滞在費を支給する(国立大学法人岩手大学旅費規則による)。ただし、航空運賃は最下級普通運賃(ディスカウントエコノミー相当)とする。滞在費については、日額1万円を上限として支給する。 その他、実施にあたり必要となる経費について、教員に配分される研究費等から充てることができるものとする。
(7)語学力:研修先で主に英語でコミュニケーションを取る場合、IELTS 5.5/TOEFL-iBT 69-79/TOEIC 600-740 程度以上の語学力を有していることが望ましい。
(8)その他

①本事業は、サバティカル研修との重複申請を認めるが、本事業は教員の「国際業務能力向上」の機会を提供し、その成果を本学の国際関係事業に積極的に還元してもらうことを主目的とした事業であり、「自主的調査研究に専念できる」ことを主目的とするサバティカル研修制度とは目的が異なるため、申請に当たっては留意すること。なお、双方とも採用された場合、重複する期間については一方を辞退すること。
②本事業による派遣期間がサバティカル研修と連続する場合、本事業派遣先とサバティカル研修実施場所の移動にかかる旅費は別途協議により支給する。
③海外旅行保険については、必ず加入すること。

4. 応募方法

申請時の所属部局を通じて応募すること。

(1)申請書類

□岩手大学教員海外派遣事業申請書(別紙様式1)

※本事業の趣旨から、帰国後、岩手大学に1年以上在職することが期待されていることを理解したうえで署名すること。

□部局長の推薦書(別紙様式2)

※推薦者数が複数の場合は順位も付して連絡すること。

□航空賃等の見積書

※内訳記載があるもの。家族で行く場合は申請者分のみのもの。

(2)提出期限は別途定める。

5. 選 考

(1)本事業の目的に照らし、国際連携室による審査のうえ、国際戦略推進員会において決定する。

(2)審査結果については推薦のあった部局長に対して通知する。

6. その他

(1)採択された教員は以下の義務が発生する。

①派遣期間中、毎月定期報告書(別紙様式3)を提出すること。

②派遣終了後、1ヵ月以内に、「帰国報告書(別紙様式4)」を提出すること。

③派遣終了後、1年以内に、事業報告会にて派遣概要及びその後の業務進捗状況の報告を行うこと。

④派遣終了後、1年経過後に「成果報告書(別紙様式5)」を提出すること。

⑤派遣終了後、大学及び学部等で企画する国際関連事業に積極的に協力すること。

(2)派遣修了後1年以内に自己都合退職した場合、当該事業にかかる費用について返還を求める場合がある。

(3)本事業による派遣に伴う所属部局における研究上・教育上・職務上の影響を最小限に留めるよう努力すること。

# 平成 29 年度　留学生関係行事

| | | | |
|---|---|---|---|
| 前期 | 4月 | 5 日（水） | 平成29年度前期　交換留学プログラム　開講式 |
| | | 5 日（水） | 交換留学プログラム履修説明会、日本語オリエンテーション |
| | | 6日（木） | ライブラリーツアー、キャンパスツアー |
| | | 5日（水） | 国際交流会館オリエンテーション |
| | | 7日（金） | 岩手大学入学式 |
| | | 10日（月） | 留学生オリエンテーション |
| | | 12日（火） | 前期授業開始 |
| | | 19日（水） | 留学生のための「交通安全教室」 |
| | | 26 日（水） | グローバルヴィレッジの留学生歓迎パーティー |
| | 6月 | 3日（土） | 盛岡・つなぎ間ロードレース大会 |
| | 7月 | 8日（土） | 留学生と市民のｶﾞｰﾃﾞﾝﾊﾟｰﾃｨｰ～世界の屋台村～ |
| | | 29 日（土） | 外国人留学生 OB・OG 等との懇談会 in　バンコク |
| | 8月 | 1日（火） | 平成29年度前期　交換留学プログラム　修了式 |
| | | 8日（火）～9月26日（火） | 夏季休業 |
| | 9月 | 25日（月） | 国際交流会館オリエンテーション |
| | | 26日（火） | 前期成績発表 |
| | | 26日（火） | 平成29年度後期日本語研修コース、日本語・日本文化研修コース及び交換留学プログラム　開講式 |
| | | 26日（月） | 交換留学プログラム履修説明会、日本語オリエンテーション、キャンパスツアー |
| 後期 | | 27日（水） | 後期授業開始 |
| | 10月 | 6日（火） | 留学生オリエンテーション、ライブラリーツアー |
| | | 21日（土）～22日（日） | 大学祭 |
| | 12月 | 24日（日）～1月7日（日） | 冬季休業 |
| | 1月 | 11日（木） | フィールドスタディ工場見学＆伝統文化体験（トヨタ自動車東日本株式会社、歴史公園「えさし藤原の郷」・えさし郷土文化館） |
| | 2月 | 3日（土） | 中国留学生学友会主催「2018 年旧暦春節祝賀会」 |
| | | 7日（水）～16日（金） | 第5回外国人留学生による“岩手のいいところ”写真展 |
| | | 8日（木） | 平成29年度後期　日本語研修コース及び交換留学プログラム　修了式 |
| | | 10日（土） | 外国人留学生 OB・OG 等との懇談会 in 東京 |
| | | 11日（日）～12日（月） | 留学生フィールドスタディ　スキー　in　安比 |
| | 3月 | 17日(土) | 外国人留学生 OB・OG 等との懇談会 in　盛岡 |
| | | 23日（金） | 卒業式 |
| | | 24日（土）～31日（土） | 春季休業 |
| | | 30日（金） | 後期成績発表 |

# 平成29年度海外学生受け入れ・派遣実績

| 年度 | 学部等 | 受入学生数 | 内訳 | | 派遣学生数 | 内訳 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2017<br>H29 | 人文社会科学部 | 11 | 韓:明知大学<br>韓:群山大学<br>露:ｻﾝｸﾄﾍﾟﾃﾙﾌﾞﾙｸ国立文化大学<br>米:ｱﾗｽｶ大学ｱﾝｶﾚｯｼﾞ校<br>中:山東工芸美術学院<br>仏:ﾎﾞﾙﾄﾞｰ・ﾓﾝﾃｰﾆｭ大学 | 3<br>2<br>2<br>1<br>1<br>2 | 6 | 仏:ﾎﾞﾙﾄﾞｰ・ﾓﾝﾃｰﾆｭ大学<br>韓:群山大学 | 5<br>1 |
| | 教育学部 | 16 | 中:寧波大学<br>中:曲阜師範大学<br>タイ:サイアム大学<br>中:西北大学<br>米:ﾉｰｽｾﾝﾄﾗﾙｶﾚｯｼﾞ<br>イタリア:カラーラアカデミア | 3<br>3<br>1<br>3<br>3<br>3 | 2 | 米:ﾉｰｽｾﾝﾄﾗﾙｶﾚｯｼﾞ<br>中:清華大学 | 1<br>1 |
| | 理工学部 | 3 | 中:大連理工大学<br>マレーシア:パハン大学 | 2<br>1 | 1 | タイ:ｷﾝｸﾞﾓﾝｸｯﾄ工科大学ﾄﾝﾌﾞﾘ校 | 1 |
| | 農学部 | 1 | 独:ロッテンブルグ大学 | 1 | | | |
| | 総合科学研究科<br>総合文化学専攻 | 2 | 仏:ﾎﾞﾙﾄﾞｰ・ﾓﾝﾃｰﾆｭ大学<br>中:清華大学 | 1<br>1 | | | |
| | 総合科学研究科<br>理工学専攻 | 3 | 台湾:高雄師範大学 | 3 | | | |
| | 総合科学研究科<br>農学専攻 | 2 | 中:吉林農業大学 | 2 | | | |
| 合計 | | 38 | | | 9 | | |

# 岩手大学海外派遣・留学プログラム一覧（短期研修・研究型）

▶ 【短期研修・研究型】（派遣）

| プログラム名 | 派遣地域・大学 | 派遣時期 | 派遣期間 | 単位認定 | 単位振替先 | 協定の種類 | 参加資格 | 定員 | 派遣実績 | | | | | | 担当教員（学部等）／問い合わせ先 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | |
| 国際冬期・夏期学校（韓国語研修） | ［韓国］ 全南大学校 | 2月・8月 | 3週間 | なし | | 大学間 | 全学 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 山本清龍（農学） |
| 明知大サマーキャンプ（韓国語研修） | ［韓国］ 明知大学校 | 8月上旬 | 3週間 | あり | 人文社会科学部<br>専門科目 | 大学間 | 全学 | 4 | 4 | 5 | 2 | 0 | 1 | 0 | 家井美千子・梁仁實（人社） |
| 中国語短期語学研修（文化コース・環境コース） | ［中国］ 大連理工大学 | 7月中旬 | 3週間 | なし | | 大学間 | 全学 | 数名 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | G教育センター・国際課 |
| 春期海外英語研修 | ［フィリピン］デ・ラ・サール大学 | 3月 | 3週間 | あり | 教養教育科目 | 研修覚書 | 全学 | 10 | | (H26新規) | 4 | 10 | 10 | 10 | 尾中夏美（G教育センター）<br>CIEE（国際教育交換協議会） |
| 海外研修基礎コース<br>（鹿児島大学主催） | ［アメリカ］ カリフォルニア地域の大学・企業<br>［東南アジア］ シンガポールの大学・企業 など<br>［ハワイ］ ハワイ大学 など | 9月、2月 | 9日～2週間 | なし | | なし | 全学 | 数名 | | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 尾中夏美（G教育センター）<br>（鹿児島大学北米センター） |
| 国際プロフェッショナル養成プログラム<br>（鹿児島大学主催） | ［アメリカ］ カリフォルニア地域の大学・企業 | 9月 | 4週間 | なし | | なし | 全学 | 数名 | | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 尾中夏美（G教育センター）<br>（鹿児島大学北米センター） |
| 寧波大学サマーフェスティバル | ［中国］ 寧波大学 | 7月上旬 | 7日 | なし | | 大学間 | 全学 | 5 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 藪　敏裕（教育） |
| グローバルプロ基礎コース<br>（US-JAPAN FORUM） | ［アメリカ］ カリフォルニア地域の大学・企業 | 2月 | 1週間 | なし | | なし | 全学 | 数名 | | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 尾中夏美（G教育センター）<br>US-JAPAN FORUM |
| グローバルプロ養成プログラム<br>（US-JAPAN FORUM） | ［アメリカ］ カリフォルニア地域の大学・企業 | 9月 | 4週間 | あり | 国際教育科目 | なし | 全学 | 数名 | | (H26新規) | 1 | 5 | 1 | 1 | 尾中夏美（G教育センター）<br>US-JAPAN FORUM |
| カリフォルニア・イノベーション研修<br>（US-JAPAN FORUM） | ［アメリカ］ カリフォルニア地域の大学・企業 | 9月 | 9日～2週間 | あり | 教養教育科目 | なし | 全学 | 数名 | | (H26新規) | 1 | 2 | 2 | 1 | 尾中夏美（G教育センター）<br>US-JAPAN FORUM |
| シリコンバレー・アントレプレナー研修<br>（US-JAPAN FORUM） | ［アメリカ］ カリフォルニア・シリコンバレー | 毎月 | 1ヶ月・3ヶ月・6ヶ月 | なし | | なし | 全学 | 数名 | | (H26新規) | 0 | 0 | 0 | 0 | 尾中夏美（G教育センター）<br>US-JAPAN FORUM |
| 国際研修－エネルギーと持続可能な社会 | ［アイスランド］ アイスランド大学 ほか<br>［スウェーデン］ リンネ大学 ほか | 9月 | 9日<br>（+事前・事後研修複数回） | あり | 教養教育科目<br>国際教育科目 | 研修覚書 | 全学 | 12 | 8 | 12 | 8 | 7 | 9 | 8 | ｱﾝﾃﾞｽ ｶｰﾙｷﾋﾞｽﾄ、尾中夏美（G教育センター） |
| 国際研修－貧困と持続可能な社会 | ［フィリピン］ サンカルロス大学・NGO | 9月 | 2週間<br>（＋事前・事後研修複数回） | あり | 教養教育科目<br>国際教育科目 | 研修覚書 | 全学 | 10 | | | (H27新規) | 4 | 5 | 4 | 平井華代、尾中夏美（G教育センター） |
| 国際研修－デザインと持続可能な社会 | ［イタリア］ カラーラ・アカデミー | 2～3月 | 3週間<br>（＋事前・事後研修複数回） | あり | 教養教育科目<br>国際教育科目 | 研修覚書 | 全学 | 10 | | | (H27新規) | | 3 | 実施せず | 尾中夏美（G教育センター） |
| 国際研修－ビジネスと持続可能な社会 | ［台湾］ 高雄師範大学 | 3月 | 13日間<br>（＋事前・事後研修複数回） | あり | 教養教育科目<br>国際教育科目 | 大学間 | 全学 | 10 | | | | | | 5 | 尾中夏美（G教育センター） |
| 国際研修－世界遺産と持続可能な社会 | ［インドネシア］ アイルランガ大学 | 8～9月 | 2週間<br>（+事前・事後研修複数回） | あり | 教養教育科目<br>国際教育科目 | 部局間 | 全学 | 10 | | | | | | | ｱﾝﾃﾞｽ ｶｰﾙｷﾋﾞｽﾄ、松岡洋子（G教育センター） |
| 異文化理解研修 | ［タイ］ サイアム大学 | 2月 | 2週間 | なし | | 大学間 | 全学 | 2 | | (H26新規) | 2 | 1 | 0 | 実施せず | ホールジェームズ（教育） |
| 夏季韓国語研修 | ［韓国］ 群山大学校 | 8月 | 4週間 | あり | 教養教育科目 | 部局間 | 人社 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 家井美千子（人社） |
| 日韓学生の協働研修Ⅰ・Ⅱ<br>（国内研修・海外研修） | ［韓国］ 群山大学校・明知大学校 | 8月 | 9日<br>（+国内研修9日） | あり | 人文社会科学部<br>専門科目 | 部局間 | 人社 | 15 | 15 | 4 | 10 | 9 | 6 | 7 | 家井美千子（人社） |
| ドイツ語課題解決短期研修 | ［ドイツ］ ドレスデン工科大学→H30 ゲーテインスティトゥート | 3月→7月 | 2週間 | あり | 人文社会科学部<br>専門科目 | 部局間 | 人社 | 20 | | (H26新規) | 17 | 15 | 21 | 実施せず | 川村和宏→H30 大友晨也（人社） |
| UCLA短期留学プログラム | ［アメリカ］ カリフォルニア大学ロサンゼルス校 | 8～9月 | 6週間 | あり | 人文社会科学部<br>専門科目 | 部局間 | 人社 | 20 | | (H26新規) | | 13 | 実施せず | 0 | 斎藤博次（人社）<br>※28年度実施予定なし |
| 中国語課題解決短期研修 | ［中国］ 曲阜師範大学、西北大学（H28）、寧波大学（H29） | 3月 | 2週間 | あり | 人文社会科学部<br>専門科目 | 部局間 | 人社 | 20 | | (H26新規) | 10 | 12 | 9 | 5 | 勇田智彦（人社） |
| 英語課題解決短期研修（シンガポール） | ［シンガポール］ カーティン大学(豪)シンガポール校 | 9月 | 2週間（＋国内研修） | あり | 人文社会科学部<br>専門科目 | 部局間 | 人社 | 15 | | | | | 0 | 18 | 小林葉子（人社） |
| 短期英語研修 | ［カナダ］ オカナガン大学 | 3月頃 | 3週間 | あり | 教養教育科目<br>人文社会科学部専門科目 | 研修覚書 | 全学 | 20 | 18 | | | | 7 | 実施せず | 斎藤博次（人社） |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| アーラム大学メイタームプログラム | ［アメリカ］アーラム大学 | 5月 | 31日 | あり | 人文社会科学部<br>専門科目 | 大学間 | 人社 | 5 | | (H26新規) | 5 | | 0 | 0 | 人文社会科学部国際交流委員会 |
| 西部カトリック大学語学センター　フランス語研修 | ［フランス］西部カトリック大学 | 2～3月<br>8～9月 | 3週 or 6週 | あり | 人文社会科学部<br>専門科目 | 研修覚書 | 人社 | 数名 | | (H26新規) | 8 | 1 | 3 | 2 | グラ　アレクサンドル（人社） |
| 短期中国語研修 | ［中国］ 清華大学 | 8月頃 | 1ヶ月 | なし | | 部局間 | 教育 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 藪敏裕（教育） |
| 日本語教育実習 | ［中国］ 清華大学 | 3月頃 | 2週間 | あり | 教育学部専門科目 | 部局間 | 教育 | 10 | 4 | 6 | 6 | 9 | 13 | 7 | 菊地悟（教育） |
| 漢文学実地研修 | ［中国］ 国語の教科書に出てくる場所など（寧波大学） | 9月頃または<br>3月頃 | 10日 | あり | 教育学部専門科目 | 大学間 | 教育 | 5 | 10 | 2 | 0 | 0 | 3 | 9 | 藪敏裕（教育） |
| プアン・プログラム（英語教育実習） | ［タイ］ タイ国内中学校等（サイアム大学の仲介） | 1月 | 2週間 | あり | 教育学部専門科目 | 大学間 | 教育 | 7 | 8 | 10 | 10 | 7 | 7 | 5 | ホールジェームズ（教育） |
| 数学教育実習 | ［タイ］ パンヤピワット運営大学附属中等学校 | 1月 | 2週間 | あり | 教育学部専門科目 | 大学間 | 教育 | 4 | | | | | | 4 | 本田卓、中村好則、小川春美、ホールジェームズ（教育） |
| English Language Institute Iwate Program<br>（語学留学） | ［アメリカ］ ノース・セントラル・カレッジ | 8月 | 17日間 | なし | | 大学間 | 教育他 | 20 | | | | | | | 境野直樹（教育） |
| 国際研修（理系英語研修） | ［カナダ］ ブリティッシュ・コロンビア大学<br>English Language Institute | 8月頃 | 4週間 | あり | 理工学部専門科目 | 研修覚書 | 工学2年・3年<br>院生 | 10 | 12 | 13 | 21 | 10 | 7 | 13 | 工学部国際研修実施委員会 |
| ハンバット国立大学校短期研修 | ［韓国］ ハンバット大学校 | 11月頃 | 5日間 | なし | | 部局間 | 工学院生 | 4 | | (H26新規) | 11 | 10 | 11 | 11 | 伊藤歩（研究高度化・グローバル化特別対策室） |
| 将来の農学・獣医学を担うグローバル<br>リーダー養成プログラム | ［アメリカ］ オーバン大学 | 9月 | 2週間 | あり | 農学部専門科目 | 大学間 | 農学 | 3 | 2 | 3 | 2 | 2 | 3 | 2 | 古市達哉（農学） |
| 将来の農学・獣医学を担うグローバル<br>リーダー養成プログラム | ［カナダ］ サスカチュワン大学 | 9月 | 3週間 | あり | 農学部専門科目 | 大学間 | 農学 | 14 | | (H26新規) | 7 | 14 | 14 | 14 | 宮崎雅雄（農学）<br>ラーマンアビドゥール（農学） |
| 海外の森林・林業とフォレスター研修プログラム | ［ドイツ］ ロッテンブルク大学 | 9月 | 10日 | あり | 農学部専門科目 | 部局間 | 農学 | 10 | | (H26新規) | 5 | 12 | 16 | 12 | 小藤田久義（農学）<br>真坂　一彦（農学） |
| パデュー大学学生派遣プログラム | ［アメリカ］ パデュー大学<br>※2013/2014年度は実施せず | 8月頃 | 1ヶ月 | あり | 農学部専門科目 | 部局間 | 農学 | 3 | | | 0 | 0 | 提携終了 | 提携終了 | 楯爪力（農学） |
| 海外インターンシップ | ［西アジアを除くアジア各地域］日系現地法人 | 8月頃 | 2～4週間 | あり | 理工学部専門科目 | なし | 工学2年・3年<br>院生 | 数名 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 工学部インターンシップ実施委員会 |
| 工学研究科　研究インターンシップ | ［カナダ］ サスカチュワン大学　ほか | 8月頃 | 2～4週間 | あり | 工学研究科共通科目 | 大学間 | 工学院生 | 数名 | | 6 | 5 | 2 | 3 | 4 | 工学研究科教務委員会 |
| 日本語教育実習インターンシップ | ［タイ］サイアム大学 | 2～3月 | 2週間 | なし | | 研修覚書 | 全学 | 2 | | (H26新規) | 2 | 2 | 0 | 2 | ホールジェームズ（教育） |
| 農学研究科<br>研究インターンシップ | ［カナダ］ サスカチュワン大学　ほか | 8月頃 | 2～4週間 | あり | 農学研究科共通科目 | 大学間 | 農学院生 | 数名 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | |
| 連合農学研究科<br>研究インターンシップ | ［カナダ］ サスカチュワン大学　ほか | 8月頃 | 2～4週間 | あり | 連合農学研究科専門科目 | 大学間 | 農学院生<br>連大院生 | 数名 | 1 | 1 | 5 | 3 | 3 | 7 | 連合大学院グループ |
| | | | | | | | 計 | 292 | 88 | 67 | 145 | 152 | 158 | 151 | |

▸ **【その他】**

| プログラム名 | 派遣地域・大学 | 派遣時期 | 派遣期間 | 単位認定 | 単位振替先 | 協定の種類 | 参加資格 | 定員 | 派遣実績 | | | | | | 担当教員（学部等）<br>／問い合わせ先 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | |
| 国際ボランティア各種プロジェクト（CIEE主催） | 各自の計画による | 主に夏季・春季 | 2週間～1ヶ月 | なし | | なし | 全学 | なし | 12 | 9 | 8 | 10 | 10 | 3 | G教育センター・国際課 |
| 大学院学生等の海外研究発表支援経費事業 | 各自の計画による | 随時 | 1週間程度 | なし | | なし | 全学 | なし | 10 | 17 | 15 | 27 | 22 | 30 | 研究推進課 |
| トビタテ！留学JAPAN<br>日本代表プログラム（全国版） | 各自の計画による | 随時 | 28日～2年以内 | なし | | なし | 全学 | なし | 0 | 0 | 2 | 2 | 2 | 3 | G教育センター・国際課 |
| トビタテ！留学JAPAN<br>日本代表プログラム（地域版） | 各自の計画による | 随時 | | なし | | なし | 全学 | なし | | | | | | 4 | 国際連携室・G教育センター・国際課 |
| ヤングリーダーズ国際研修 | 岩手県内 | 2月・8月 | 10日間 | あり | 国際教育科目 | なし | 全学 | 12名 | 20 | 31 | 25 | 27 | 17 | 実施せず | G教育センター・国際課 |

# 岩手大学留学生数(平成29年5月1日現在)

《種別》　　( )は女子で内数

【学部所属】

| 学部 | 正規生 | | | 小計 | 非正規生 | | | | | | 小計 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学部生 | | | | 研究生 | | | | 特別聴講学生 | 科目等履修生 | | |
| | 国費 | 政府 | 私費 | | 国費 | 政府 | 県費 | 私費 | 私費 | 私費 | | |
| 人文社会科学部 | | 1 (1) | 16 (4) | 17 (5) | | | | 3 (2) | 12 (5) | | 15 (7) | 32 (12) |
| 教育学部 | | | 1 (1) | 1 (1) | | | | | 12 (8) | | 12 (8) | 13 (9) |
| 理工学部 | | 2 | 32 (2) | 34 (2) | | | | 2 | 4 | | 6 | 40 (2) |
| 農学部 | | | 2 | 2 | | | | 1 | | | 1 | 3 |
| 合計 | | 3 (1) | 51 (7) | 54 (8) | | | | 6 (2) | 28 (13) | | 34 (15) | 88 (23) |

【大学院所属】

| 大学院 | 正規生 | | | 小計 | 非正規生 | | | | | | | 小計 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 研究生 | | | 教員研修留学生 | 特別聴講学生 | 特別研究学生 | 科目等履修生 | | |
| | 国費 | 政府 | 私費 | | 国費 | 政府 | 私費 | 国費 | 私費 | 私費 | 私費 | | |
| 人文社会科学研究科 | | | 5 (5) | 5 (5) | | | | | 3 (3) | | | 3 (3) | 8 (8) |
| 教育学研究科 | | | | | | | | | | | | | |
| 工学研究科(M) | 1 | | 19 (6) | 20 (6) | | | | | 8 (4) | | | 8 (4) | 28 (10) |
| 工学研究科(D) | 4 | | 27 (11) | 31 (11) | | | | | | 1 | | 1 | 32 (11) |
| 農学研究科(M) | | | 8 (4) | 8 (4) | | | | | | | | | 8 (4) |
| 総合科学研究科 | | | 10 (4) | 10 (4) | | | 2 (1) | | 3 (2) | | | 5 (3) | 15 (7) |
| 連合農学研究科 | 12 (4) | | 25 (8) | 37 (12) | | | | | | | | | 37 (12) |
| 合計 | 17 (4) | | 94 (38) | 111 (42) | | | 2 (1) | | 14 (9) | 1 | | 17 (10) | 128 (52) |

【グローバル教育センター所属】

| ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ教育センター | 国費 | | 私費 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| | 日本語研修留学生 | 日本語・日本文化研修留学生 | 特別聴講学生 | |
| 合計 | | | 2 | 2 |

◆◆留学生総数◆◆

| | 国費 | | 政府 | | 県費 | | 私費 | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 正規生 | 17 | (4) | 3 | (1) | | | 145 | (45) | 165 | (50) |
| 非正規生 | | | | | | | 53 | (25) | 53 | (25) |
| 合計 | 17 | (4) | 3 | (1) | | | 198 | (70) | **218** | **(75)** |

〔連合農学研究科配属別内訳〕

〈岩手大学7名、他大学配属30名〉

| | 国費 | 政府 | 私費 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 岩手大学 | 3 (1) | | 4 (2) | 7 (3) |
| 帯広畜産大学 | 4 (2) | | 5 (3) | 9 (5) |
| 弘前大学 | | | 9 (2) | 9 (2) |
| 山形大学 | 5 (1) | | 7 (1) | 12 (2) |
| 合計 | 12 (4) | | 25 (8) | 37 (12) |

〔岐阜連合獣医学研究科〕

| | 国費 | 政府 | 私費 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 岐阜連獣 | 2 | | 2 | 4 |

(国籍別:バングラデシュ1、アフガニスタン1、韓国1、タイ1)

〔連大他大学配属分除いた留学生数〕

188 (66)

**24ヶ国 1地域　　218 人**

《国籍別》

| アジア 11ヵ国1地域 196(66)人 | | | | | | 欧州 6ヵ国 13(8)人 | | | 中南米 1ヵ国 1(0)人 | | | アフリカ 4ヵ国 4(1)人 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| インドネシア | 4 | | バングラデシュ | 9 | (2) | アイスランド | 1 | (1) | キューバ | 1 | | ケニア | 1 | (1) |
| 韓国 | 12 | (2) | ベトナム | 11 | (3) | イタリア | 1 | | | | | ナイジェリア | 1 | |
| スリランカ | 2 | (2) | マレーシア | 7 | (1) | キルギス | 2 | | | | | マラウィ | 1 | |
| タイ | 10 | (5) | ミャンマー | 1 | | ドイツ | 2 | (1) | 北米 2ヵ国 4(0)人 | | | エチオピア | 1 | |
| 台湾 | 6 | (4) | モンゴル | 16 | (10) | フランス | 3 | (3) | アメリカ | 3 | | | | |
| 中国 | 117 | (37) | | | | ロシア | 4 | (3) | カナダ | 1 | | | | |
| ネパール | 1 | | | | | | | | | | | | | |

# 岩手大学留学生数（平成29年11月1日現在）

〈種別〉　　（ ）は女子で内数

【学部所属】

| 学部 | 正規生 | | | 小計 | 非正規生 | | | | | | | 小計 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学部生 | | | | 研究生 | | | | 特別聴講学生 | 科目等履修生 | 日本語・日本文化研修留 | | |
| | 国費 | 政府 | 私費 | | 国費 | 政府 | 県費 | 私費 | 私費 | 私費 | 国費 | | |
| 人文社会科学部 | | 1 (1) | 16 (4) | 17 (5) | | | | 8 (5) | 9 (5) | | | 17 (10) | 34 (15) |
| 教育学部 | | | 1 (1) | 1 (1) | | | | 1 | 15 (12) | | 1 | 17 (12) | 18 (13) |
| 理工学部 | | 2 | 32 (2) | 34 (2) | 1 | | | 5 | 3 (2) | | | 9 (2) | 43 (4) |
| 農学部 | | | 1 | 1 | | | | 2 (2) | 1 (1) | | | 3 (3) | 4 (3) |
| 合計 | | 3 (1) | 50 (7) | 53 (8) | 1 | | | 16 (7) | 28 (20) | | 1 | 46 (27) | 99 (35) |

【大学院所属】

| 大学院 | 正規生 | | | 小計 | 非正規生 | | | | | | 小計 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 研究生 | | | 教員研修留学生 | 特別聴講学生 | 特別研究学生 | 科目等履修生 | | |
| | 国費 | 政府 | 私費 | | 国費 | 政府 | 私費 | 国費 | 私費 | 私費 | 私費 | | |
| 人文社会科学研究科 | | | 3 (3) | 3 (3) | | | | | | | | | 3 (3) |
| 教育学研究科 | | | | | | | | 2 (1) | | | | 2 (1) | 2 (1) |
| 工学研究科（M） | 1 | | 17 (4) | 18 (4) | | | | | | | | | 18 (4) |
| 工学研究科（D） | 4 | | 25 (10) | 29 (10) | | | 1 | | | | | 1 | 30 (10) |
| 農学研究科（M） | | | 5 (2) | 5 (2) | | | | | | | | | 5 (2) |
| 総合科学研究科 | | | 14 (6) | 14 (6) | 3 (2) | | 2 (1) | | 7 (4) | | | 12 (7) | 26 (13) |
| 連合農学研究科 | 12 (4) | | 27 (9) | 39 (13) | | | | | | | | | 39 (13) |
| 合計 | 17 (4) | | 91 (34) | 108 (38) | 3 (2) | | 3 (1) | 2 (1) | 7 (4) | | | 15 (8) | 123 (46) |

【グローバル教育センター所属】

| ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ教育ｾﾝﾀｰ | 国費 | | 私費 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| | 日本語研修留学生 | 日本語・日本文化研修留学生 | 特別聴講学生 | |
| 合計 | 0 | 0 | 0 | 0 |

◆◆留学生総数◆◆

| | 国費 | 政府 | 県費 | 私費 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 正規生 | 17 (4) | 3 (1) | | 141 (41) | 161 (46) |
| 非正規生 | 7 (3) | | | 54 (32) | 61 (35) |
| 合計 | 24 (7) | 3 (1) | | 195 (73) | 222 (81) |

〔連合農学研究科配属別内訳〕

〈岩手大学　8名、他大学配属　31名　〉

| | 国費 | 政府 | 私費 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 岩手大学 | 3 (1) | | 5 (3) | 8 (4) |
| 帯広畜産大学 | 4 (2) | | 5 (3) | 9 (5) |
| 弘前大学 | | | 9 (2) | 9 (2) |
| 山形大学 | 5 (1) | | 8 (1) | 13 (2) |
| 合計 | 12 (4) | | 27 (9) | 39 (13) |

〔岐阜連合獣医学研究科〕

| | 国費 | 政府 | 私費 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 岐阜連獣 | 2 | | 2 | 4 |

(国籍別：バングラデシュ1、アフガニスタン1、韓国1、タイ1)

〔連大他大学配属分を除いた留学生数〕

191　(72)

21ヶ国1地域　222　人

| アジア 11ヶ国1地域201(69)人 | | | | | | 欧州 4ヶ国12(9)人 | | | 中南米 1ヶ国1(0)人 | | | アフリカ 4ヶ国4(1)人 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| インドネシア | 5 | (1) | バングラデシュ | 11 | (4) | イタリア | 2 | (2) | キューバ | 1 | 0 | ケニア | 1 | (1) |
| 韓国 | 12 | (2) | ベトナム | 11 | (3) | ドイツ | 4 | (2) | | | | ナイジェリア | 1 | |
| スリランカ | 2 | (2) | マレーシア | 7 | (2) | フランス | 3 | (3) | | | | マラウィ | 1 | |
| タイ | 10 | (4) | ミャンマー | 1 | | ロシア | 3 | (2) | 北米 1ヶ国4(2)人 | | | エチオピア | 1 | |
| 台湾 | 7 | (3) | モンゴル | 14 | (8) | | | | アメリカ | 4 | (2) | | | |
| 中国 | 120 | (40) | パキスタン | 1 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | |

# 岩手大学外国人留学生地域派遣実績一覧

平成29年度

| | 派遣先 | 派遣日程 | 交流者数 | 派遣留学生数 | 出身地別人数 | 交流の内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | IGRいわて銀河鉄道㈱ | 4月17日 | 2 | 1 | マレーシア | ムスラム学生へのヒヤリング |
| 2 | 宮古市・岩手銀行モニターツアー<br>（岩手銀行法人戦略部工務・地域創生室） | 6月3日～4日 | | 7 | 中国、台湾、タイ、韓国 | 宮古市の情報発信、アンケート回答、地元の方との意見交換会等 |
| 3 | 盛岡国際交流協会（くりやがわ保育園） | 6月6日 | 60 | 1 | ロシア | 保育園児に自国文化の紹介や交流 |
| 4 | 滝沢市生涯学習スポーツ課。滝沢市国際交流協会 | 7月22日 | 20 | 2 | 中国、マレーシア | イベント「世界の遊びを体験しよう」に参加し、小学生に自国の文化（遊び）の紹介や交流 |
| 5 | ㈱企作工舎　きさくや | 5月末から6月にかけての1日 | － | 1 | アメリカ | ニュースプラス1いわての取材 |
| 6 | 株式会社　岩手ホテル＆リゾート | 6月4日 | － | 79 | 中国、韓国、バングラデシュ、ネパール、ケニア、ナイジェリア、日本、モンゴル、台湾、ロシア、マレーシア、タイ他計 | 安比の情報発信、PR等 |
| 7 | 岩手県商工労働観光部産業経済交流課 | 6月5日 | 4 | 5 | 台湾 | 商談会（台湾）出展企業へのモニター |
| 8 | 岩手県立盛岡第一高等学校 | 6月8日、6月28日 | 282 | 7 | 中国、ナイジェリア、アメリカ、ロシア、ケニア、バングラデシュ | 高校3年生の英語発表会への参加 |
| 9 | 盛岡市役所　市長公室　広聴広報課 | 6月～7月にかけての1日 | － | 1 | タイ | 盛岡の公式ホームページの翻訳 |
| 10 | 岩手県北観光 | 8月3日～8日 | | 2 | 中国、ベトナム | 岩手観光ツアーの通訳サポート |
| 11 | 八幡平市横間自治公民館（盛岡広域振興局農政部） | 7月15日（土）～16日（日） | 150 | 10 | 中国 | 地域の伝統行事に参加 |
| 12 | IGRいわて銀河鉄道㈱ 「びすとろ銀河」 | 8月26日（土） | 多数 | 5 | タイ | タイ料理のレシピを共有、レストラン利用者へのタイ文化の紹介など |
| 13 | 「ゆかたのまち盛岡」推進事業実行委員会事務局 | 7月15日（土） | | 7 | キルギス、ロシア、中国、モンゴル、ベトナム | ゆかたコンテストへの参加 |
| 14 | 八幡平市 | 7月18日（火） | | 0 | タイ | 八幡平市民とタイ国マサート大学の学生との交流会に参加 |
| 15 | 盛岡地方農業農村振興協議会　雫石町内農家3戸 | 8月9日（水）～10日（木） | 3家族 | 10 | 中国、韓国、マレーシア | 農泊体験を通して、農家の成果への理解を深める。体験メニューへの意見交換会に参加 |
| 16 | ライオンズクラブ国際交流協会332-B地区 | 8月1日（火） | 3 | 1 | 台湾 | 台湾からの来日生の対応（通訳等含む） |
| 17 | ariTV株式会社 | 8月4日（金） | 3 | 0 | 韓国 | 通訳サポート　　先方都合にてキャンセル |
| 18 | 秋田県鹿角地域振興局総務企画部 | 8月9日（水） | － | 14 | 中国、マレーシア、台湾、韓国、モンゴル、ケニア | 鹿角市周辺のモニターツアー、情報発信、PR等 |
| 19 | 岩手県県土整備部空港課（岩手県空港利用促進協議会） | 10月19日（木） | － | 1 | 中国 | 出入国審査や関税審査を受ける際のサポート |
| 20 | フレンズ国際愛児園（先方都合でキャンセル） | 9月12日（火） | － | － | 台湾 | 先方都合でキャンセル |
| 21 | 岩手県央消防指令センター | 9月20日（水）、21日（木） | 20 | 6 | バングラデシュ、韓国、ナイジェリア、中国 | 通訳コールセンターを利用した119番通報の訓練参加 |
| 22 | 盛岡国際交流協会（MHナーサリー） | 10月5日（木） | 65 | 2 | 中国 | 保育園児に自国文化の紹介や交流 |
| 23 | 岩手県商工労働観光部観光課 | 9月15日（金） | － | 23 | 中国、バングラデシュ、タイ、ベトナム、韓国、台湾 | 十和田八幡平文化フェスティバルへの参加。郷土料理や伝統工芸、伝統芸能に触れる。 |
| 24 | 岩手県国際交流協会 | 10月8日（日） | － | 2 | ベトナム、ナイジェリア | 釜石市民と国際交流。国際交流、多文化共生理解の促進と図る |
| 25 | NPO善隣館 | 10月～毎週火曜日・水曜 | 6名 | 3 | フランス | フランス語クラスを担当 |
| 26 | 就労持続支援B型ちゃちゃまるの家 | 9月24日（日） | 30名 | 1 | ナイジェリア | 留学生へ能の紹介と障害を有する方との国際交流 |
| 27 | 岩手県立大学　看護学部 | 8月-10月 | － | 4 | ベトナム、タイ、中国、韓国 | 県立大学生の卒業研究協力 |
| 28 | (株)岩手ホテル＆リゾート　安比スキー＆スノーボードスクール | 冬季期間 | － | 4 | 中国 | スキースクールでのレッスンアシスタントとして協力 |
| 29 | 盛岡国際交流協会（手代森保育園） | 10月31日（火） | 20 | 1 | ナイジェリア | 保育園児に自国文化の紹介や交流 |
| 30 | 盛岡ハングルを学ぶ会 | 11月12日（日） | － | 3 | 韓国 | 韓国語試験のサポートと受験者との交流 |
| 31 | 岩手県文化スポーツ部文化振興課 | 10月28日（土）～29日（日） | － | 4 | 中国 | 釜石市、遠野市、大槌町へのモニターツアー、情報発信、PR等 |
| 32 | 釜石市・大船渡市・岩手銀行モニターツアー<br>（岩手銀行法人戦略部工務・地域創生室） | 11月11日（土）～12日（日） | － | 6 | 中国、台湾、タイ | 釜石市・大船渡市の情報発信、アンケート回答、地元の方との意見交換会等 |
| 33 | 及川　亮 | 11月～1月 | － | 1 | モンゴル | モンゴル赴任にあたって、モンゴル文化・モンゴル語の習得協力 |
| 34 | 縦糸横糸合同会社 | 11月3日（日） | － | 8 | 中国、韓国、イタリア、フランス | 郷土芸能の鑑賞とワークショップへの参加 |
| 35 | 侍浜町振興協議会 | 11月11日（土）～13日（月） | － | 7 | 中国、韓国 | 農泊体験を通して、農家の成果への理解を深める。体験メニューへのアンケート協力・SNSの発信等 |
| 36 | 盛岡誠桜高等学校 | 11月15日（水） | 280名（7クラス） | 7 | 中国、パキスタン、韓国 | 高校生へ自国文化の紹介や交流 |
| 37 | 岩手県立大学　福祉学部 | 7月－10月 | － | 46 | 無記名のアンケートのため不明 | 県立大学生の卒業研究のアンケート協力 |
| 38 | 花巻国際交流協会 | 12月3日（日） | － | 3 | 中国 | 国際フェアにて自国の伝統芸能の紹介・実演 |
| 39 | 就労持続支援B型ちゃちゃまるの家 | 12月3日（日） | 30名 | 8 | ナイジェリア・アメリカ・イタリア・中国 | 留学生へ茶道の紹介と障害を有する方との国際交流 |
| 40 | 岩手ネットワークシステム(INS) | 12月8日（金） | 15名 | 1 | 台湾 | 台湾企業の方来県の際の案内、通訳等 |
| 41 | フレンズ国際愛児園 | 12月1日（金） | 33名 | 1 | ドイツ | 園児に自国文化の紹介や交流 |
| 42 | 縦糸横糸合同会社 | 12月2日（土） | － | 5 | 中国、イタリア、アメリカ | 民俗芸能の鑑賞・体験と郷土料理や伝統工芸のワークショップへの参加 |
| 43 | 岩手県立盛岡第一高等学校 | 12月8日（金） | 3 | 3 | フランス | 盛岡駄菓子の試食で商品開発のヒントを得る(SGHへの取り組み) |
| 44 | 社会福祉法人　久昌寺会　久昌寺保育園 | 1月12日（金） | 45 | 4 | 中国、アメリカ、韓国、インドネシア | 保育園児に自国文化紹介や交流 |
| 45 | 秋田県鹿角地域振興局総務企画部 | 2月3日（土） | － | 10 | 中国、アメリカ | 鹿角市・小坂町周辺のモニターツアー、情報発信、PR等 |
| 46 | 盛岡社会福祉事業団　津志田老人福祉センター | 1月6日（土） | － | 1 | 中国（ウイグル自治区） | ウイグル自治区の紹介と踊りの披露 |
| 47 | 縦糸横糸合同会社 | 2月4日（日） | 30 | 7 | ナイジェリア、韓国、モンゴル、フランス、台湾、韓国 | 一関地区に伝わる民族芸能「南部神楽」の鑑賞・ワークショップへの参加 |
| 48 | (株)岩手県北バス　小岩井雪まつり留学生招待 | 2月14日（水） | － | 24 | 中国、ナイジェリア、モンゴル、マレーシア | 盛岡近郊の観光地の観光と調査協力（アンケート） |
| 49 | 岩手県商工労働観光部産業経済交流課　三陸基金 | 2月22日（木） | － | 2 | ナイジェリア、韓国、 | 三陸地域におけるIoTの実証サービスの体験・検証・調査協力 |
| 50 | 盛岡市立青山小学校 | 2月5日（月） | 92 | 4 | 韓国、ロシア、フランス、マレーシア | 児童に自国文化紹介や交流 |
| 51 | フレンズ国際愛児園 | 2月27日（火） | 28名 | 1 | インドネシア | 保育園児に自国文化紹介や交流 |
| 52 | ㈱岩手県北観光宮古支店 | 3月6日（火）～8日（木） | － | 5 | | 盛岡、八幡平、宮古エリアの自然、・文化・歴史・食の体験を通したモニタリング |
| | | | 計 | 361 | | |

# 官民協働海外留学支援制度 ～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～
# 岩手大学の採択状況

平成26年度 第1期）

| 申請コース | 申請数 | 書面審査合格者 | 最終合格者 |
|---|---|---|---|
| 自然科学系、複合・融合系人材コース | 4名 | 3名 | 2名 |
| 振興国コース | 1名 | 0名 | 0名 |
| 世界トップレベル大学等コース | 1名 | 0名 | 0名 |
| 多様性人材コース | 3名 | 0名 | 0名 |
| 計 | 9名 | 3名 | 2名 |

平成27年度前期 第2期）

| 申請コース | 申請数 | 書面審査合格者 | 最終合格者 |
|---|---|---|---|
| 自然科学系、複合・融合系人材コース | 2名 | 2名 | 1名 |
| 振興国コース | 1名 | 0名 | 0名 |
| 世界トップレベル大学等コース | 1名 | 0名 | 0名 |
| 多様性人材コース | 0名 | 0名 | 0名 |
| 計 | 4名 | 2名 | 1名 |

平成27年度後期 第3期）

| 申請コース | 申請数 | 書面審査合格者 | 最終合格者 |
|---|---|---|---|
| 自然科学系、複合・融合系人材コース | 3名 | 3名 | 1名 |
| 振興国コース | 0名 | 0名 | 0名 |
| 世界トップレベル大学等コース | 1名 | 0名 | 0名 |
| 多様性人材コース | 1名 | 0名 | 0名 |
| 計 | 5名 | 3名 | 1名 |

平成28年度前期 第4期）

| 申請コース | 申請数 | 書面審査合格者 | 最終合格者 |
|---|---|---|---|
| 理系、複合・融合系人材コース | 2名 | 1名 | 0名 |
| 振興国コース | 0名 | 0名 | 0名 |
| 世界トップレベル大学等コース | 0名 | 0名 | 0名 |
| 多様性人材コース | 0名 | 0名 | 0名 |
| 計 | 2名 | 1名 | 0名 |

平成28年度後期 第5期）

| 申請コース | 申請数 | 書面審査合格者 | 最終合格者 |
|---|---|---|---|
| 理系、複合・融合系人材コース | 5名 | 3名 | 2名 |
| 振興国コース | 0名 | 0名 | 0名 |
| 世界トップレベル大学等コース | 0名 | 0名 | 0名 |
| 多様性人材コース | 0名 | 0名 | 0名 |
| 計 | 5名 | 3名 | 2名 |

平成29年度前期 第6期）

| 申請コース | 申請数 | 書面審査合格者 | 最終合格者 |
|---|---|---|---|
| 理系、複合・融合系人材コース | 1名 | 1名 | 1名 |
| 振興国コース | 0名 | 0名 | 0名 |
| 世界トップレベル大学等コース | 0名 | 0名 | 0名 |
| 多様性人材コース | 1名 | 1名 | 1名 |
| 計 | 2名 | 2名 | 2名 |

平成29年度後期 第7期）

| 申請コース | 申請数 | 書面審査合格者 | 最終合格者 |
|---|---|---|---|
| 理系、複合・融合系人材コース | 3名 | 2名 | 1名 |
| 振興国コース | 0名 | 0名 | 0名 |
| 世界トップレベル大学等コース | 0名 | 0名 | 0名 |
| 多様性人材コース | 0名 | 0名 | 0名 |
| 地域人材コース | 5名 | 5名 | 5名 |
| 計 | 8名 | 7名 | 6名 |